令和４年度
北九州市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
報告書

令和５年３月

北九州市保健福祉局

目 次

第１章　調査の概要 1

１．　調査の目的..... 1
２．　調査対象者..... 1
３．　調査件数..... 1
４．　調査方法..... 1
５．　調査項目..... 1
６．　調査実施期間..... 1
７．　回収状況..... 1
８．　調査の企画・実施等..... 1
９．　集計・分析上の注意事項..... 2

第２章　回答者の属性 3

１．　性別..... 3
２．　年齢..... 3
３．　家族構成..... 4
４．　暮らし向き..... 4

第３章　評価項目別の結果 5

１．　生活機能..... 5
（１）運動機能の状況..... 5
（２）身長・体重の状況..... 7
（３）口腔機能の状況..... 9
（４）閉じこもり傾向..... 13
（５）認知機能（物忘れ）の状況..... 19
２．　うつの傾向..... 21
３．　転倒リスクの状況..... 23
４．　手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）..... 25

第４章　日常生活 27

１．　交流の場への参加状況..... 27
（１）ボランティアのグループへの参加..... 27
（２）スポーツ関係のグループやクラブへの参加..... 29
（３）趣味関係のグループへの参加..... 31
（４）学習・教養サークルへの参加..... 33

（５）通いの場への参加 35
（６）老人クラブへの参加 37
（７）町内会・自治会への参加 39
（８）収入のある仕事への参加 41
（９）地域活動への参加意向 43
（１０）地域活動の企画・運営への参加意向 45
２．　たすけあいについて 47
（１）心配事や愚痴を聞いてくれる人 47
（２）心配事や愚痴を聞いてあげる人 49
（３）看病や世話をしてくれる人 51
（４）看病や世話をしてあげる人 53
３．　認知症に係る相談 55
（１）自身や家族の認知症の症状 55
（２）認知症に関する相談窓口の把握 57

第５章　健康・疾病 59

１．　疾病 59
（１）高血圧 60
（２）脳卒中 62
（３）心臓病 64
（４）糖尿病 66
（５）筋骨格の病気 68
（６）がん 70
２．　主観的健康感 72
（１）健康状態 72
（２）幸福感 74

第６章　介護 76

１．　介護・介助の状況 76

【参考】前回比較（一般高齢者・要支援高齢者別、性別、年齢別） 78

【参考】調査票 98

第１章　調査の概要

１．調査の目的

要介護状態になる前の高齢者について、
・要介護状態になる各種リスクの発生状況（心身の状態など）
・各種リスクに影響を与える日常生活の状況（生活習慣など）
などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的とする。

２．調査対象者

令和4年10月1日時点で市内在住の65歳以上の一般高齢者及び要支援者。

３．調査件数

10，000件
（一般高齢者：5，000件
要支援者：5，000件）

４．調査方法

郵送により調査票を配布し、回答後に郵送により返送する郵送法。

５．調査項目

厚生労働省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」調査票の項目を使用。
※生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い体制づくり、介護予防の推進等のために必要な社会資源の把握に資する項目35問。

６．調査実施期間

令和4年12月12日（月）～令和5年1月10日（火）

７．回収状況

回答数：6，121件（回答率：61．2％）
（一般高齢者：3，050件（回答率：61．0％）
要支援者：3，071件（回答率：61．4％））

８．調査の企画・実施等

調査企画及び分析：北九州市保健福祉局介護保険課
調査実施及び集計：株式会社サーベイリサーチセンター

９．集計・分析上の注意事項

・比率は小数点第２位を四捨五入しているため、合計が 100％にならない場合がある。
・複数回答の設問については、合計が 100％を超える場合がある。
・クロス集計表の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。
・基本的に日常生活圏域ごとに集計・分析している。

※日常生活圏域とは、住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件や人口、交通事情、その他既存施設やサービスの整備状況を踏まえ設定されている区域であり、北九州市においては以下の 24 圏域が設定されている。

表 1-1 北九州市の日常生活圏域

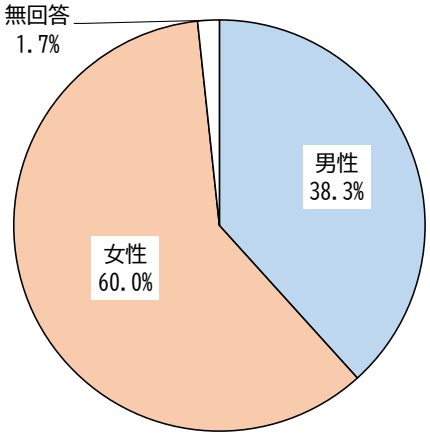
日常生活圏域	小　学　校　区（目安）
門司 1	大積、白野江、柄杓田、松ケ江北、松ケ江南
門司 2	小森江東、田野浦、港が丘、門司海青、門司中央
門司 3	小森江西、大里東、大里南、大里柳、西門司、萩ケ丘、藤松
小倉北 1	足原、霧丘（小倉南区を除く）、桜丘、寿山、富野
小倉北 2	藍島、足立、貴船、小倉中央、三郎丸、中島、城野（小倉南区を除く）
小倉北 3	到津、井堀、中井、西小倉、日明、高見（八幡東区を除く）
小倉北 4	泉台、今町、清水、南丘（小倉南区を除く）、南小倉
小倉南 1	朽網、曽根、曽根東、田原、貫、東朽網
小倉南 2	葛原、高蔵、沼、湯川、吉田
小倉南 3	北方、城野（小倉北区を除く）、横代、若園、霧丘（小倉北区を除く）
小倉南 4	企救丘、広徳、志井、徳力、長尾、守恒、南丘（小倉北区を除く）
小倉南 5	市丸、合馬、長行、新道寺、すがお
若松 1	赤崎、小石、深町、藤木、若松中央、くきのうみ
若松 2	青葉、江川、鴨生田、高須、花房、二島、ひびきの（八幡西区を除く）
八幡東 1	祝町、枝光、高槻、高見（小倉北区を除く）、槻田、ひびきが丘
八幡東 2	大蔵、河内、皿倉、花尾（八幡西区を除く）、八幡
八幡西 1	赤坂、浅川、医生丘、折尾東、本城、光貞、ひびきの（若松区を除く）
八幡西 2	永犬丸、永犬丸西、折尾西、則松、八枝
八幡西 3	青山、穴生、熊西、竹末、萩原、引野
八幡西 4	黒畑、黒崎中央、筒井、鳴水、花尾（八幡東区を除く）
八幡西 5	大原、上津役、塔野、中尾、八児
八幡西 6	池田、香月、楠橋、木屋瀬、千代、星ヶ丘
戸畑 1	あやめが丘、戸畑中央、中原
戸畑 2	一枝、大谷、鞘ケ谷、天籟寺、牧山

第２章　回答者の属性

１．性別

	回答者数	構成比率
男性	２，３４５	３８．３％
女性	３，６７１	６０．０％
無回答	１０５	１．７％
全体	６，１２１	１００％

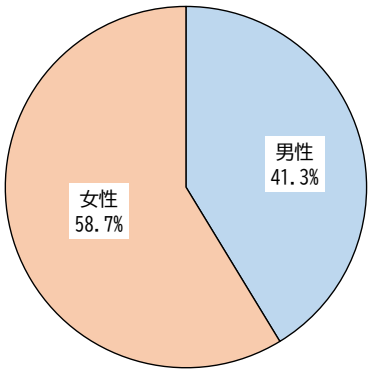
図 2-1　性別



【参考】６５歳以上の北九州市民における男女の割合
（出典：令和 4 年 9 月 30 日時点の北九州市住民基本台帳）

	人数	構成比率
男性	１１９，９５４	４１．３％
女性	１７０，５９２	５８．７％
全体	２９０，５４６	１００％

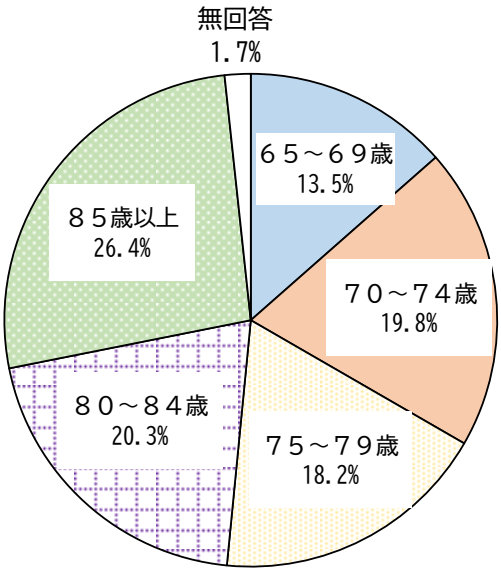
図 2-1-1　性別（北九州市全体）



２．年齢

	回答者数	構成比率	配布数
６５～６９歳	８２８	１３．５％	１，４２３
７０～７４歳	１，２１０	１９．８％	２，０２８
７５～７９歳	１，１１７	１８．２％	１，８１４
８０～８４歳	１，２４３	２０．３％	２，０４９
８５歳以上	１，６１８	２６．４％	２，６８６
無回答	１０５	１．７％	
全体	６，１２１	１００％	１０，０００

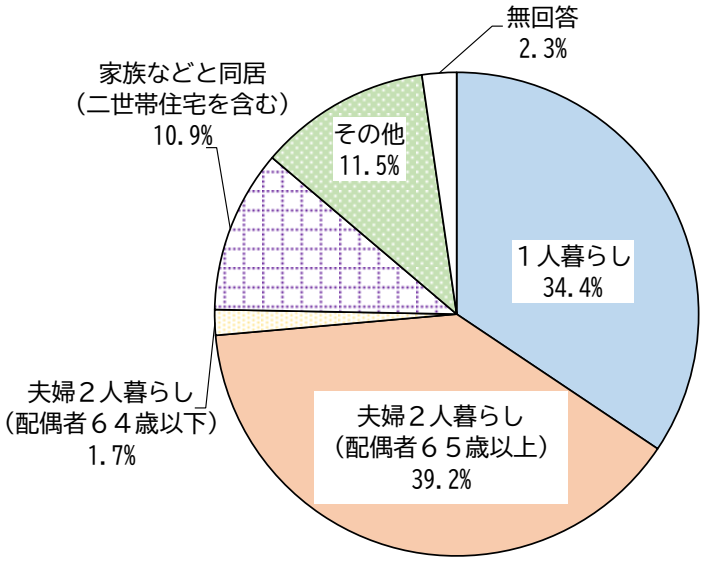
図 2-2　年齢



３．家族構成

	回答者数	構成比率
１人暮らし	２，１０３	３４．４％
夫婦２人暮らし（配偶者６５歳以上）	２，３９９	３９．２％
夫婦２人暮らし（配偶者６４歳以下）	１０４	１．７％
家族などと同居（二世帯住宅を含む）	６６６	１０．９％
その他	７０６	１１．５％
無回答	１４３	２．３％
全体	６，１２１	１００％

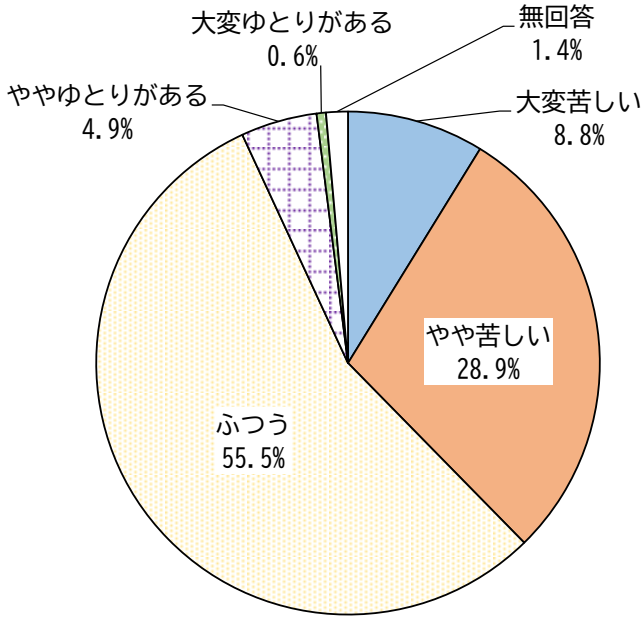
図 2-3　家族構成



４．暮らし向き

	回答者数	構成比率
大変苦しい	５３８	８．８％
やや苦しい	１，７６９	２８．９％
ふつう	３，３９７	５５．５％
ややゆとりがある	２９９	４．９％
大変ゆとりがある	３４	０．６％
無回答	８４	１．４％
全体	６，１２１	１００％

図 2-4　暮らし向き



第３章　評価項目別の結果

１．生活機能

（１）運動機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-1 に示した５つの設問に対する回答結果により、運動機能の低下のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（3 点以上)」の割合は、市全体でみると、40.2%となっている。

一般・要支援別をみると、一般高齢者が 15.2%、要支援高齢者が 65.0%となっており、要支援高齢者が 49.8 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 30.2%、女性が 46.4%となっており、女性が 16.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当（3 点以上)」の割合が高くなっており、85 歳以上では 62.8%となっている。また、前期高齢者が 18.7%、後期高齢者が 51.0%と、後期高齢者が 32.3 ポイント高くなっている。

図 3-1-①　運動機能の状況　【全域】

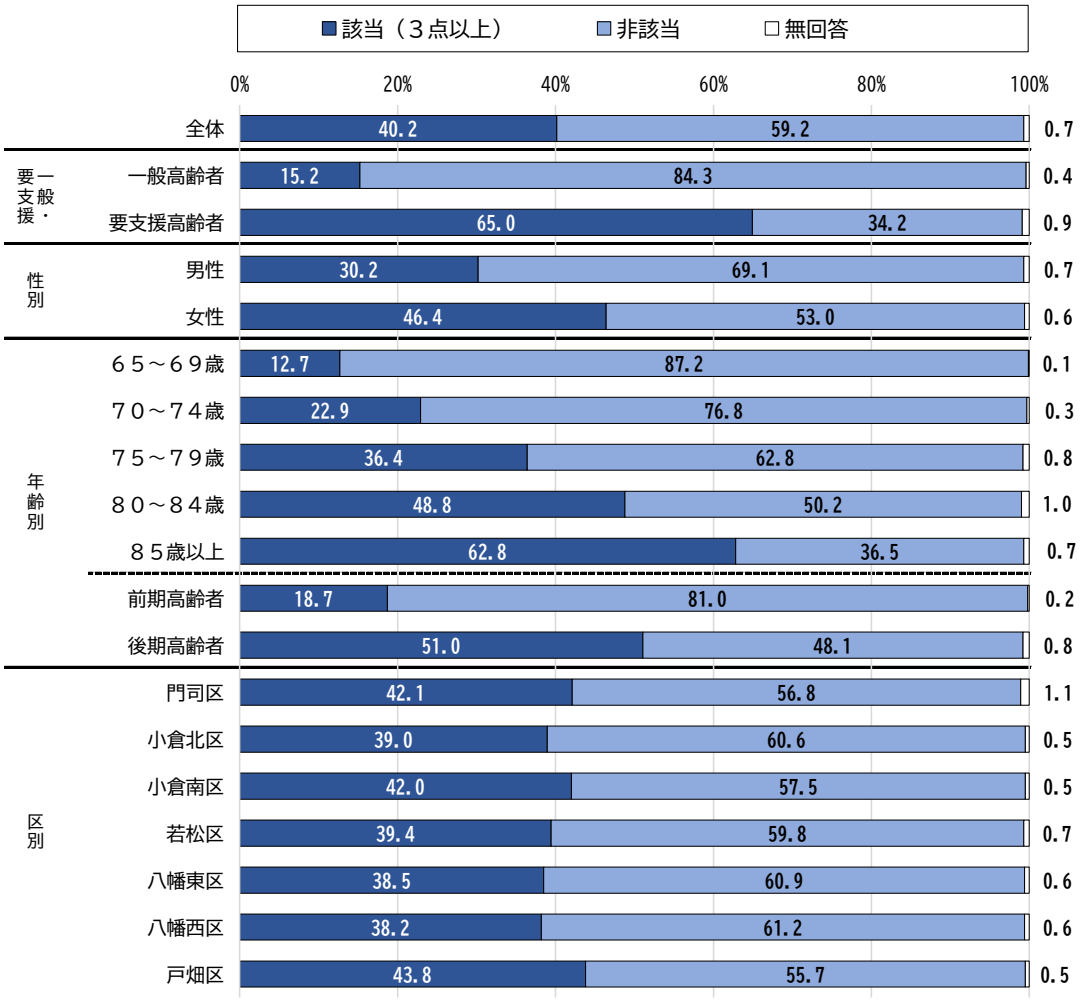


図 3-1-②　運動機能の状況　【日常生活圏域別】

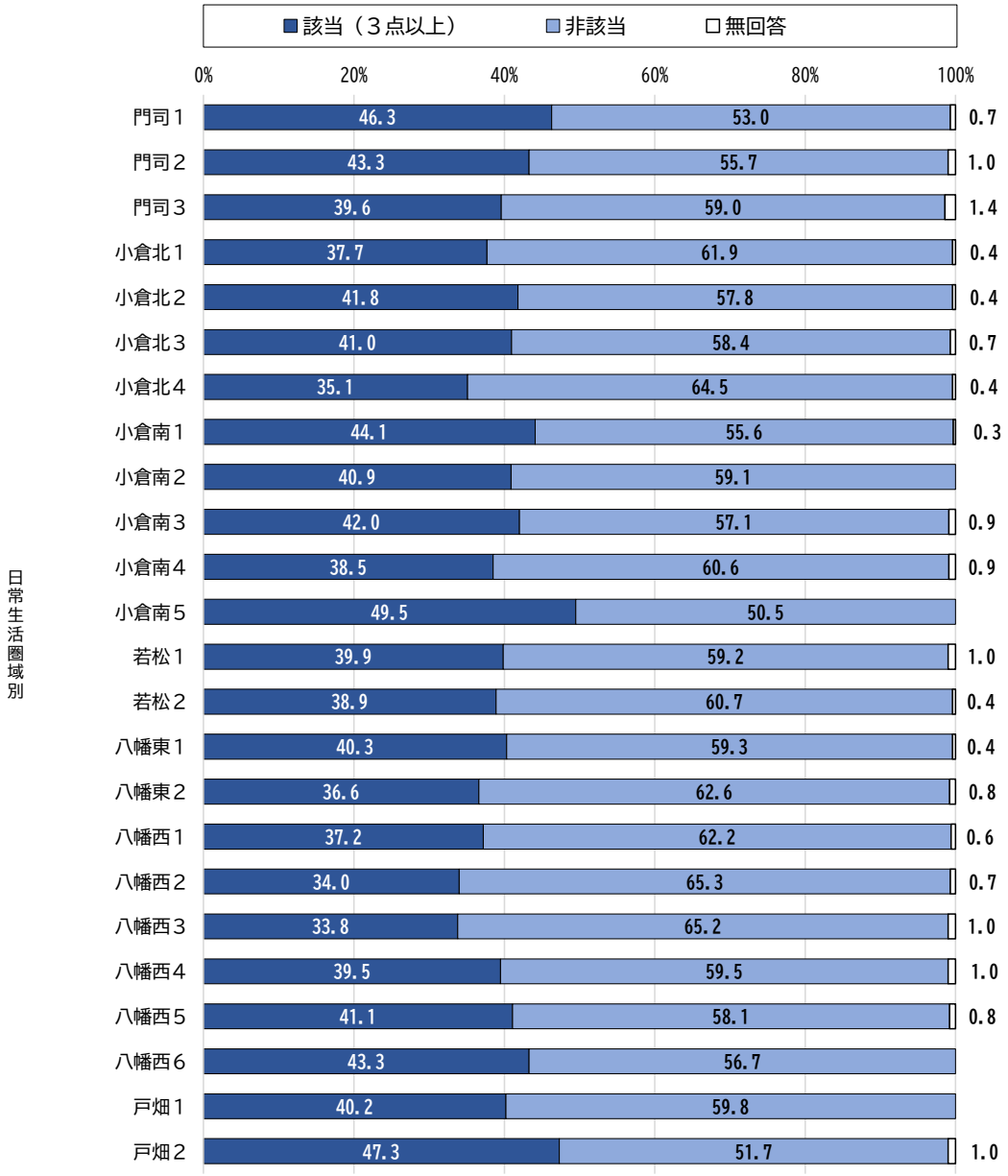


表 3-1 評価に用いた設問と評価基準（運動機能の状況）

設問		配点		評価基準
問 2-Q1	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	できない	（１点）	３点以上が リスク該当者
問 2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない	（１点）	
問 2-Q3	15 分位続けて歩いていますか	できない	（１点）	
問 2-Q4	過去１年間に転んだ経験がありますか	何度もある １度ある	（１点）	
問 2-Q5	転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である やや不安である	（１点）	

（２）身長・体重の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-2 に示した設問に対する回答結果をもとに算出したＢＭＩにより、低栄養のリスクについて評価を行った。

ＢＭＩが 18.5 以下である「リスク該当が疑われる」の割合は、市全体でみると、9.4%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 8.3%、要支援高齢者が 10.5%となっており、要支援高齢者がやや高くなっている。

性別にみると、男性が 7.2%、女性が 10.8%となっており、女性が 3.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、85 歳以上が 10.6%とやや高くなっている。また、前期高齢者が 8.9%、後期高齢者が 9.6%となっている。

図 3-2-①　身長・体重の状況　【全域】

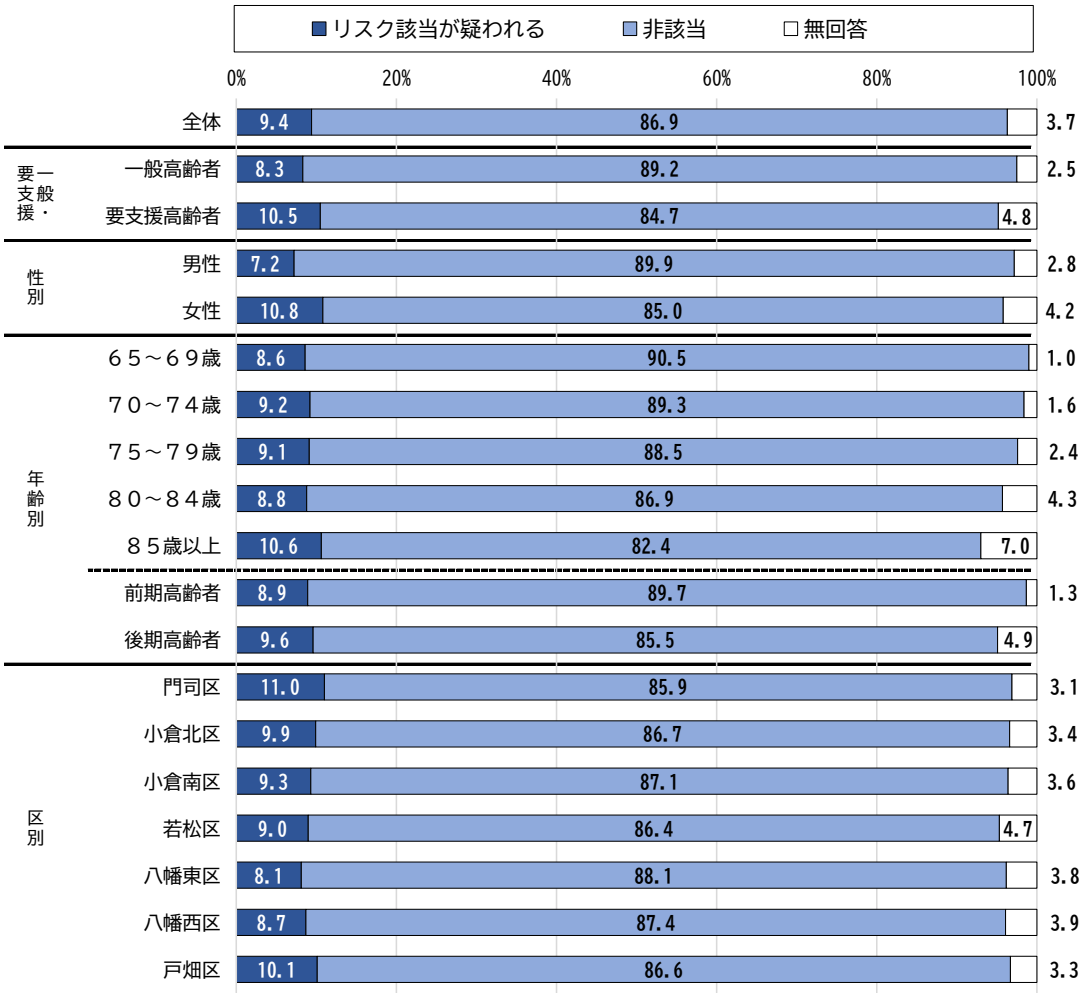


図 3-2-②　身長・体重の状況　【日常生活圏域別】

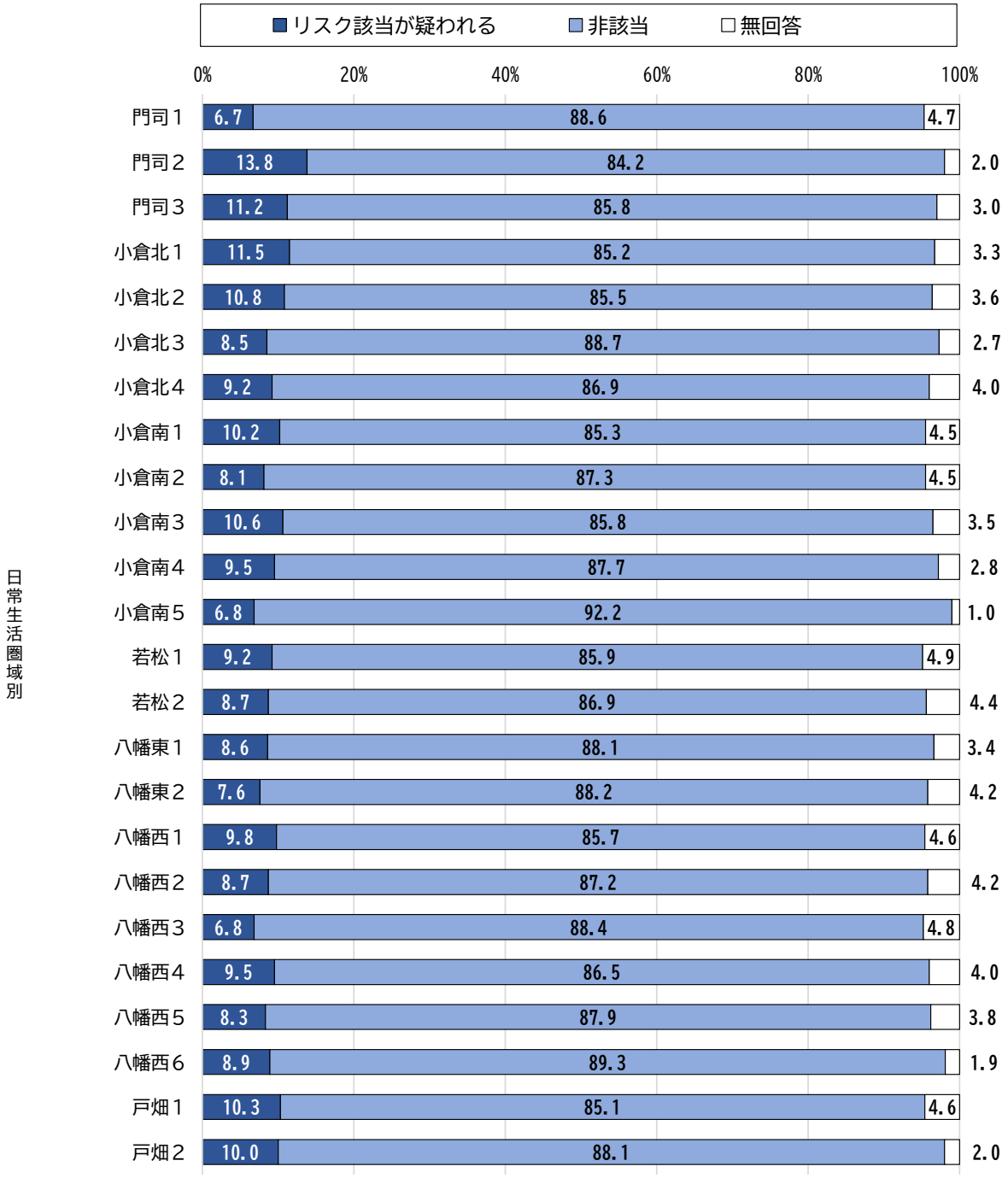


表 3-2 評価に用いた設問と評価基準（身長・体重の状況）

設問		評価基準
問 3-Q1	身長・体重 （計算式）ＢＭＩ＝体重［ｋｇ］／（身長［m］×身長［m］）	ＢＭＩ≦18.5 が リスク該当が疑われる者

（３）口腔機能の状況

ア　咀嚼機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-3 に示した設問に対する回答結果により、咀嚼機能の低下リスクについて評価を行った。

リスクの疑いがあることを示す「該当」の割合は、市全体でみると、45.2%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 35.7%、要支援高齢者が 54.7%となっており、要支援高齢者が 19.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 41.9%、女性が 47.6%であり、女性が 5.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当」の割合が高くなっており、80 歳以上が 5 割以上と高くなっている。また、前期高齢者が 33.6%、後期高齢者が 51.4%となっており、後期高齢者が 17.8 ポイント高くなっている。

図 3-3-①　咀嚼機能の低下　【全域】

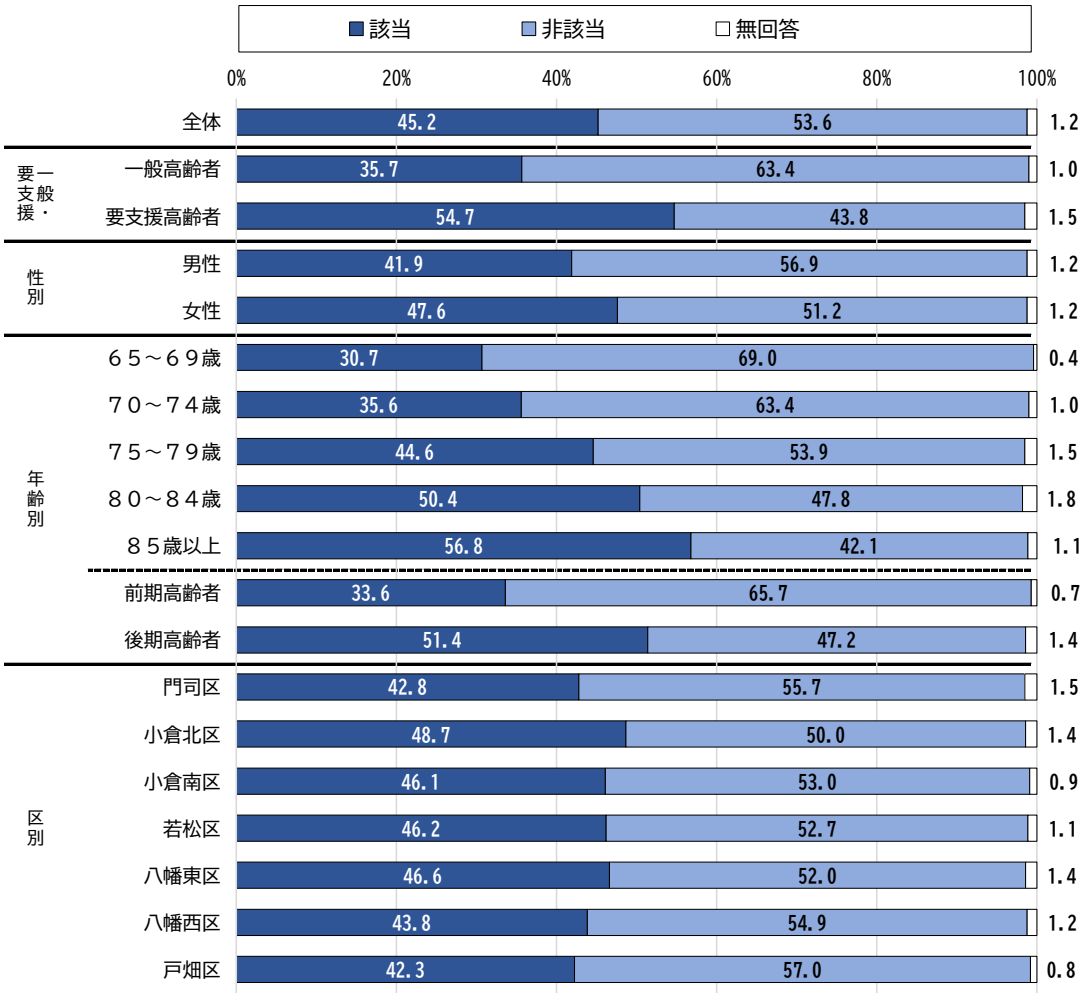


図 3-3-②　咀嚼機能の低下　【日常生活圏域別】

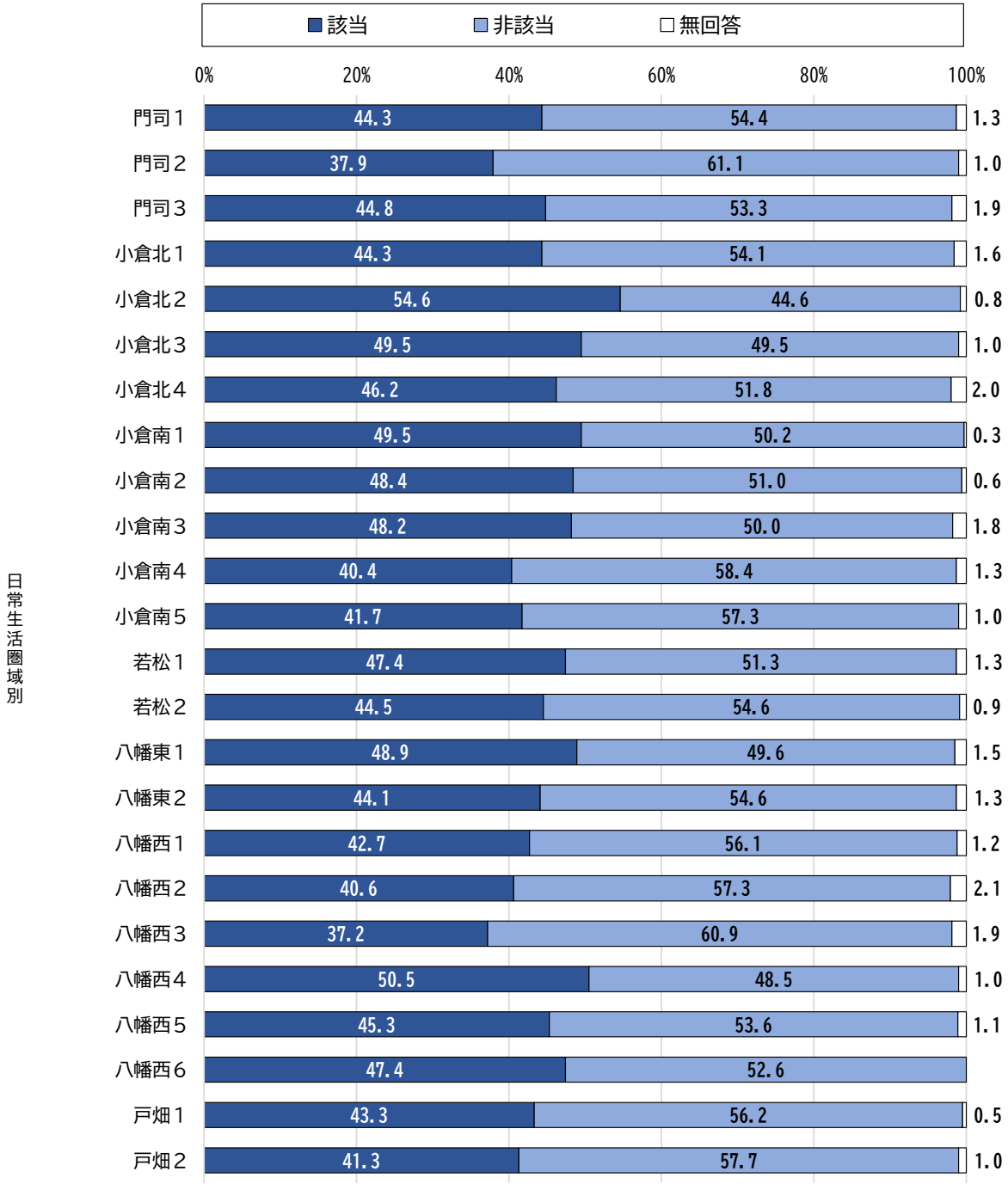


表 3-3 評価に用いた設問と評価基準（咀嚼機能の低下）

設問		配点	評価基準
問 3-Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい　（１点）	１点以上が リスク該当者

イ　義歯の有無と歯数

問３-Ｑ３　歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。

自分の歯の数と入れ歯の利用状況を尋ねたところ、市全体でみると、「自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が 43.8%で最も高く、次いで「自分の歯は２０本以上、入れ歯の利用なし」27.0%、「自分の歯は２０本以上、かつ入れ歯を利用」14.5%、「自分の歯は１９本以下、入れ歯の利用なし」11.0%の順となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者では「自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用」が 38.3%と最も高く、要支援高齢者でも「自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用」が 49.4%と最も高くなっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、『自分の歯が１９本以下』の割合が高くなり、『自分の歯が２０本以上』の割合が低くなっている。また、前期高齢者の『自分の歯が１９本以下』が 45.6%、後期高齢者の『自分の歯が１９本以下』が 59.8%となっており、後期高齢者が 14.2 ポイント高くなっている。

図 3-4-①　歯の数と入れ歯の利用状況　【全域】

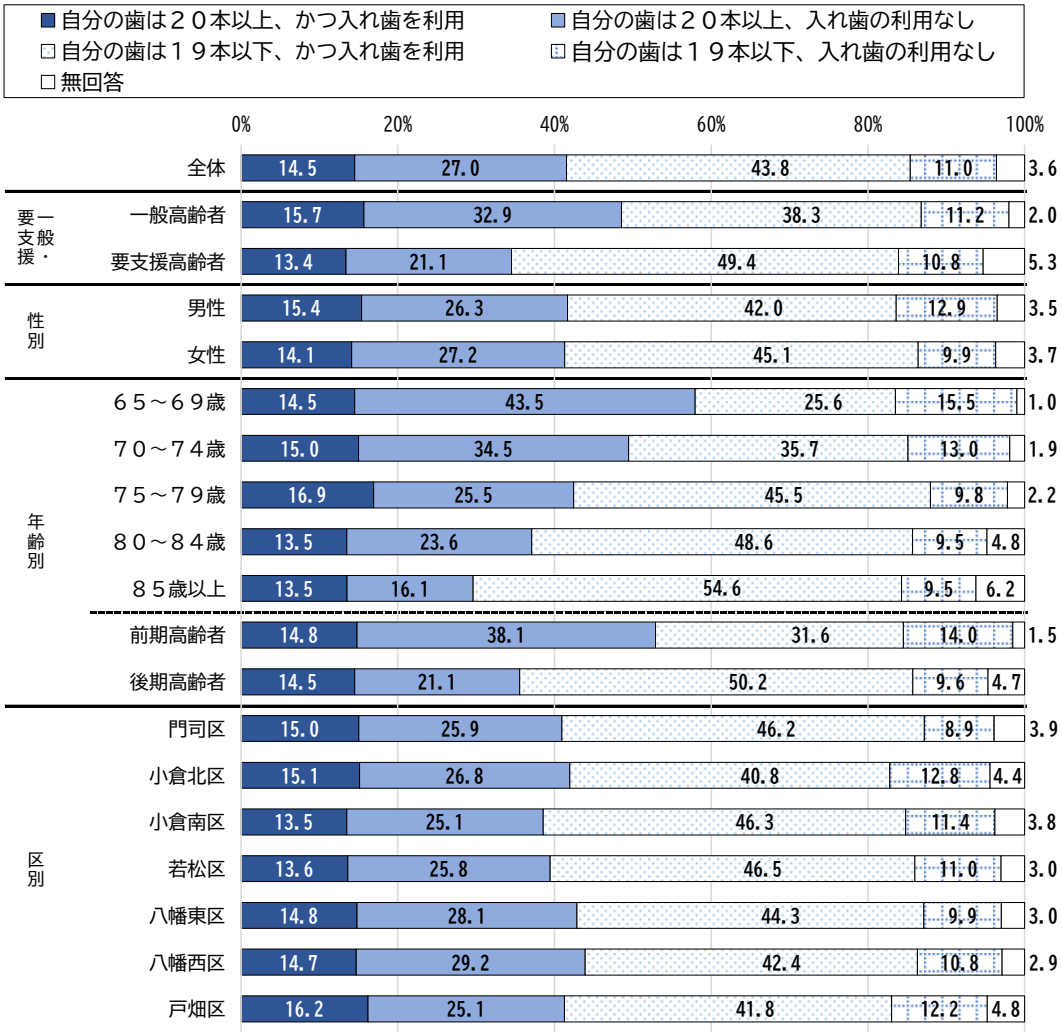
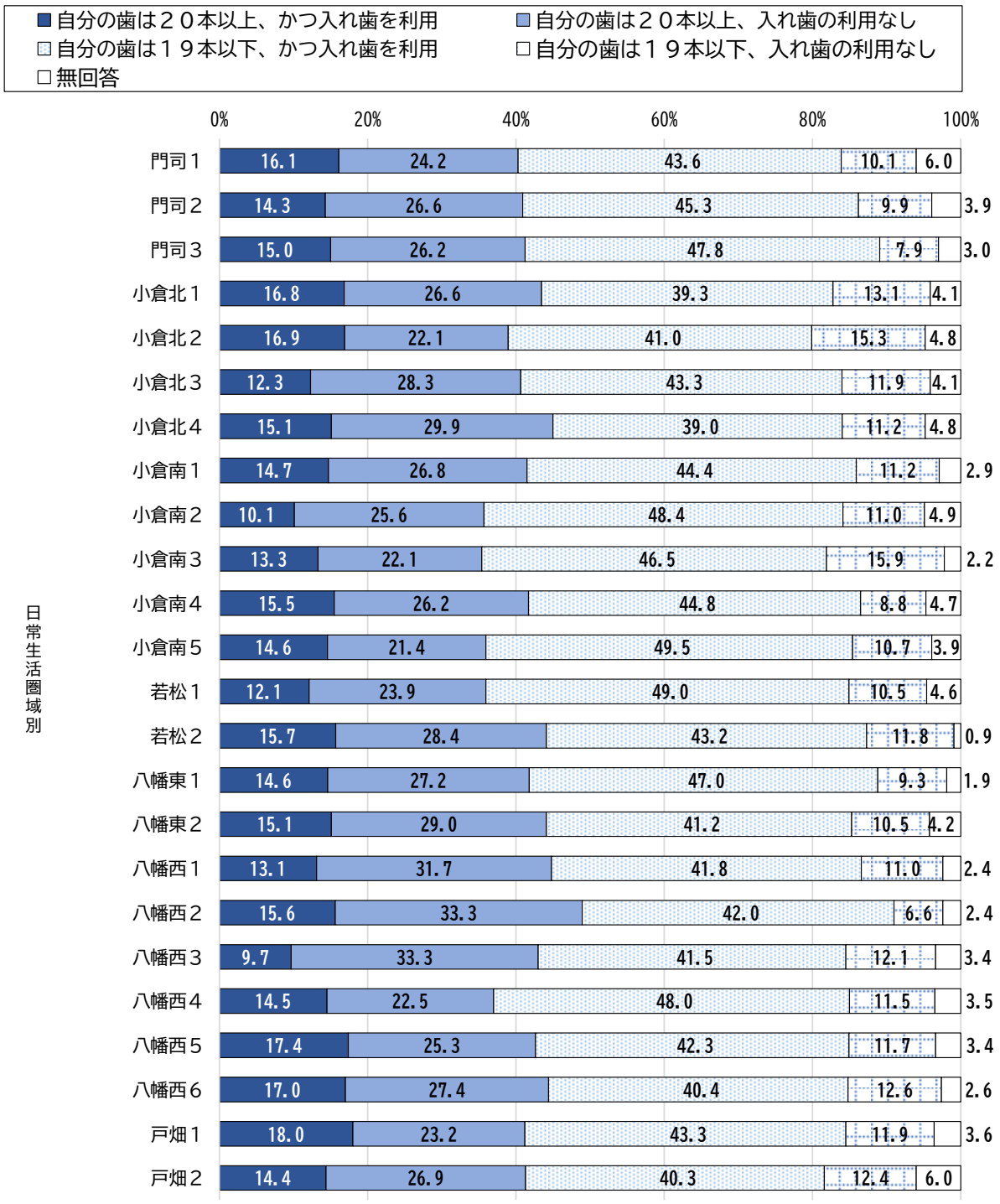


図 3-4-②　歯の数と入れ歯の利用状況　【日常生活圏域別】



（４）閉じこもり傾向

ア　外出の機会

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-5 に示した設問に対する回答結果により、閉じこもりになるリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（1 点以上）」の割合は、市全体でみると、29.1%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 17.1%、要支援高齢者が 40.9%となっており、要支援高齢者が 23.8 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 24.6%、女性が 31.7%であり、女性が 7.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当（1 点以上）」の割合が高くなっており、85 歳以上が 44.7%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 16.3%、後期高齢者が 35.4%となっており、後期高齢者が 19.1 ポイント高くなっている。

図 3-5-①　閉じこもり傾向　　【全域】

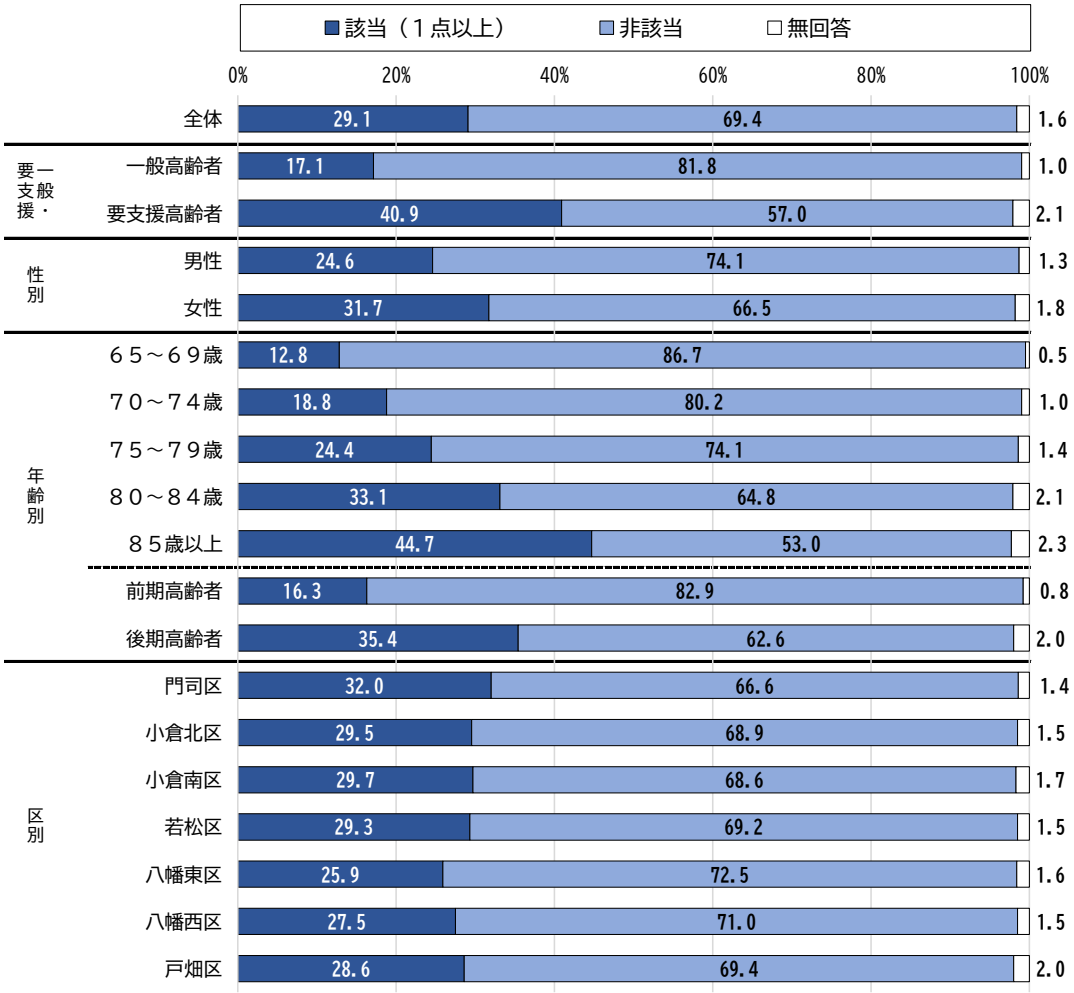


図 3-5-②　閉じこもり傾向　　【日常生活圏域別】

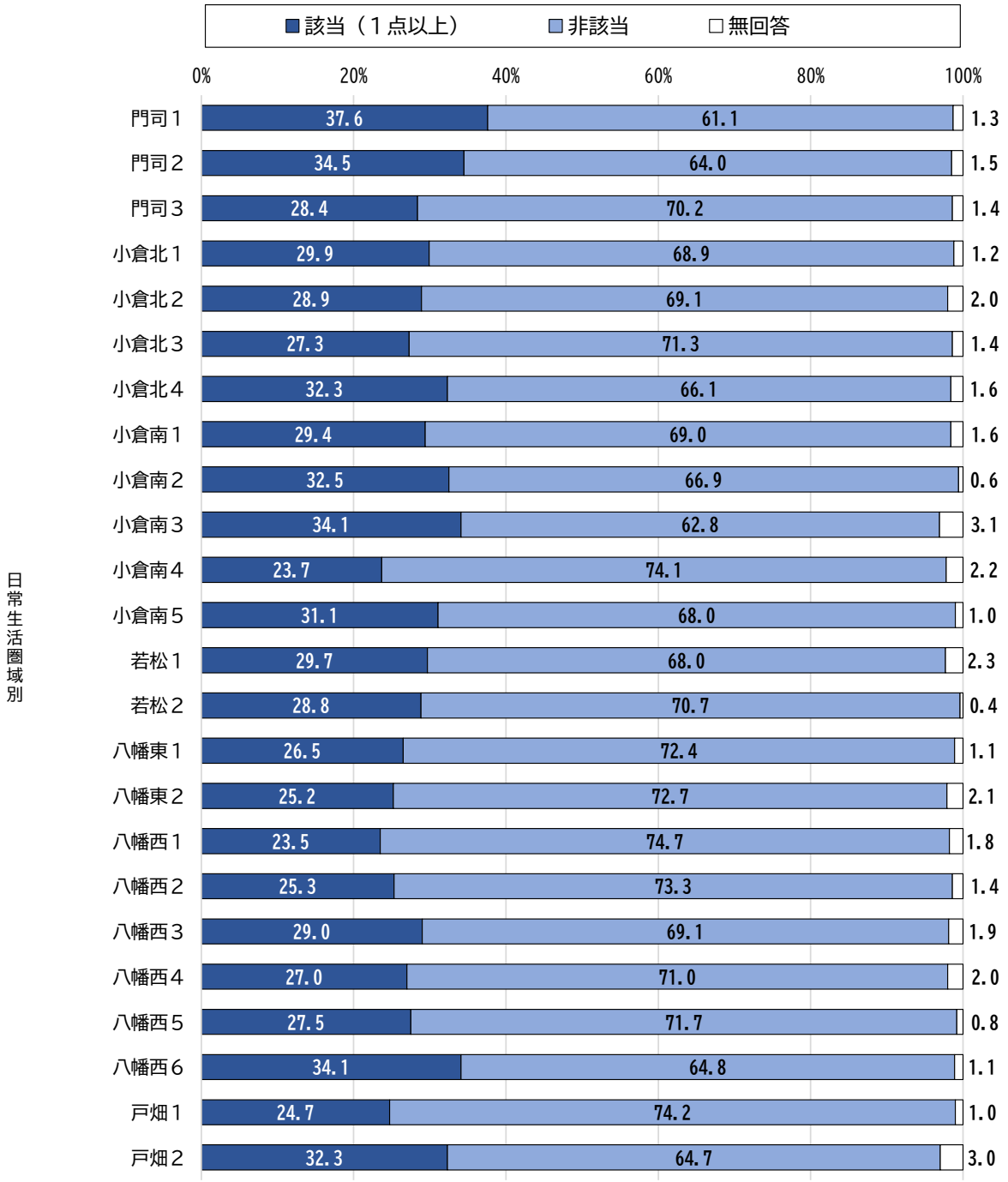


表 3-5 評価に用いた設問と評価基準（閉じこもり傾向）

設問		配点	評価基準
問 2-Q6	週に１回以上は外出していますか	ほとんど外出しない 週１回　（１点）	１点以上が リスク該当者

イ　外出回数の減少

問２-Ｑ７　昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかを尋ねたところ、市全体でみると、「減っている」と回答した割合が 75.7%となっている。

「減っている」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 63.4%、要支援高齢者が 87.8%となっており、要支援高齢者が 24.4 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 69.8%、女性が 79.1%となっており、女性が 9.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、「減っている」の割合が高くなり、85 歳以上が 88.0%で最も高くなっている。 また、前期高齢者が 62.7%、後期高齢者が 82.0%となっており、後期高齢者が 19.3 ポイント高くなっている。

図 3-6-①　外出回数の減少　【全域】

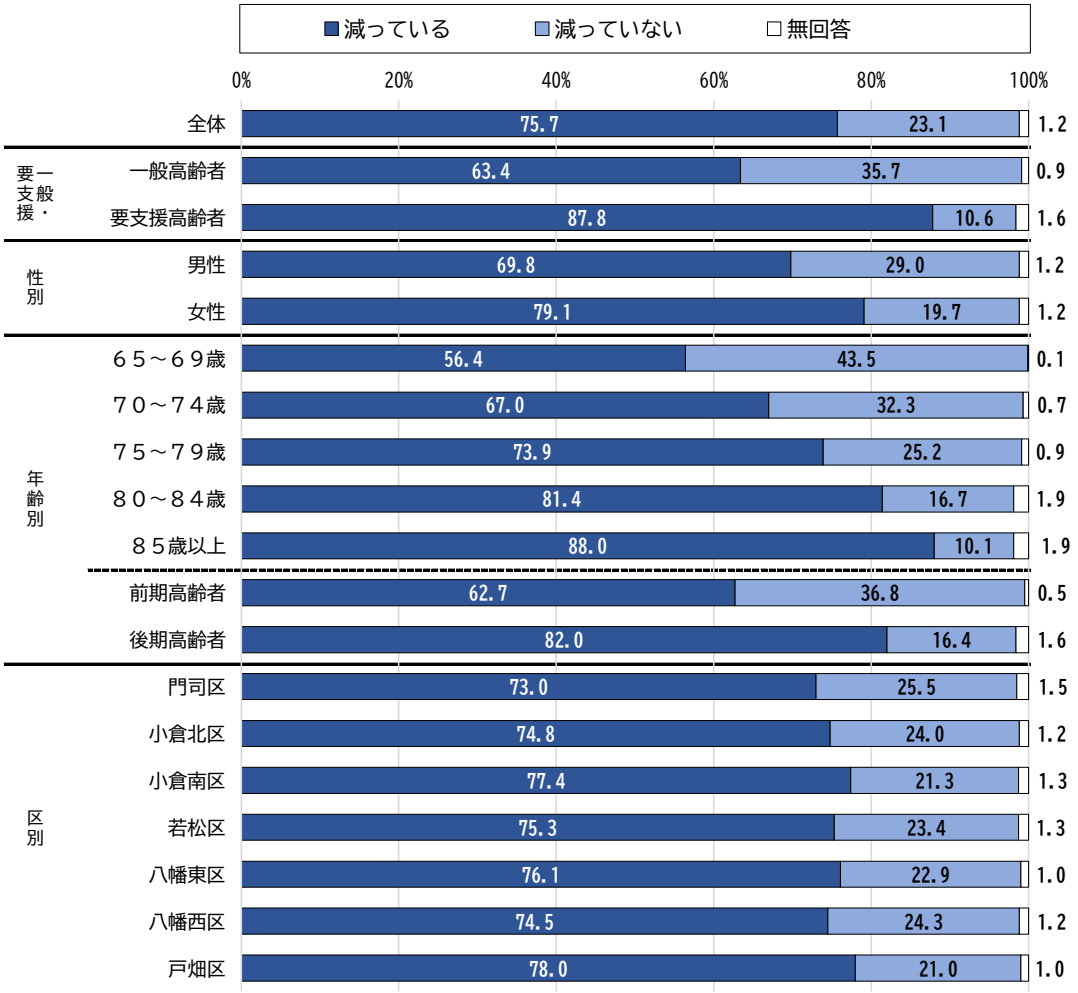
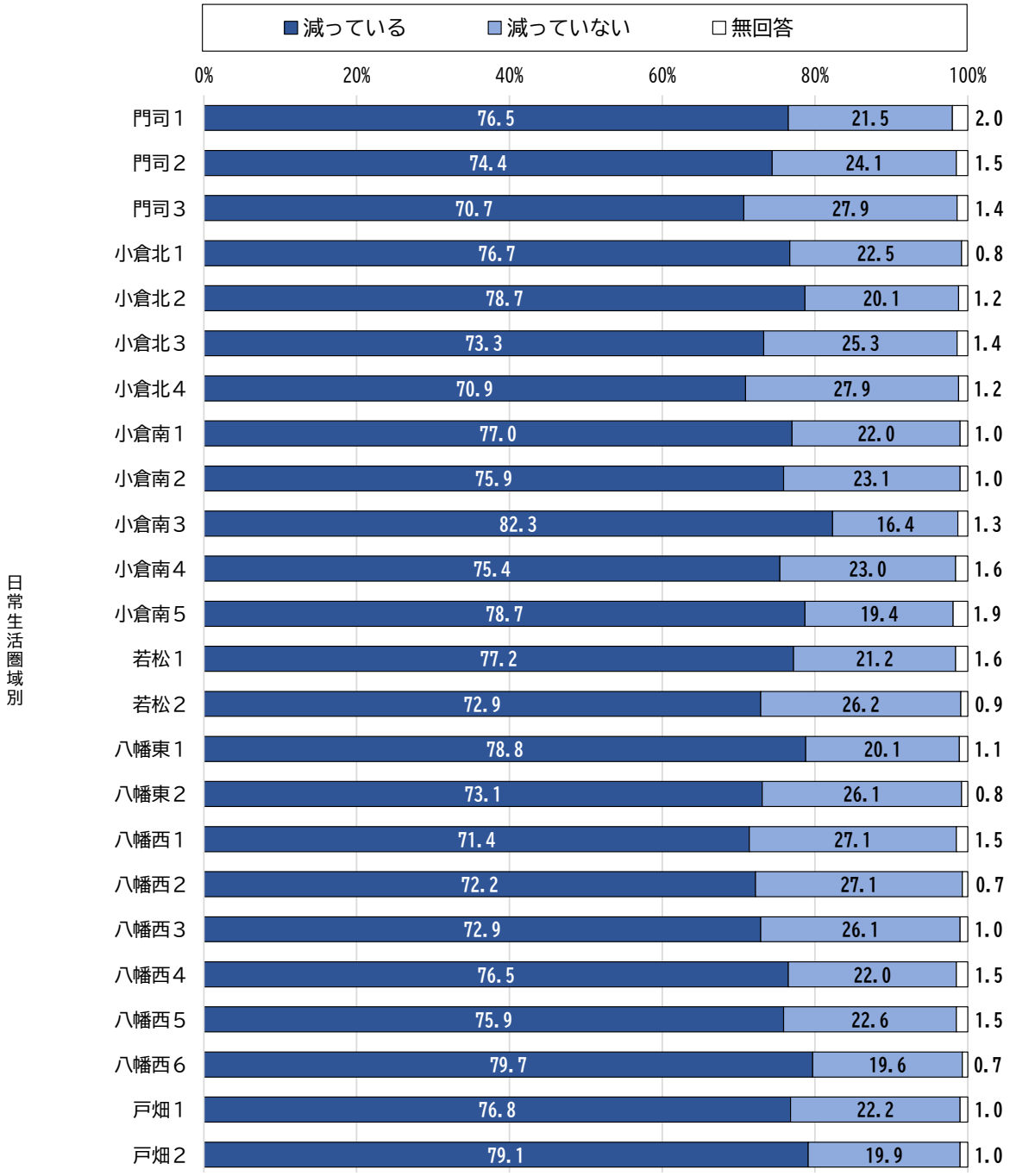


図 3-6-②　外出回数の減少　【全域】



ウ　食事をともにする機会

問３-Ｑ４　どなたかと食事をともにする機会はありますか。

誰かと食事をともにする機会があるかどうか尋ねたところ、「ある」と回答した割合を市全体でみると、83.6%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 88.4%、要支援高齢者が 78.7%となっており、一般高齢者が 9.7 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 81.7%、女性が 84.6%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、65～69 歳（87.5%）、70～74 歳（88.4%）が９割弱と他の年齢層に比べて高くなっている。また、前期高齢者が 88.0%、後期高齢者が 81.2%となっており、前期高齢者が 6.8 ポイント高くなっている。

図 3-7-①　食事をともにする機会　【全域】

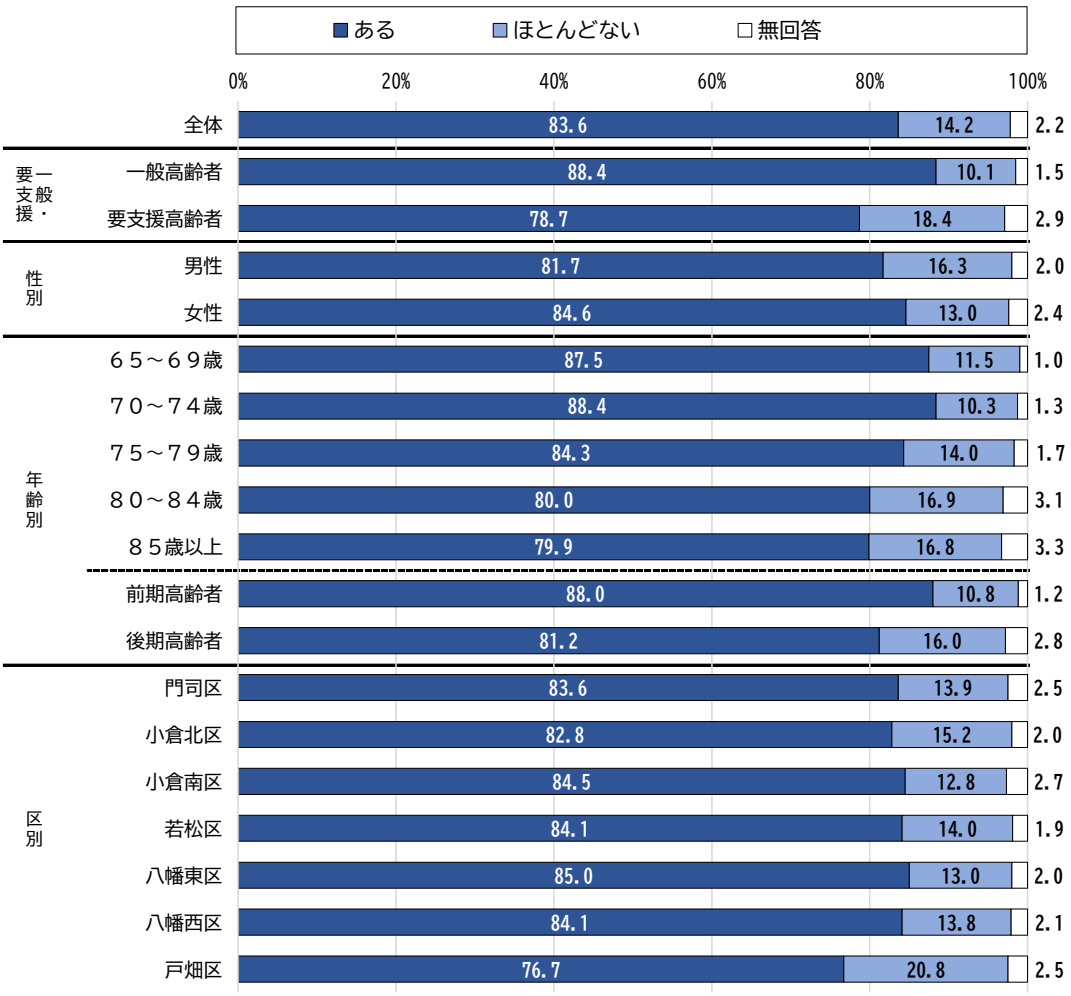
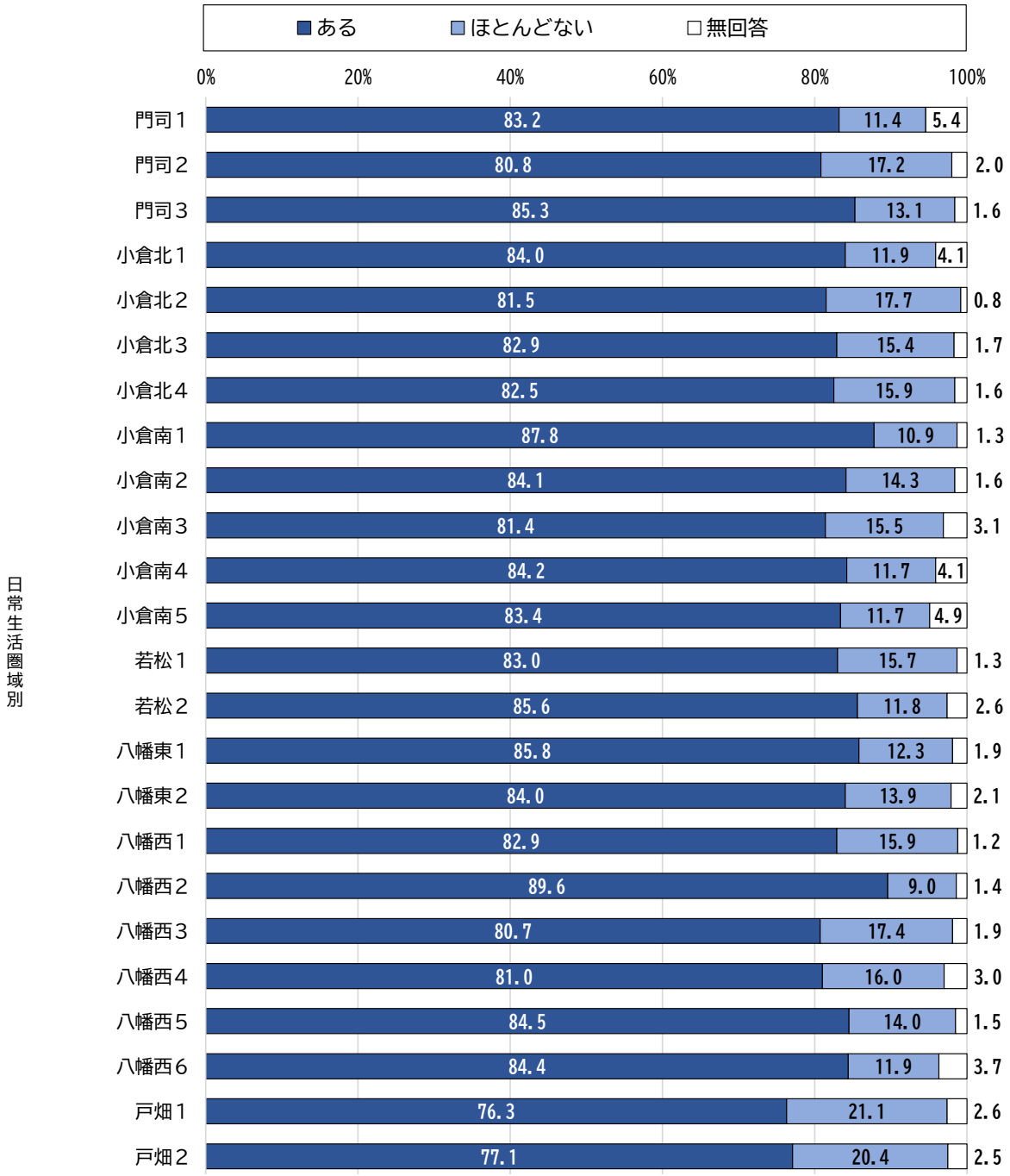


図 3-7-②　食事をともにする機会　【日常生活圏域別】



（５）認知機能（物忘れ）の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-8 に示した設問に対する回答結果により、認知機能の低下（物忘れ）のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当」の割合は、市全体でみると、49.2%となっている。

一般・要支援高齢者でみると、一般高齢者が 40.6%、要支援高齢者が 57.8%となっており、要支援高齢者が 17.2 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 46.7%、女性が 50.7%となっており、女性が 4.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当」の割合が高くなっており、85 歳以上が 60.7%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 37.9%、後期高齢者が 54.9%となっており、後期高齢者が 17.0 ポイント高くなっている。

図 3-8-①　認知機能の低下（物忘れ）　【全域】

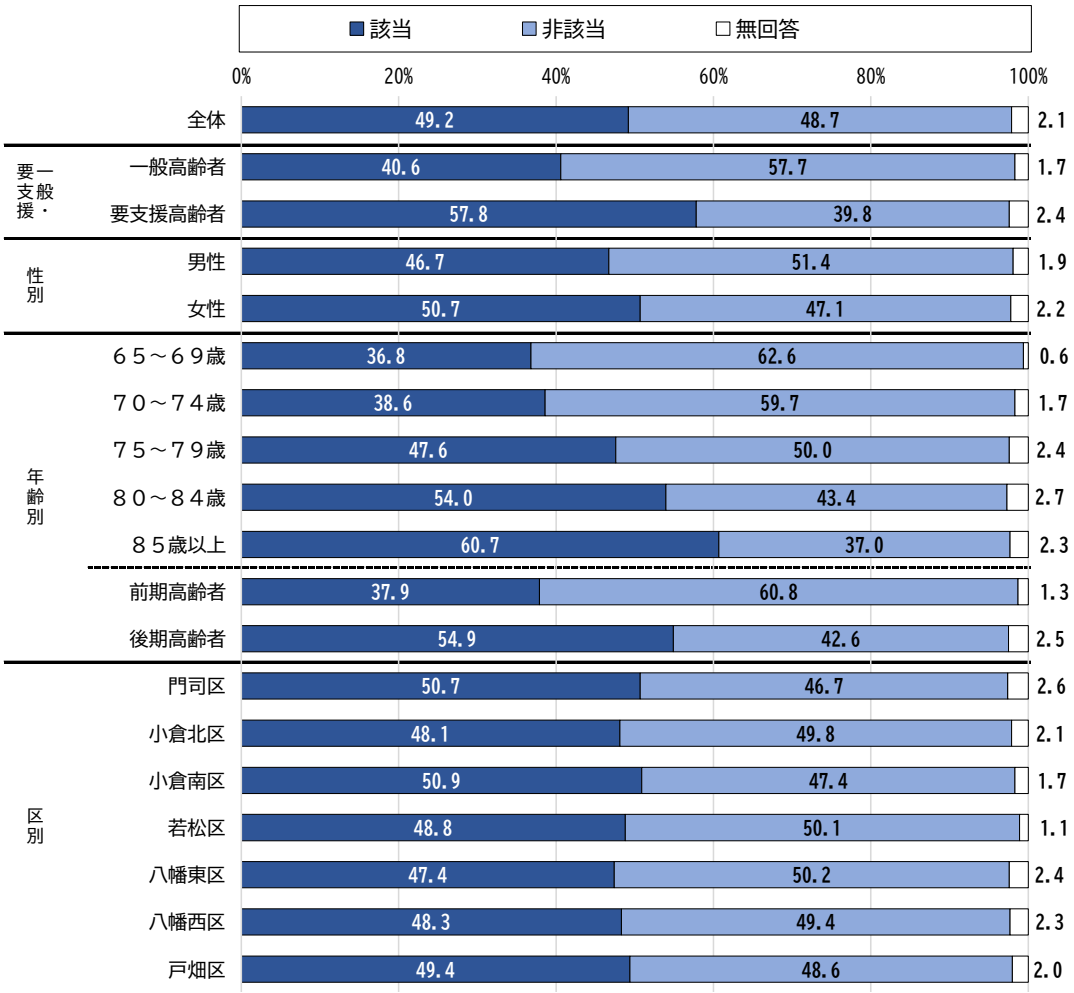


図 3-8-②　認知機能の低下（物忘れ）　【日常生活圏域別】

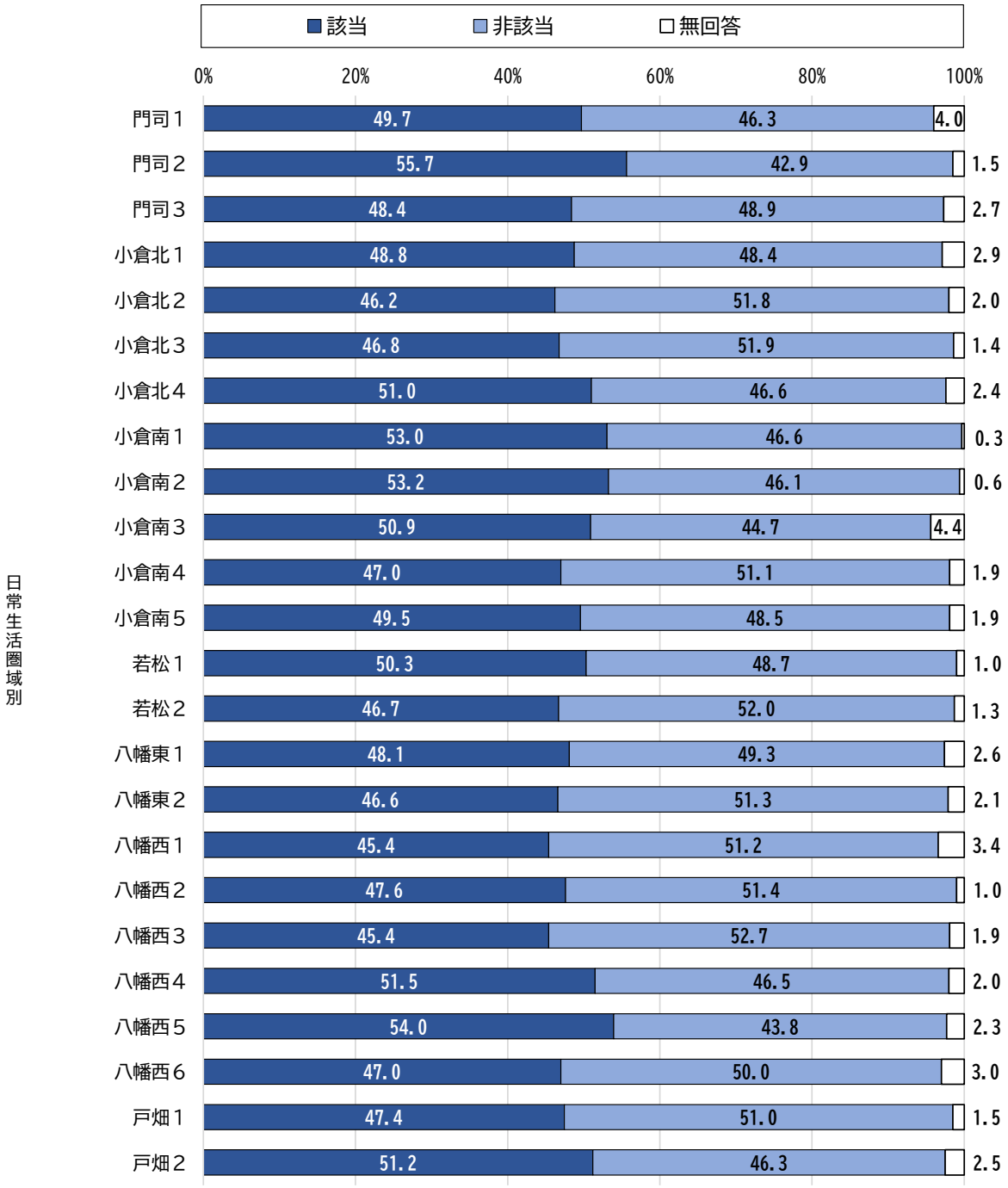


表 3-8 評価に用いた設問と評価基準（認知機能の低下（物忘れ））

設問		配点	評価基準
問 4-Q1	物忘れが多いと感じますか	はい　（１点）	１点以上が リスク該当者

２．うつの傾向

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-9 に示した設問に対する回答結果により、うつの傾向のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（1 点以上)」の割合は、市全体でみると、48.4%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 39.1%、要支援高齢者が 57.6%となっており、要支援高齢者が 18.5 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 46.5%、女性が 49.3%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当」の割合が高くなっているが、75 歳以上では大きな差はみられない。また前期高齢者が 43.4%、後期高齢者が 50.7%となっており、後期高齢者が 7.3 ポイント高くなっている。

図 3-9-①　うつの傾向　　【全域】

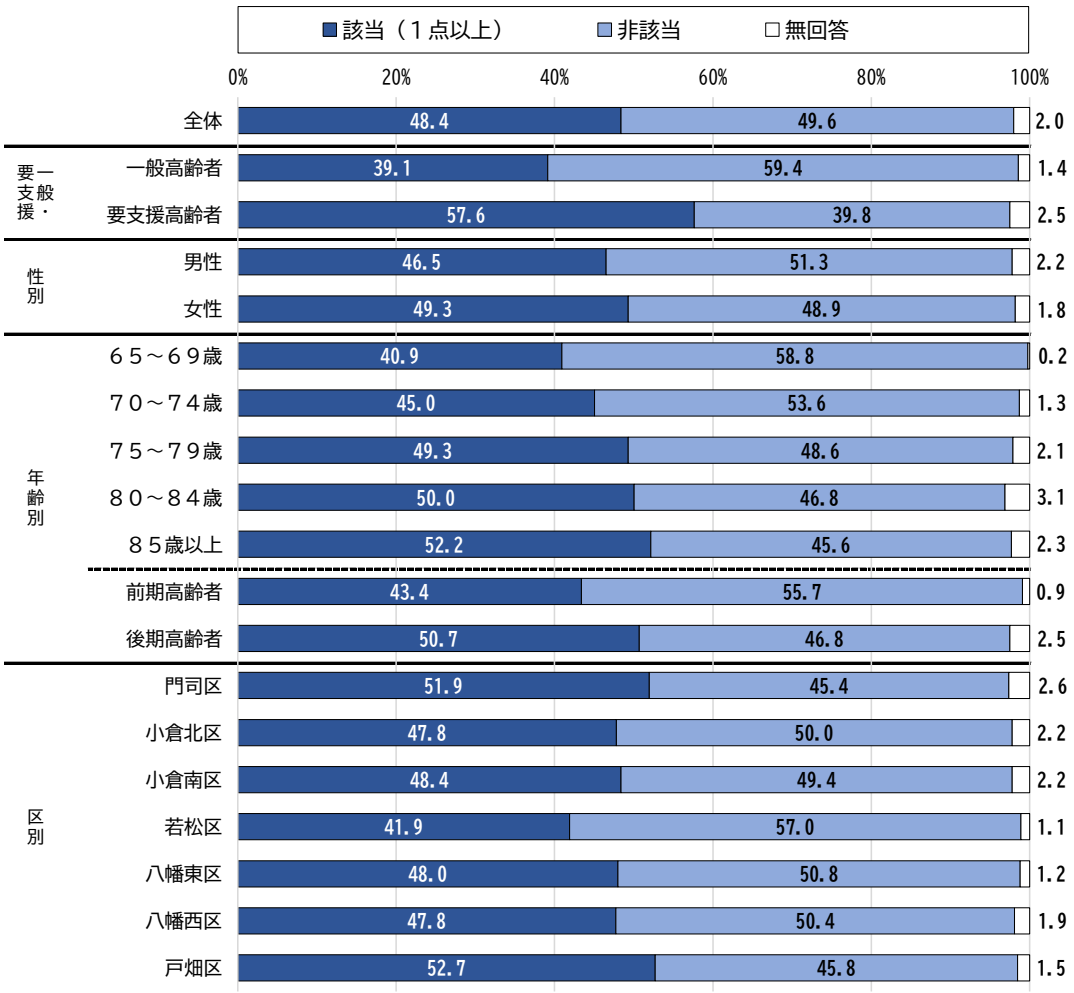


図 3-9-②　うつの傾向　【日常生活圏域別】

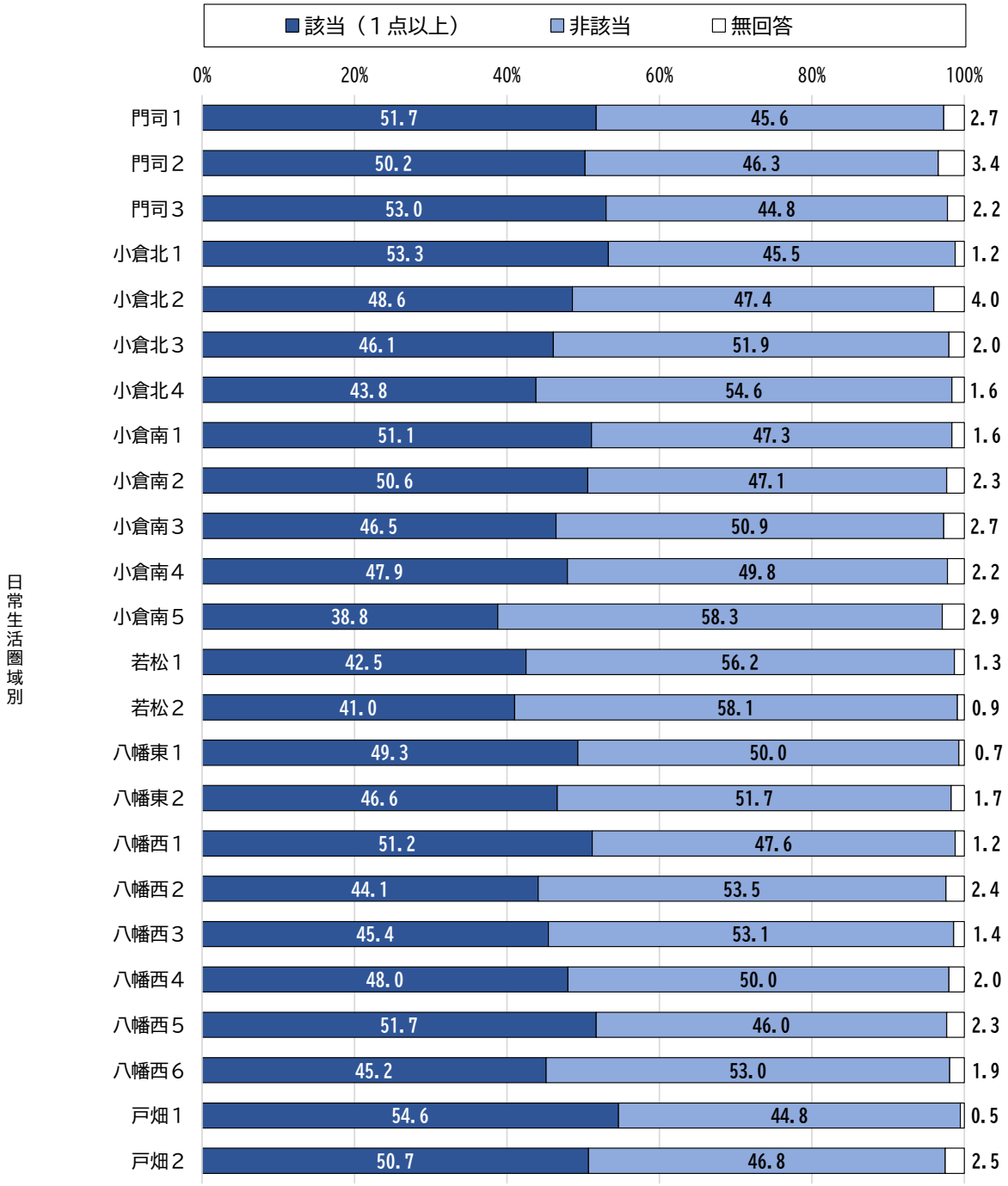


表 3-9 評価に用いた設問と評価基準（うつの傾向）

設問		配点	評価基準
問 7-Q3	この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい　（１点）	１点以上がリスク該当者
問 7-Q4	この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい　（１点）	

３．転倒リスクの状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-10 に示した設問に対する回答結果により、転倒のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（1 点以上）」の割合は、市全体でみると、45.3%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 31.8%、要支援高齢者が 58.8%となっており、要支援高齢者が 27.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 43.3%、女性が 46.4%となっており、女性が 3.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当（1 点以上）」の割合が高くなっており、85 歳以上が 58.5%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 32.9%、後期高齢者が 51.5%となっており、後期高齢者が 18.6 ポイント高くなっている。

図 3-10-①　転倒リスク判定　　【全域】

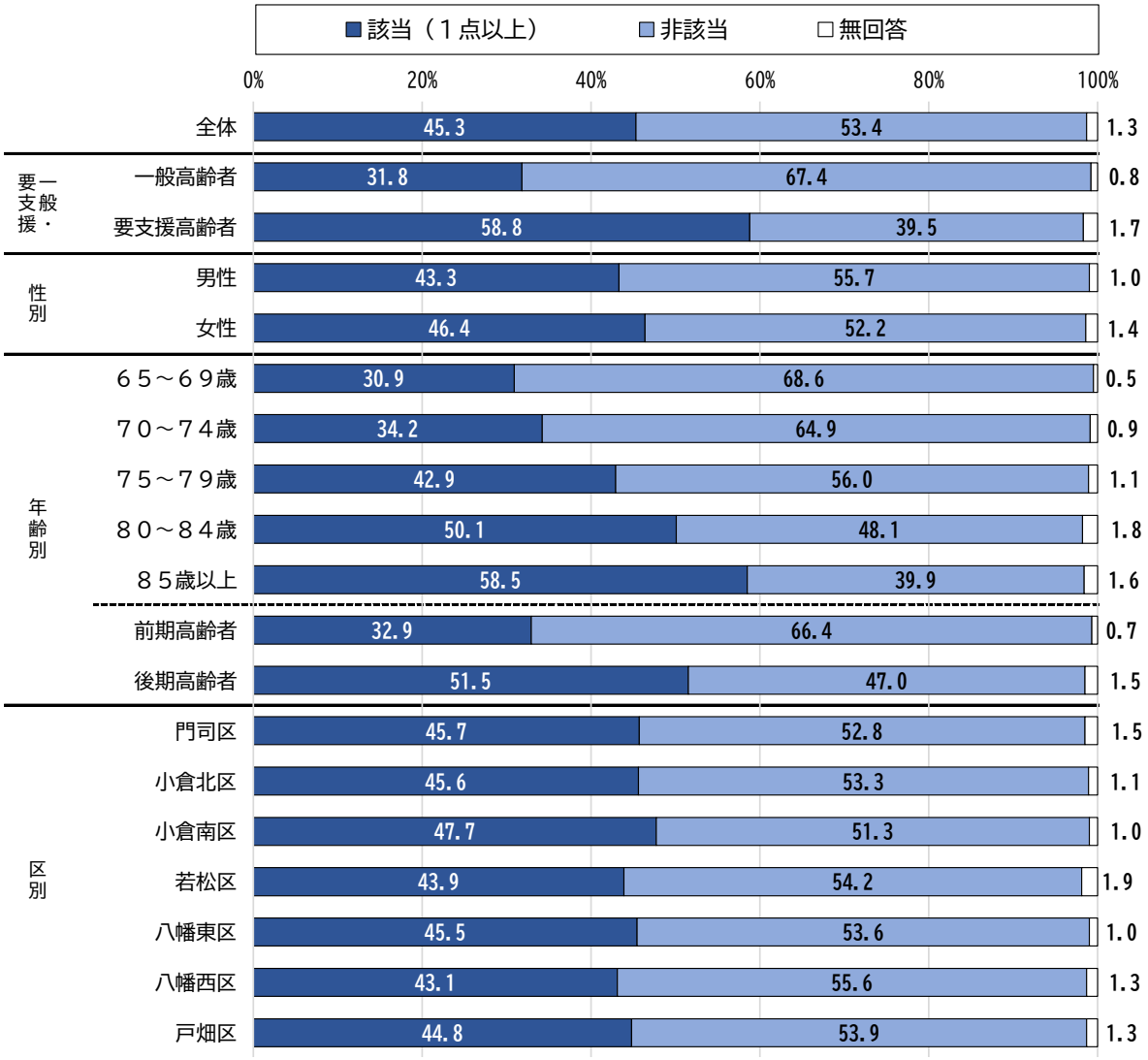


図 3-10-②　転倒リスク判定　　【日常生活圏域別】

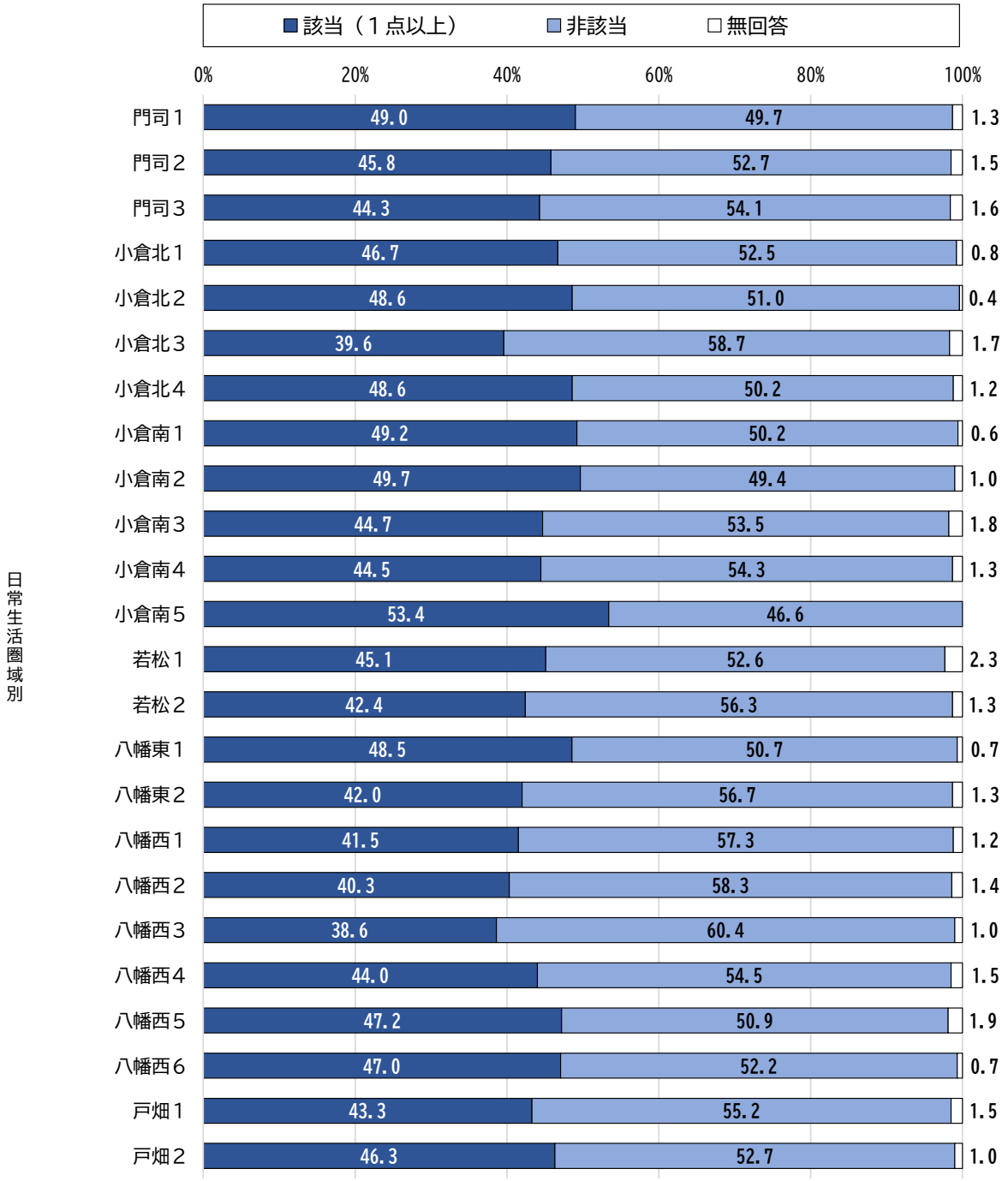


表 3-10　評価に用いた設問と評価基準（転倒リスク判定）

設問		配点	評価基準
問 2-Q4	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある 一度ある　（1 点）	1 点以上が リスク該当者

４．手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、活動的な日常生活を送るための動作（バスに乗って買い物に行く、食事の支度をする、電話をかけるなど）の能力を指す「手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ：Instrumental Activities of Daily Living)」について、表 3-11 に示した５つの設問に対する回答結果により評価を行った。

能力が「高い（5 点)」人の割合は、市全体でみると、68.7%となっている。一方、「低い（3 点以下)」は 17.5%、「やや低い（4 点)」は 13.2%で、２つを合わせた割合は 30.7%となっている。

「低い（3 点以下)」と「やや低い（4 点)」を合わせた割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 14.6%、要支援高齢者が 46.7%となっており、要支援高齢者が 32.1 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 32.8%、女性が 29.4%となっており、男性が 3.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「低い（3 点以下)」と「やや低い（4 点)」を合わせた割合は高くなっており、85 歳以上で 50.1%と最も高くなっている。また、前期高齢者が 16.5%、後期高齢者が 38.0%となっており、後期高齢者が 21.5 ポイント高くなっている。

図 3-11-①　手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）　【全域】

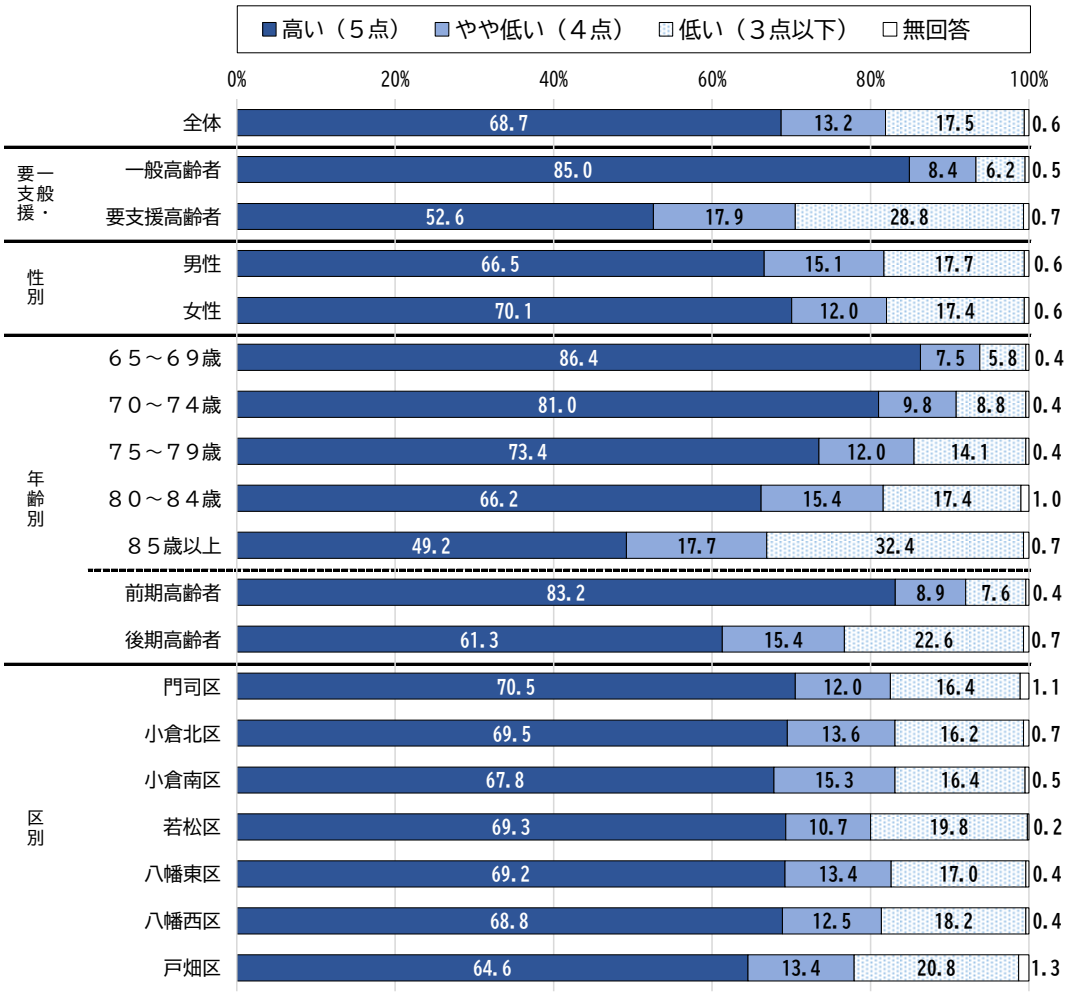


図 3-11-②　手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）　【日常生活圏域別】

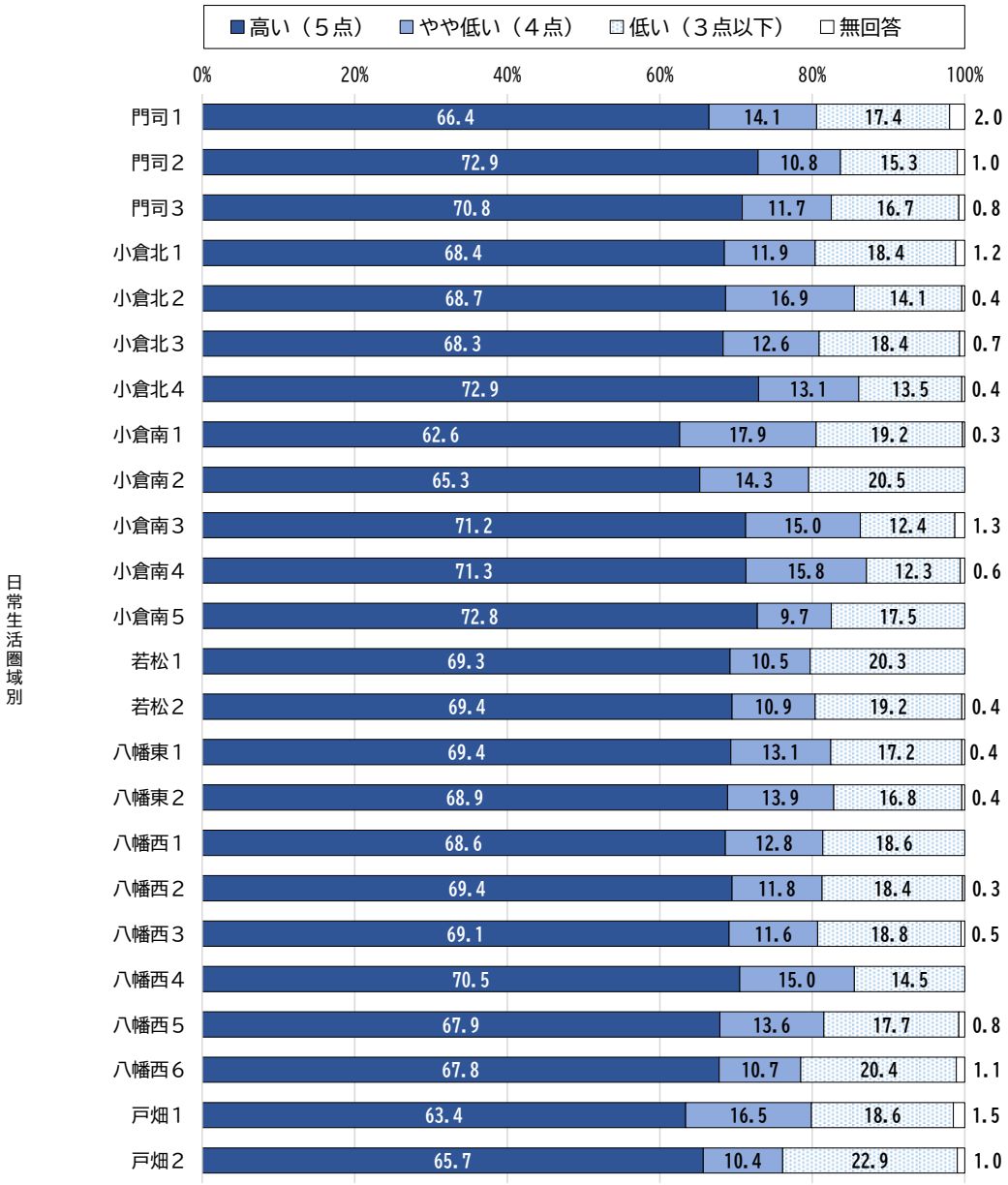


表 3-11 評価に用いた設問と評価基準（IADL）

設問		配点	評価基準
問 4-Q2	バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）	できるし、している できるけどしていない　（１点）	「低い」３点以下 「やや低い」４点 「高い」５点
問 4-Q3	自分で食品・日用品の買物をしていますか	できるし、している できるけどしていない　（１点）	
問 4-Q4	自分で食事の用意をしていますか	できるし、している できるけどしていない　（１点）	
問 4-Q5	自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している できるけどしていない　（１点）	
問 4-Q6	自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している できるけどしていない　（１点）	

第４章　日常生活

１．交流の場への参加状況

（１）ボランティアのグループへの参加

問５-Ｑ１-①　ボランティアのグループに参加していますか。

ボランティアのグループへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が 9.7%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 13.2%、要支援高齢者が 6.2%となっており、一般高齢者が 7.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 12.4%、女性が 8.2%となっており、男性が 4.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、85 歳以上で 5.3%と低くなっている。また、前期高齢者が 11.5%、後期高齢者が 8.9%となっており、前期高齢者がやや高くなっている。

図 4-1-①　ボランティアのグループへの参加　【全域】

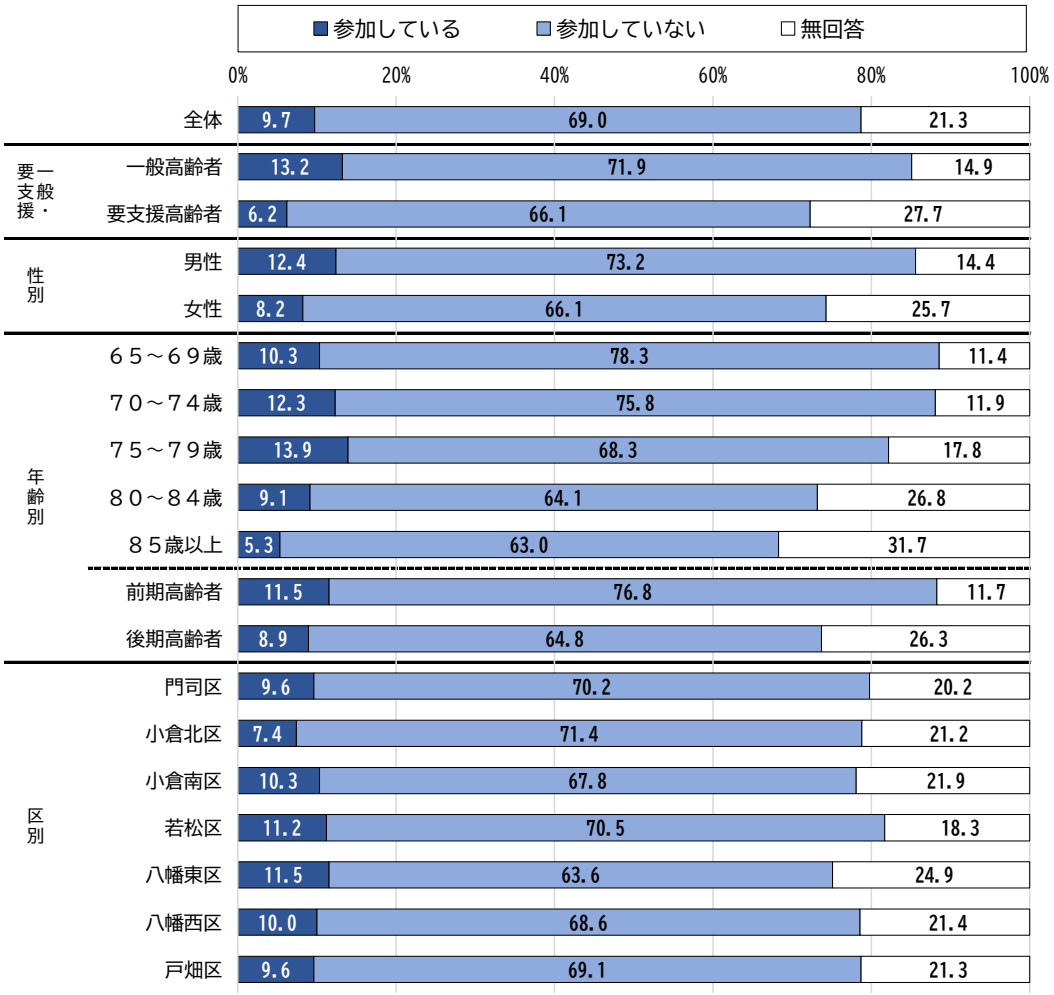
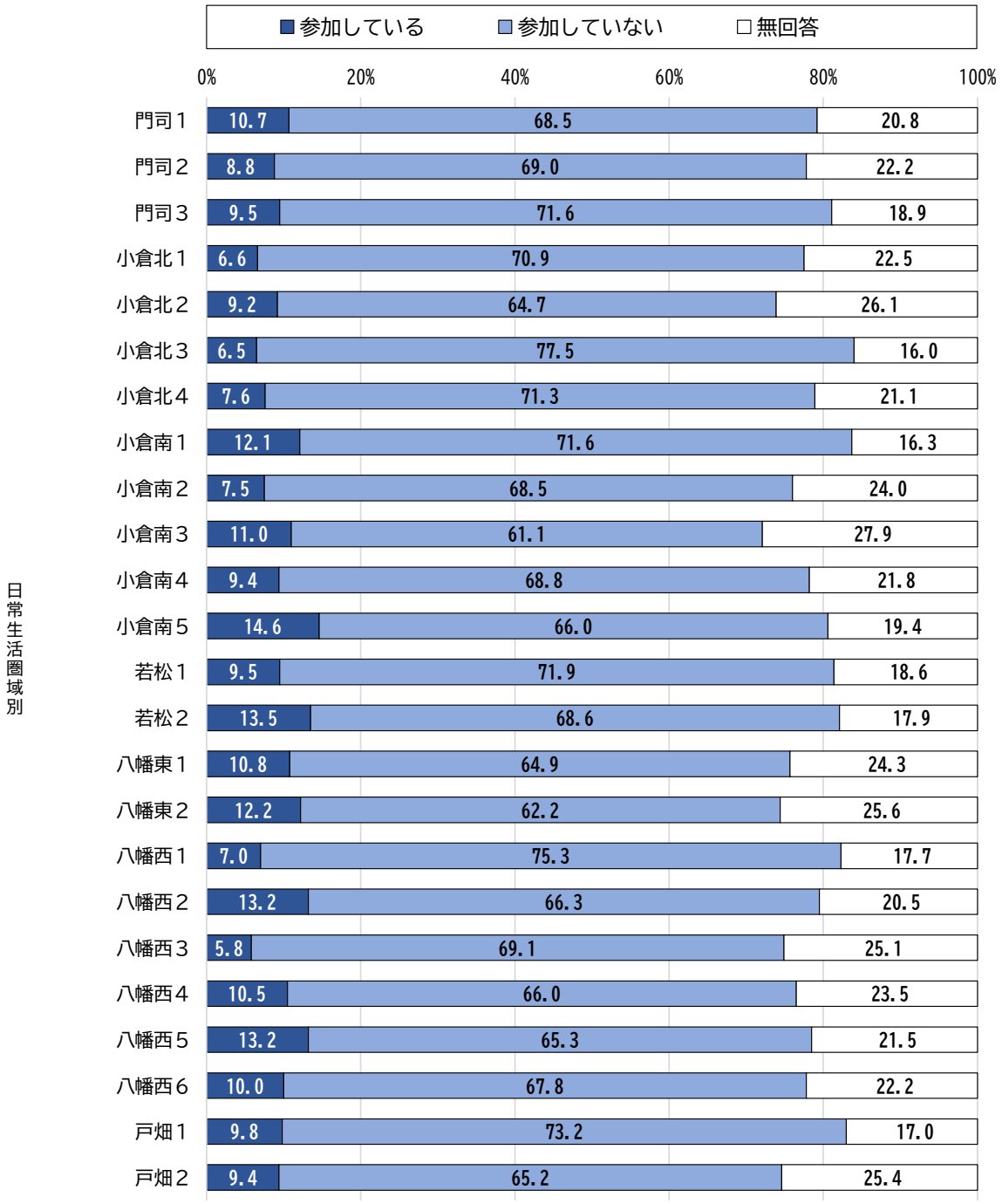


図 4-1-②　ボランティアのグループへの参加　【日常生活圏域別】



（２）スポーツ関係のグループやクラブへの参加

問５-Ｑ１-②　スポーツ関係のグループやクラブに参加していますか。

スポーツ関係のグループやクラブへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が15.9%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が22.8%、要支援高齢者が9.1%となっており、一般高齢者が13.7ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が17.2%、女性が15.2%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳、70～74歳、75～79歳まではほぼ変化が無いが、年齢層が高くなるにつれ割合が低くなっている。また、前期高齢者が20.3%、後期高齢者が13.8%となっており、前期高齢者が6.5ポイント高くなっている。

図4-2-①　スポーツ関係のグループやクラブへの参加　【全域】

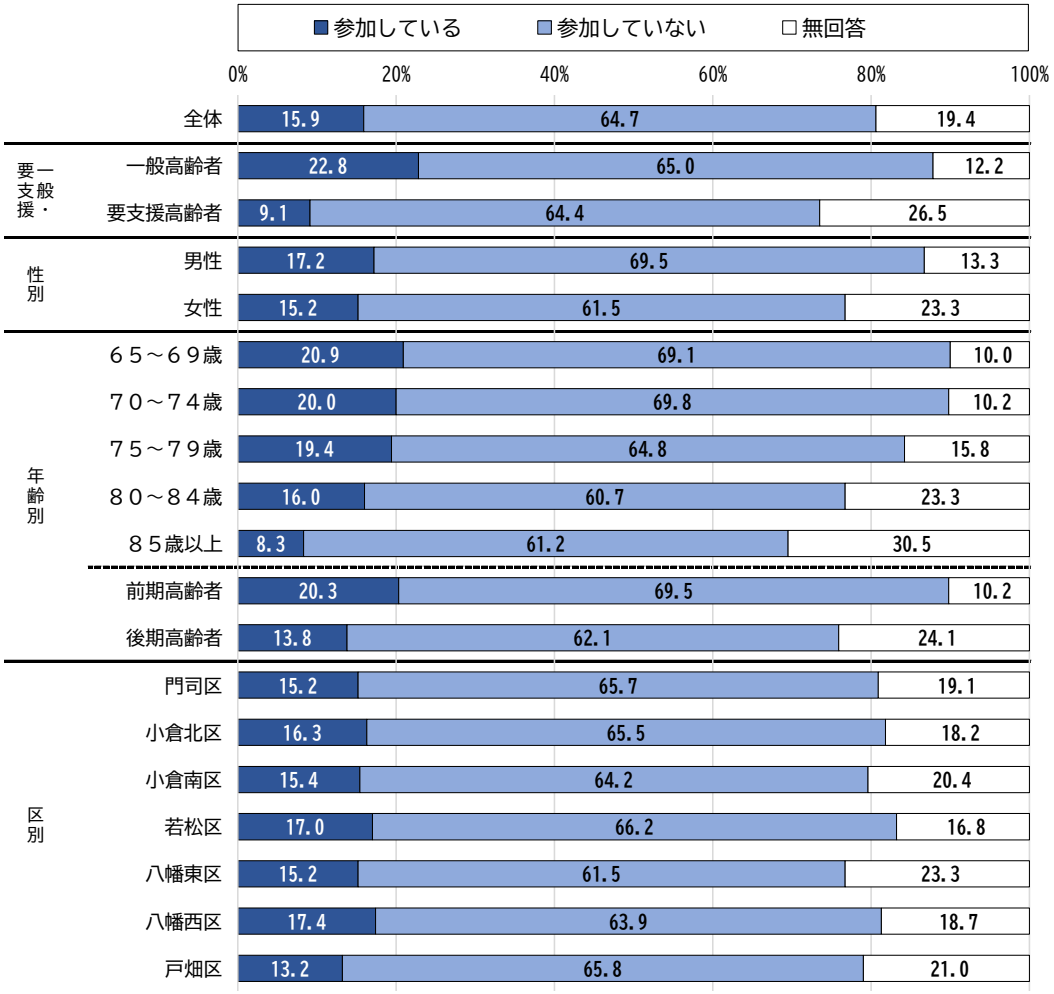
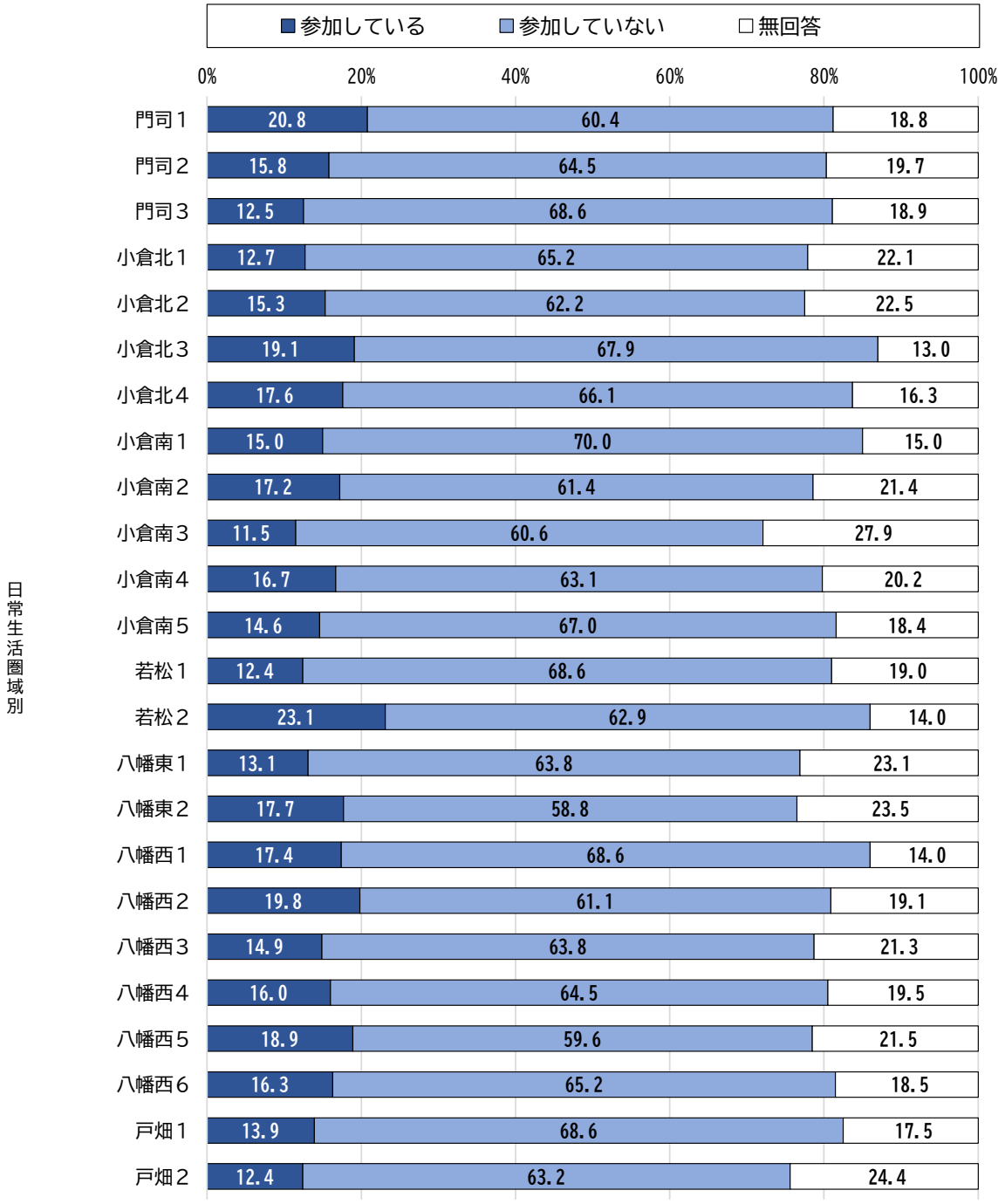


図 4-2-②　スポーツ関係のグループやクラブへの参加　【日常生活圏域別】



（３）趣味関係のグループへの参加

問５-Ｑ１-③　趣味関係のグループに参加していますか。

趣味関係のグループへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が 18.3%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 23.0%、要支援高齢者が 13.7%となっており、一般高齢者が 9.3 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 17.6%、女性が 18.8%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、75～79 歳が 23.6%で他の年齢層に比べて高くなっている。また、前期高齢者が 20.4%、後期高齢者が 17.3%となっており、前期高齢者が 3.1 ポイント高くなっている。

図 4-3-①　趣味関係のグループへの参加　【全域】

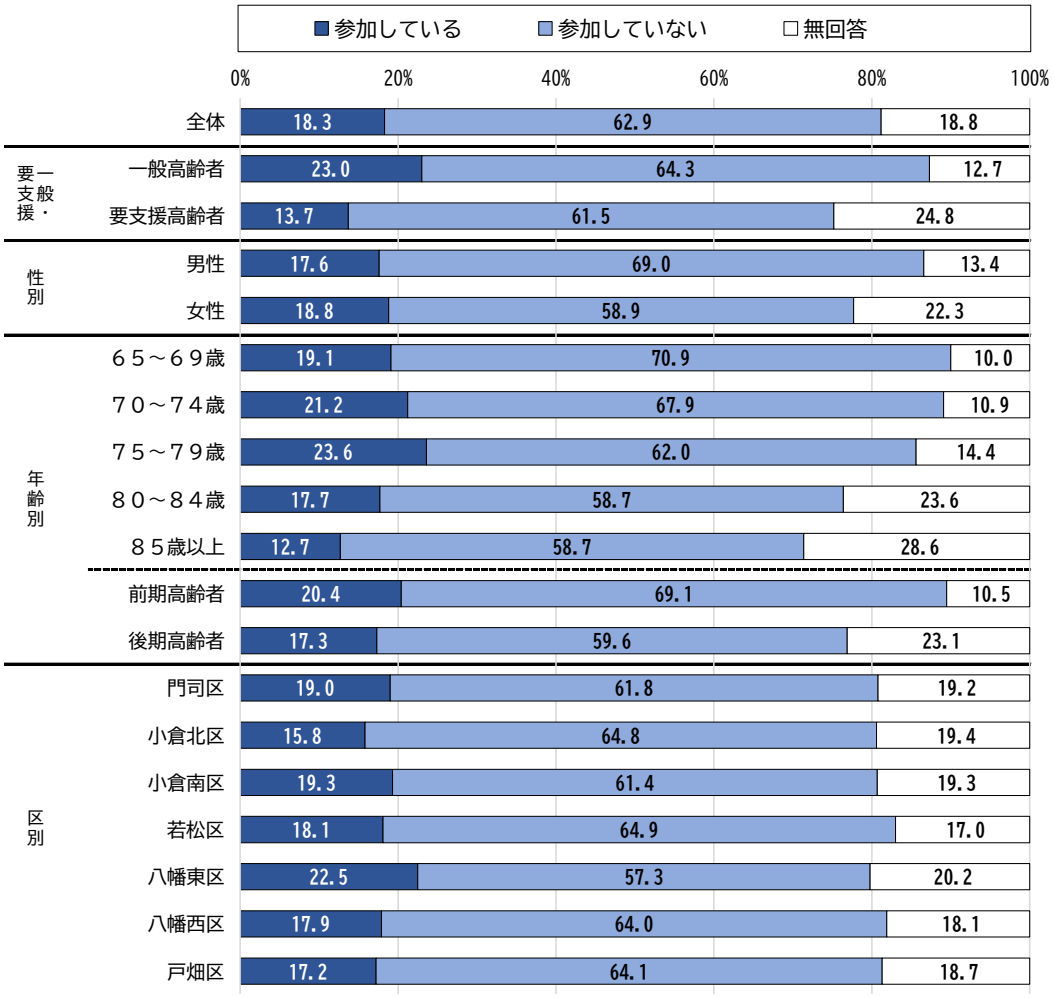
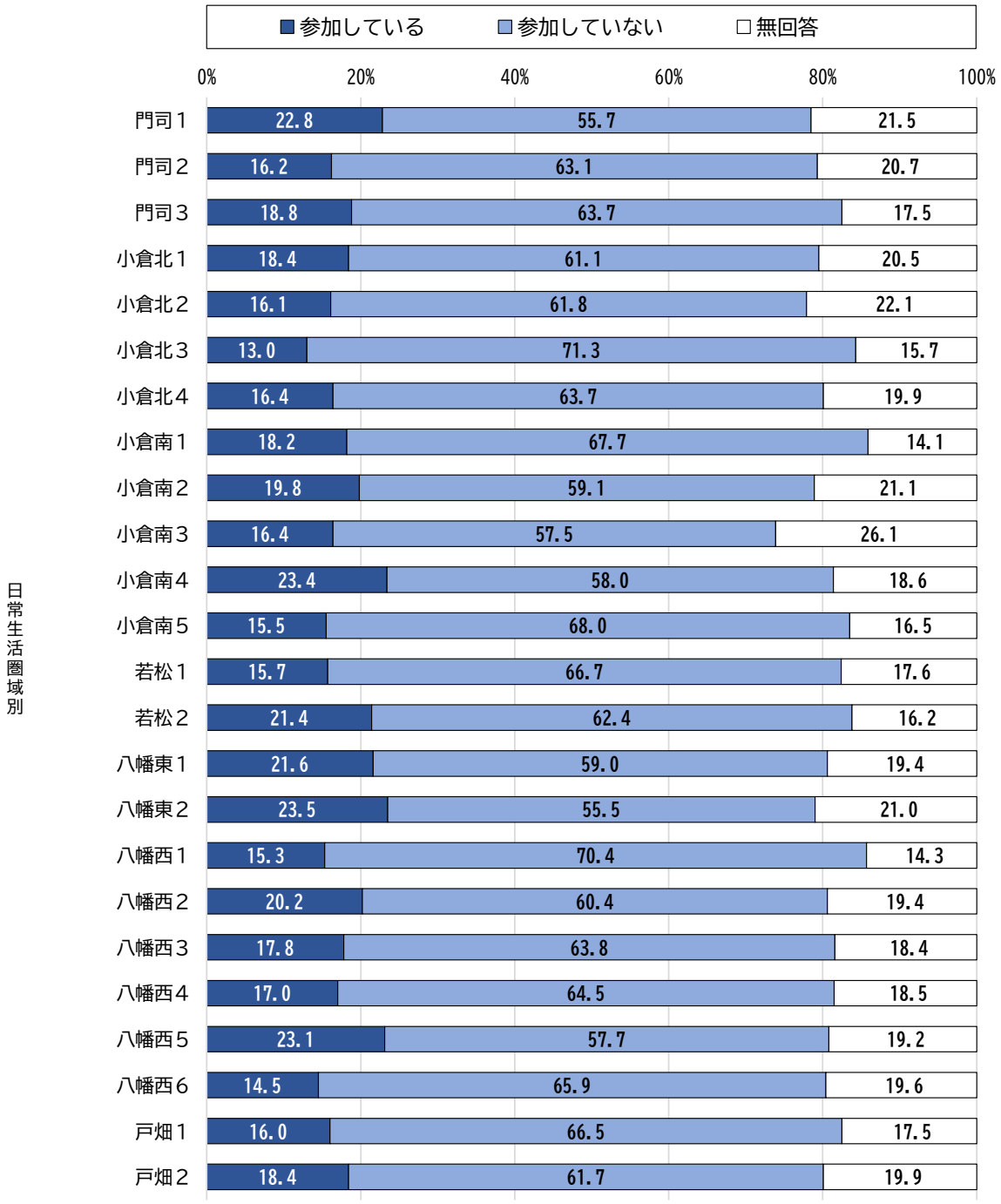


図 4-3-②　趣味関係のグループへの参加　【日常生活圏域別】



（４）学習・教養サークルへの参加

問５-Ｑ１-④　学習・教養サークルに参加していますか。

学習・教養サークルへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が 7.4%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 9.9%、要支援高齢者が 4.9%となっており、一般高齢者が 5.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 6.1%、女性が 8.1%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、75～79 歳が 10.1%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 8.4%、後期高齢者が 6.8%と共に 1 割未満となっている。

図 4-4-①　学習・教養サークルへの参加　【全域】

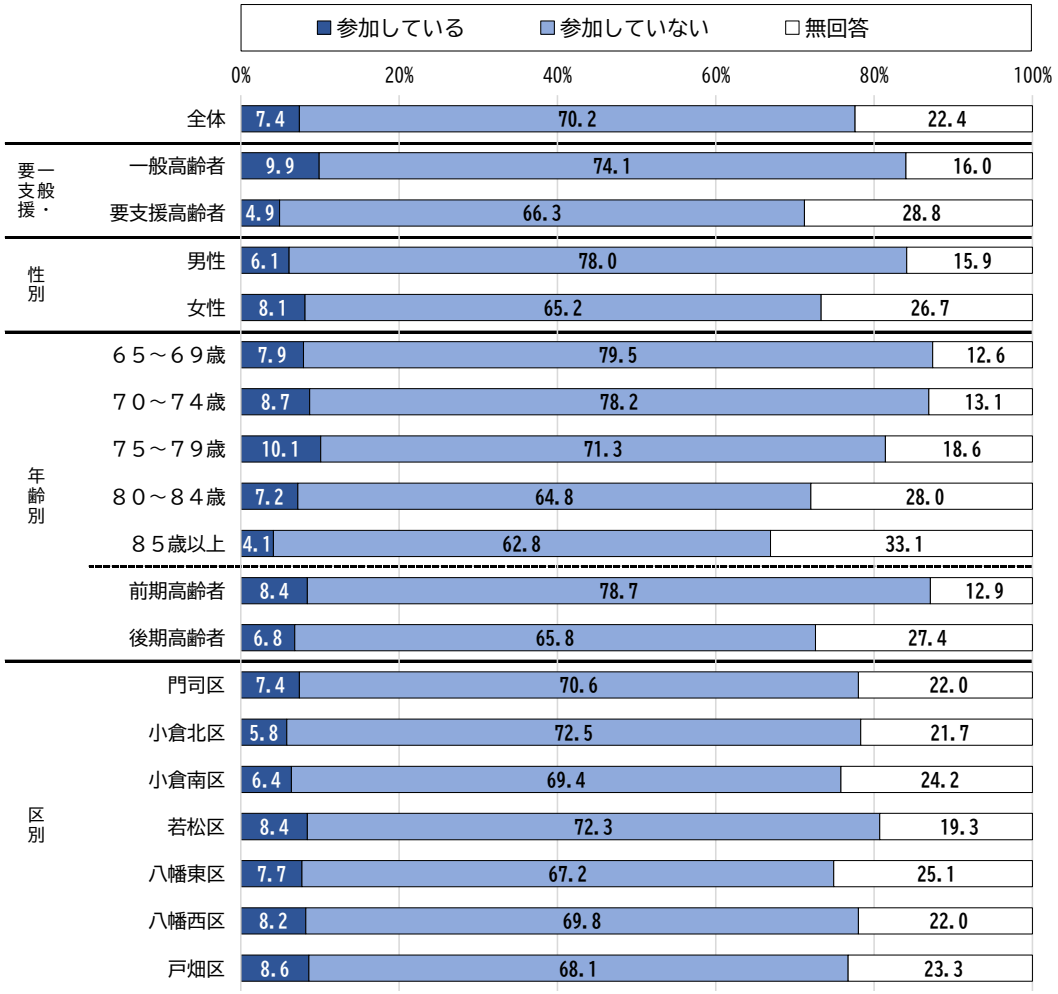
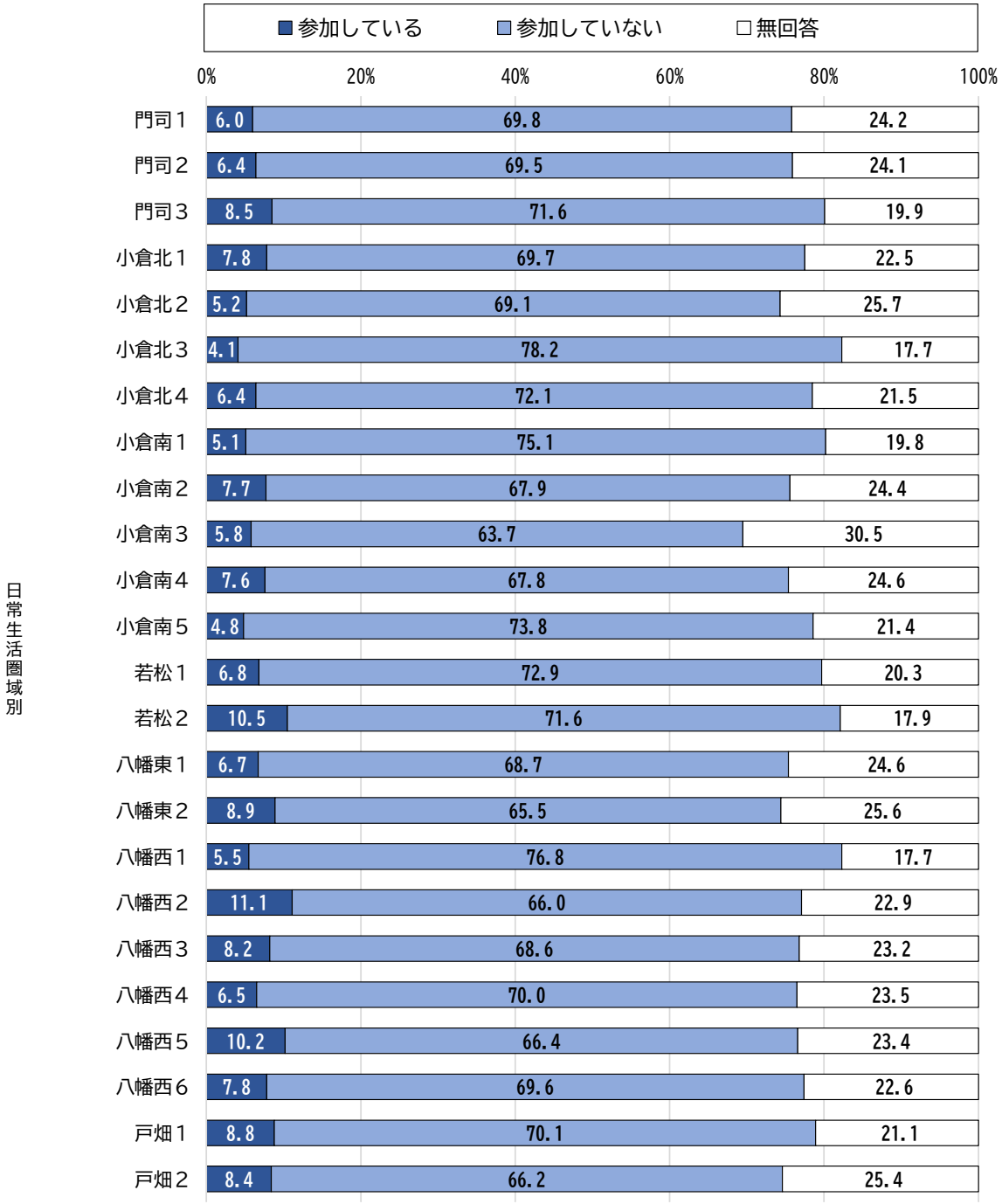


図 4-4-②　学習・教養サークルへの参加　【日常生活圏域別】



（５）通いの場への参加

問５-Ｑ１-⑤	介護予防のための通いの場（社会福祉協議会などが行っている高齢者サロン、いきがい活動ステーション、高齢者地域交流支援通所事業（地域交流型デイサービス）、きたきゅう体操、ひまわり太極拳、公園で健康づくり、ふれあい昼食交流会など）に参加していますか。

通いの場への参加については、市全体でみると、「参加している」割合が 19.3%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 7.0%、要支援高齢者が 31.6%となっており、要支援高齢者が 24.6 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 14.1%、女性が 22.7%となっており、女性が 8.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって、「参加している」が高くなっており、85 歳以上が 29.5%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 8.4%、後期高齢者が 24.9%となっており、後期高齢者が 16.5 ポイント高くなっている。

図 4-5-①　通いの場への参加　【全域】

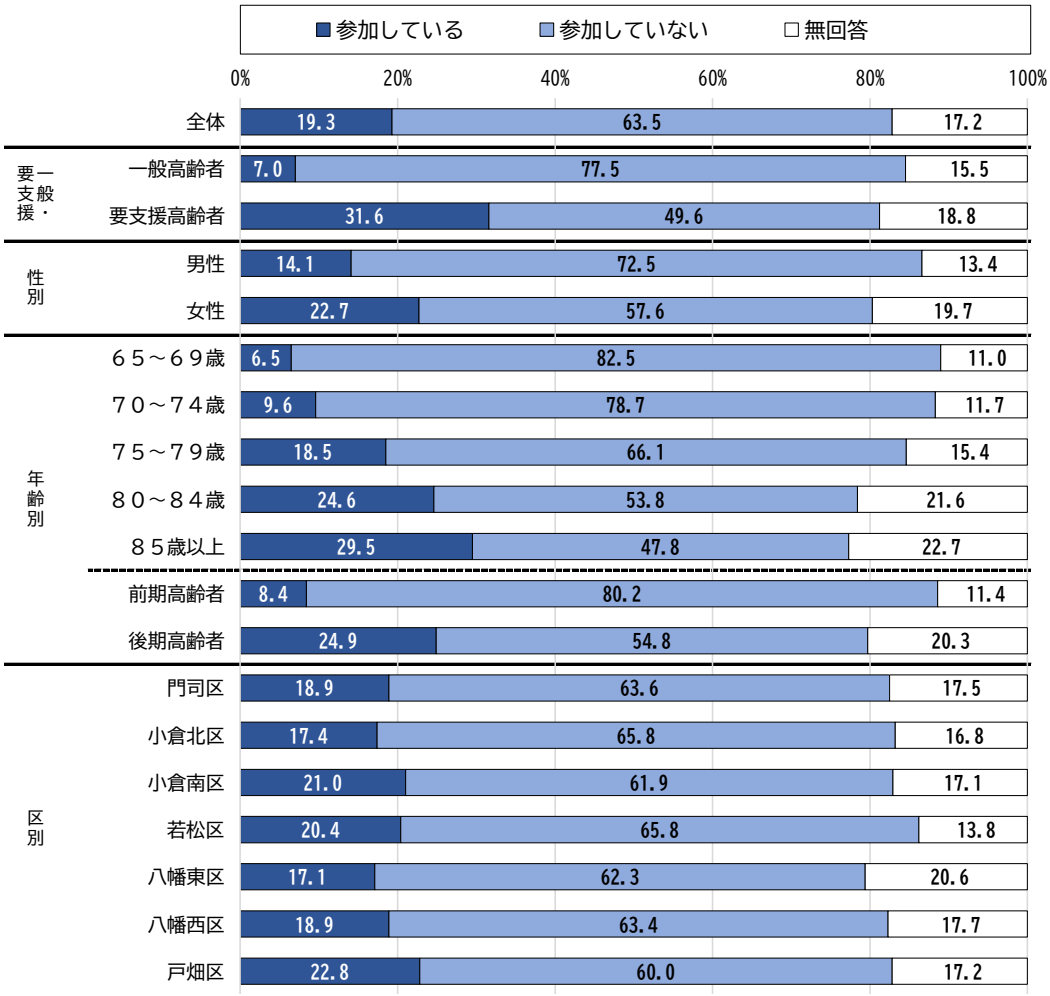
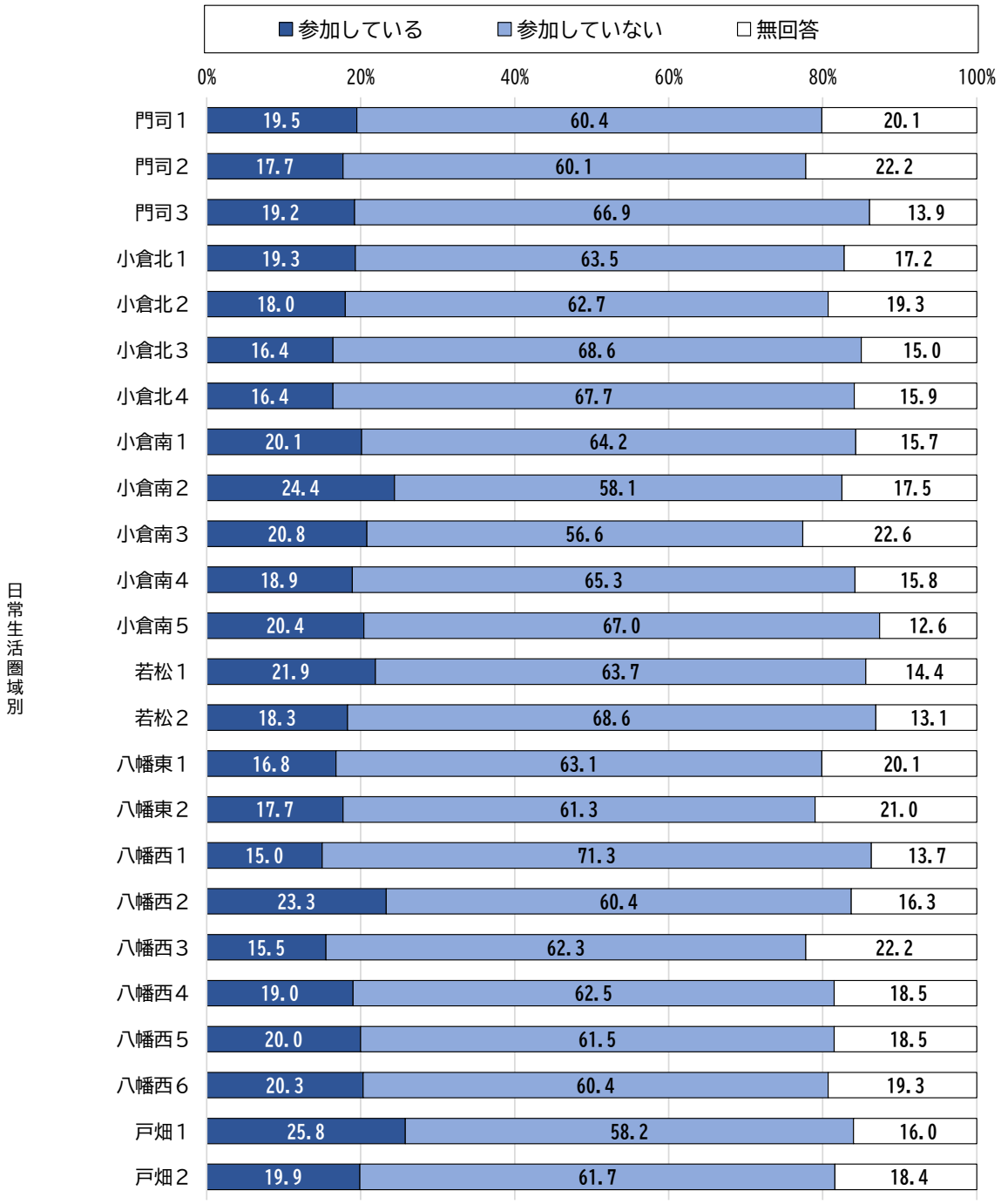


図 4-5-②　通いの場への参加　【日常生活圏域別】



（６）老人クラブへの参加

問５-Ｑ１-⑥　老人クラブに参加していますか。

老人クラブへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が 6.6%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別や性別でみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも１割未満となっているが、年齢層が下がるにつれて、参加率も低くなる傾向がある。また、前期高齢者が 3.4%、後期高齢者が 8.1%となっており、後期高齢者が 4.7 ポイント高くなっている。

図 4-6-①　老人クラブへの参加　【全域】

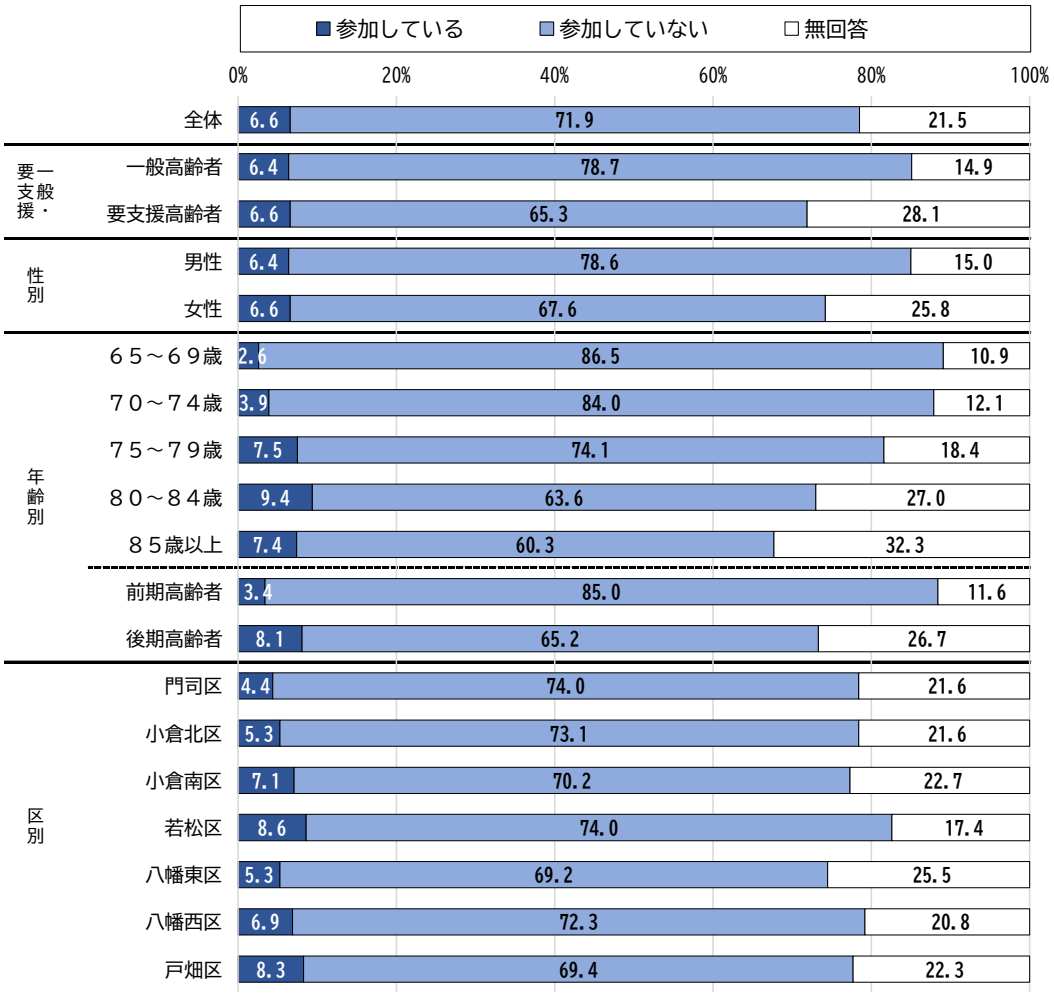
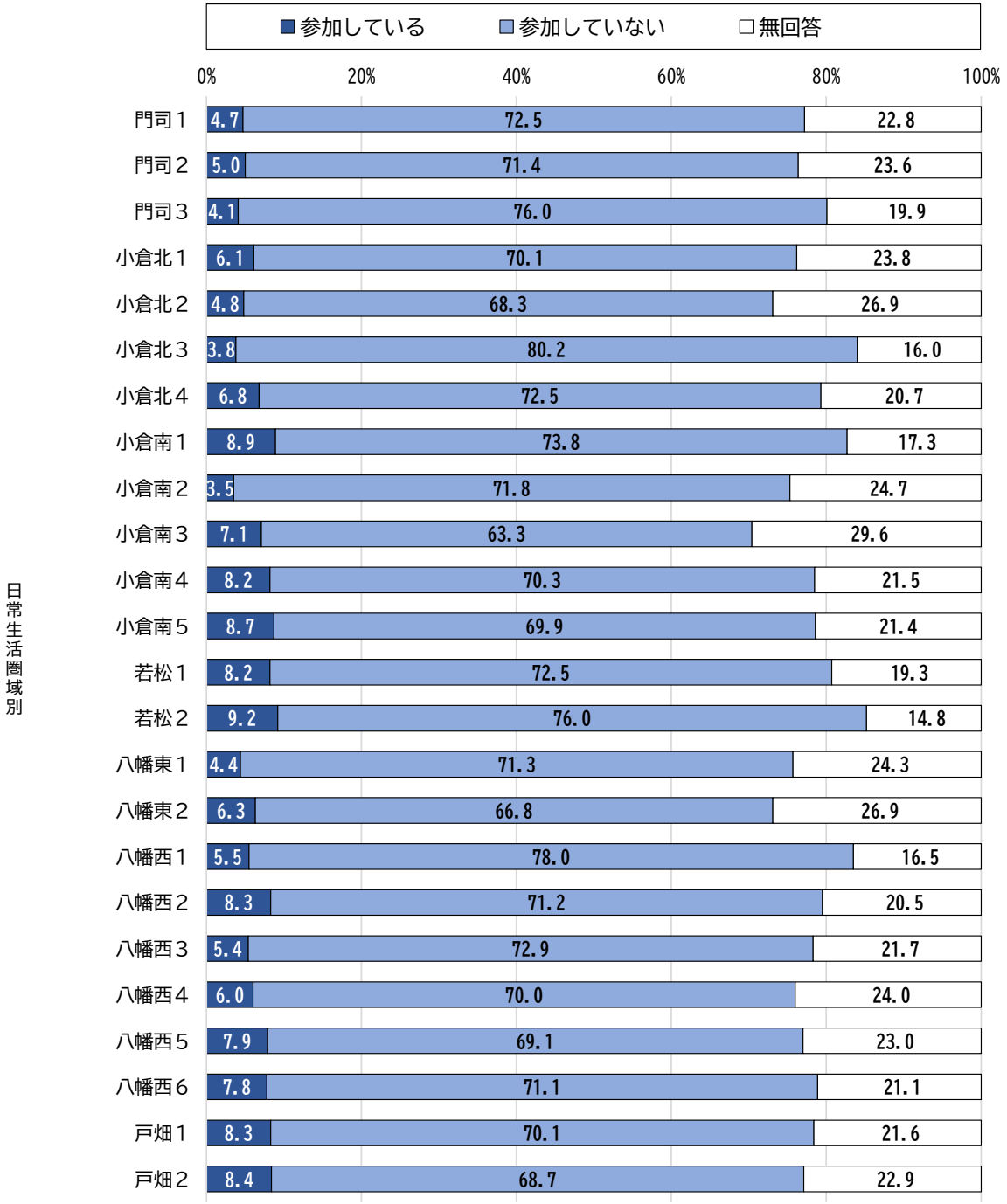


図 4-6-②　老人クラブへの参加　【日常生活圏域別】



（７）町内会・自治会への参加

問５-Ｑ１-⑦　町内会・自治会に参加していますか。

町内会・自治会への参加については、市全体でみると、「参加している」割合が 18.6%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 26.1%、要支援高齢者が 11.1%となっており、一般高齢者が 15.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 20.7%、女性が 17.2%となっており、男性が 3.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「参加している」の割合は 65～69 歳が 26.0%と最も高くなっており、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が 24.9%、後期高齢者が 15.3%となっており、前期高齢者が 9.6 ポイント高くなっている。

図 4-7-①　町内会・自治会への参加　【全域】

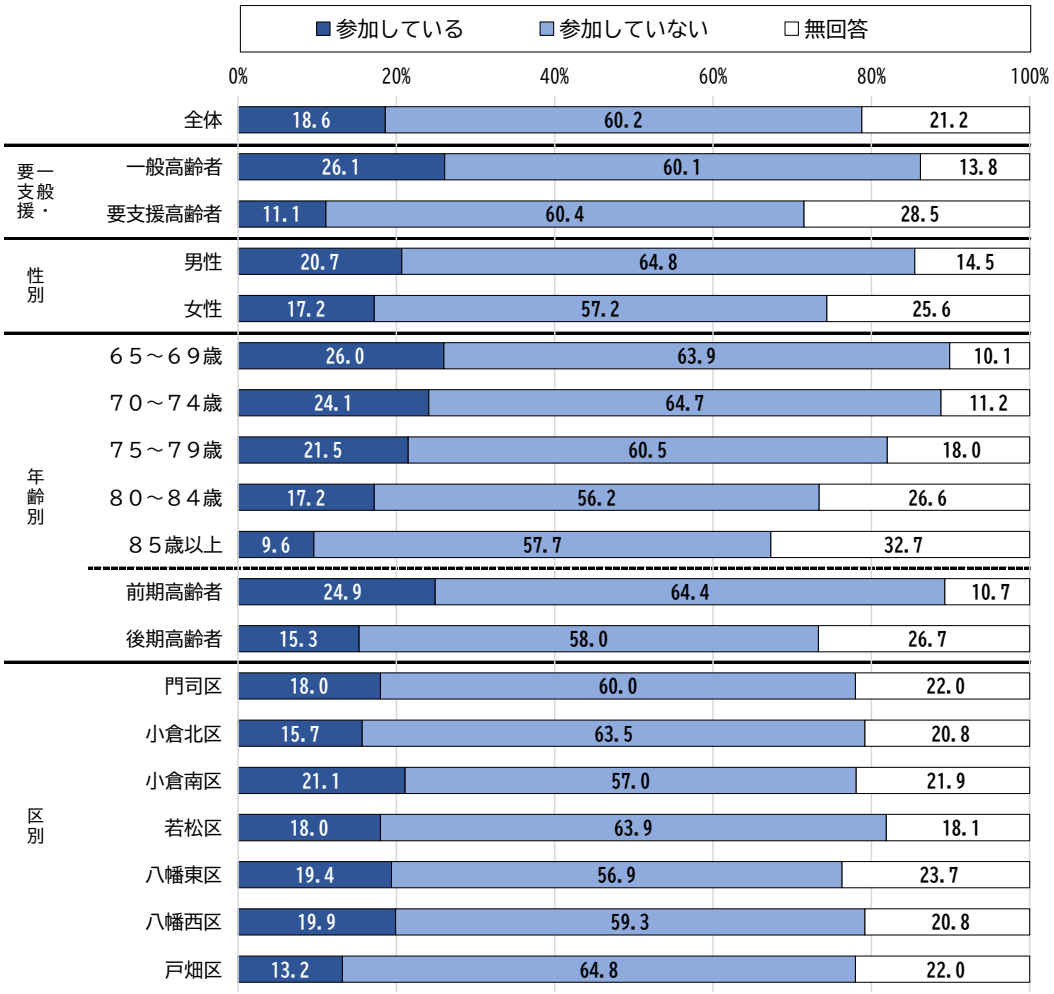
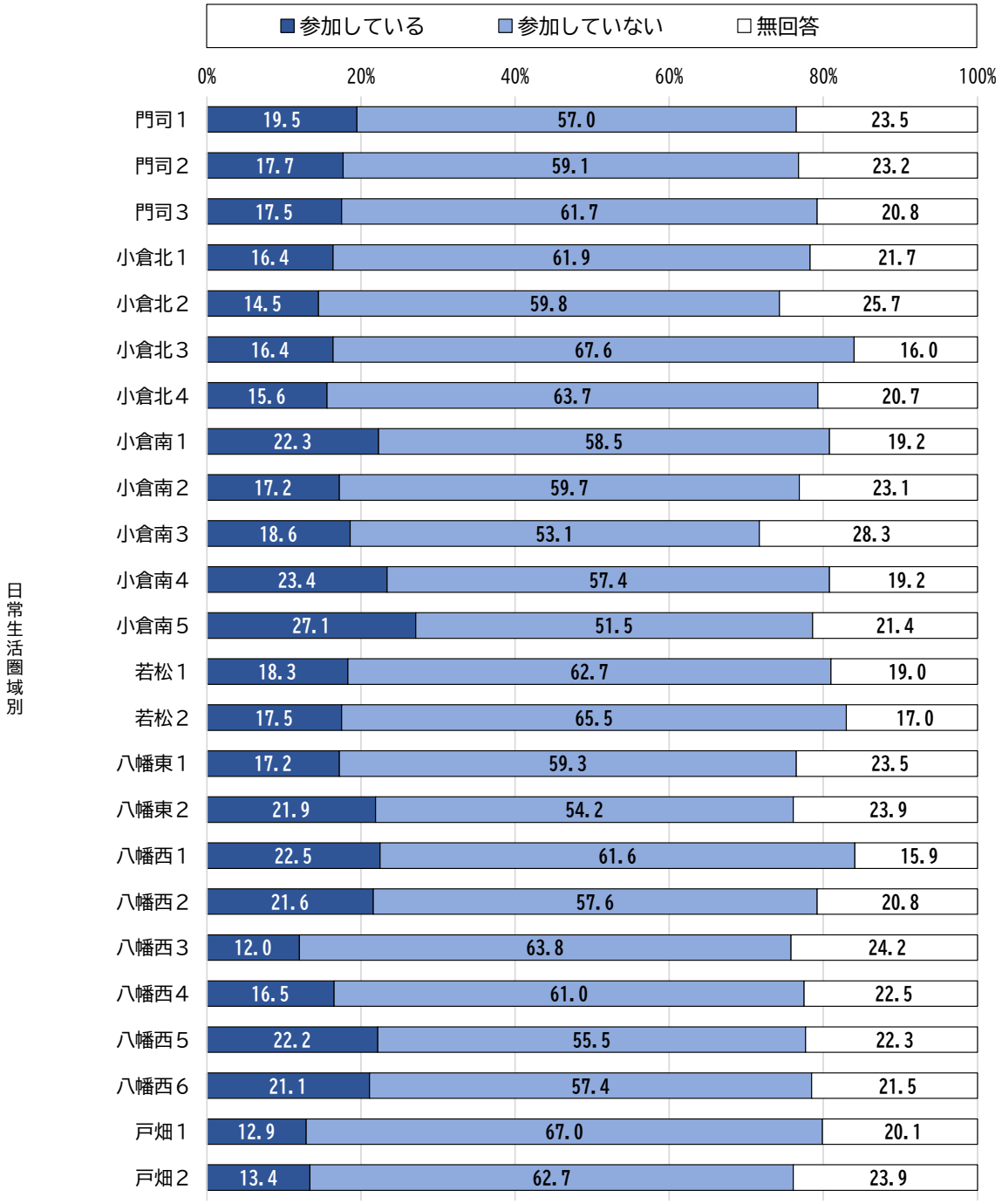


図 4-7-②　町内会・自治会への参加　【日常生活圏域別】



（８）収入のある仕事への参加

問５-Ｑ１-⑧　収入のある仕事に参加していますか。

収入のある仕事への参加については、市全体でみると、「参加している」割合が 11.1%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 19.7%、要支援高齢者が 2.7%となっており、一般高齢者が 17.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 16.0%、女性が 8.2%となっており、男性が 7.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、65～69 歳が 33.1%で最も高くなっており、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が 25.5%、後期高齢者が 3.9%となっており、前期高齢者が 21.6 ポイント高くなっている。

図 4-8-①　収入のある仕事への参加　【全域】

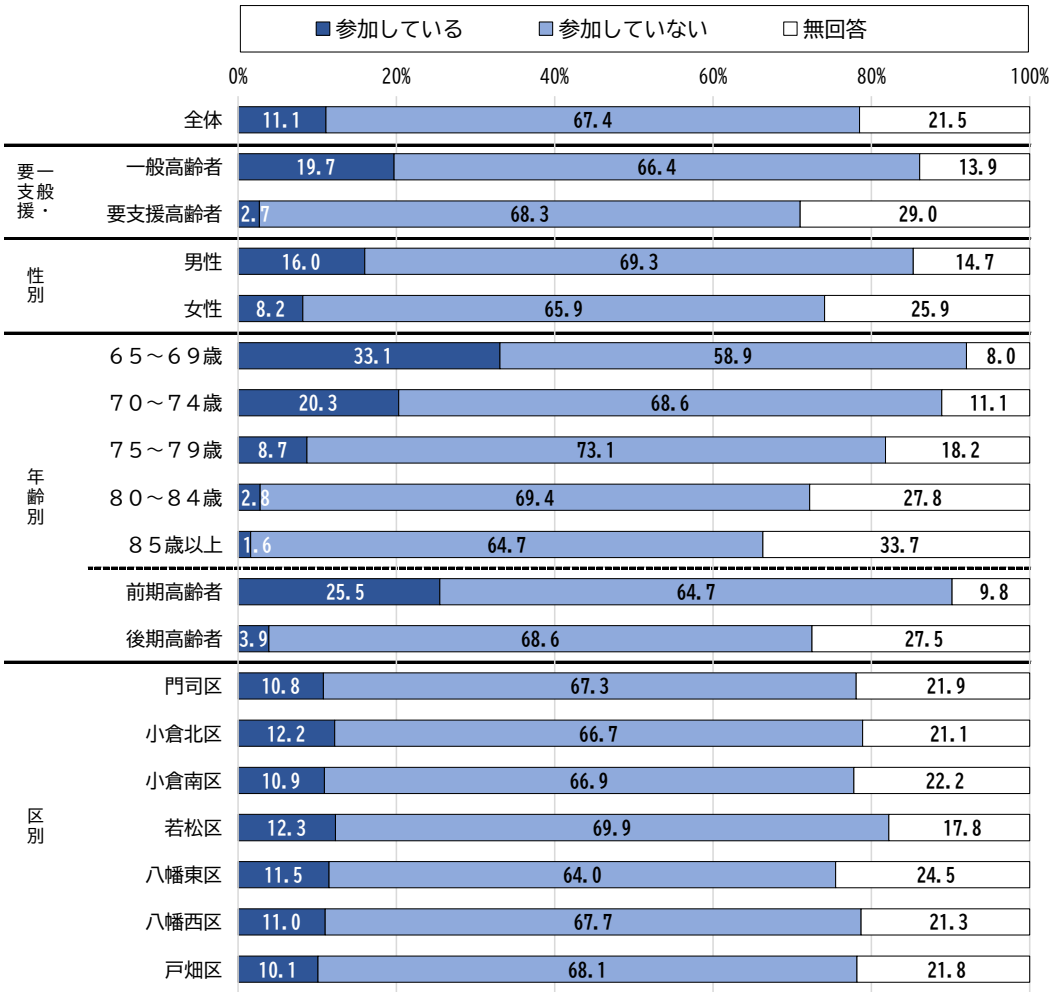
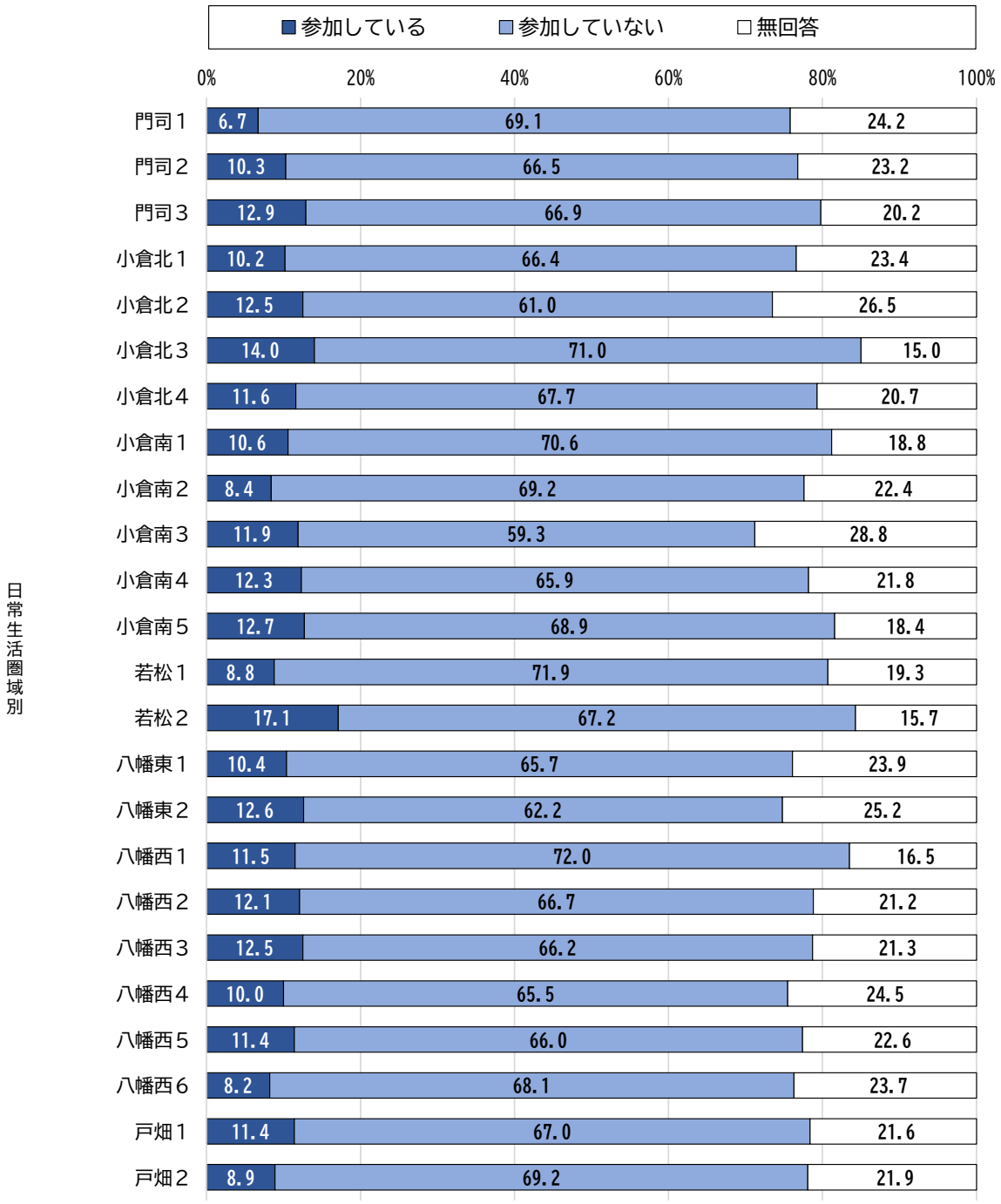


図 4-8-②　収入のある仕事への参加　【日常生活圏域別】



（９）地域活動への参加意向

問５-Ｑ２　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加してみたいかを尋ねたところ、市全体でみると、「参加の意向がある」と回答した割合は 41.6%、「参加したくない」の割合は 49.4%となっている。

「参加の意向がある」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 47.1%、要支援高齢者が 36.2%となっており、一般高齢者が 10.9 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 42.5%、女性が 41.1%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が 48.6%、後期高齢者が 38.0%となっており、前期高齢者が 10.6 ポイント高くなっている。

図 4-9-①　地域活動への参加意向　【全域】

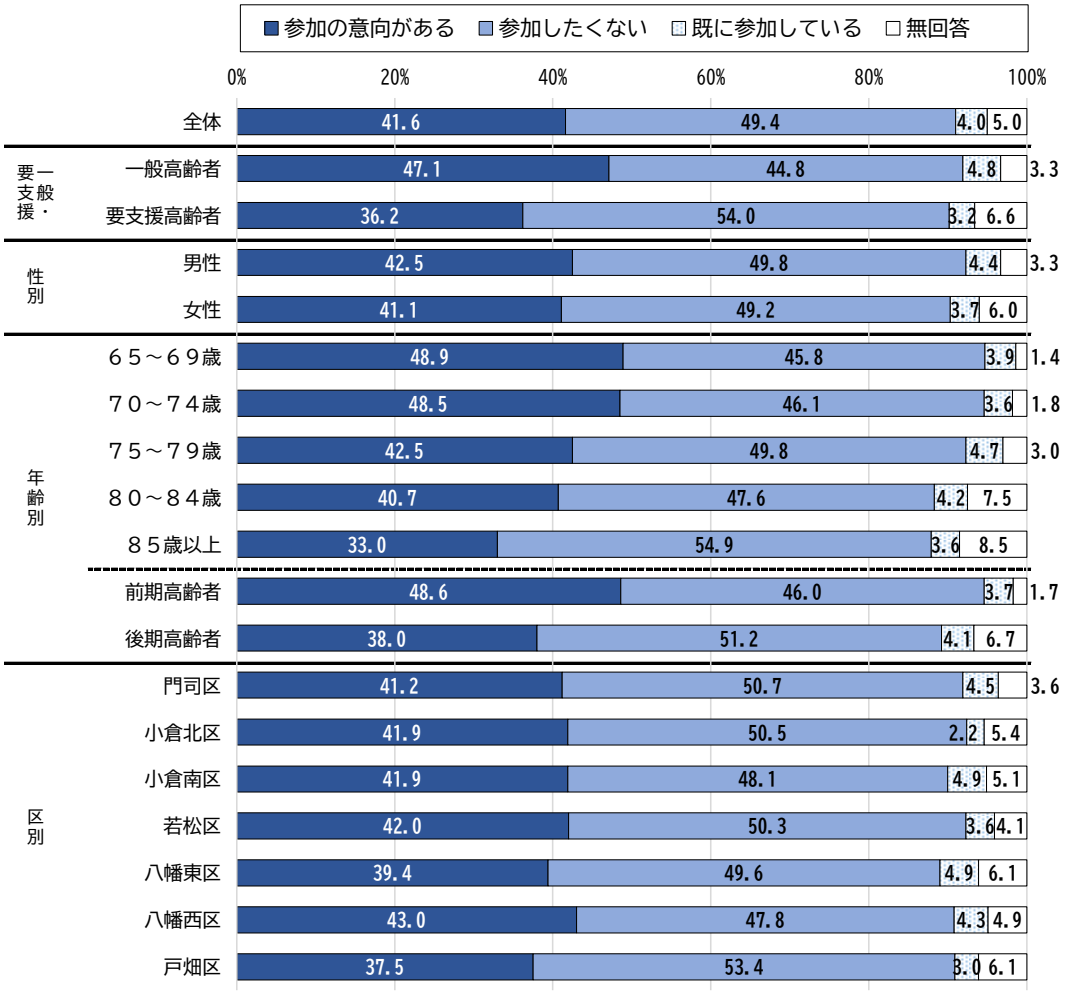
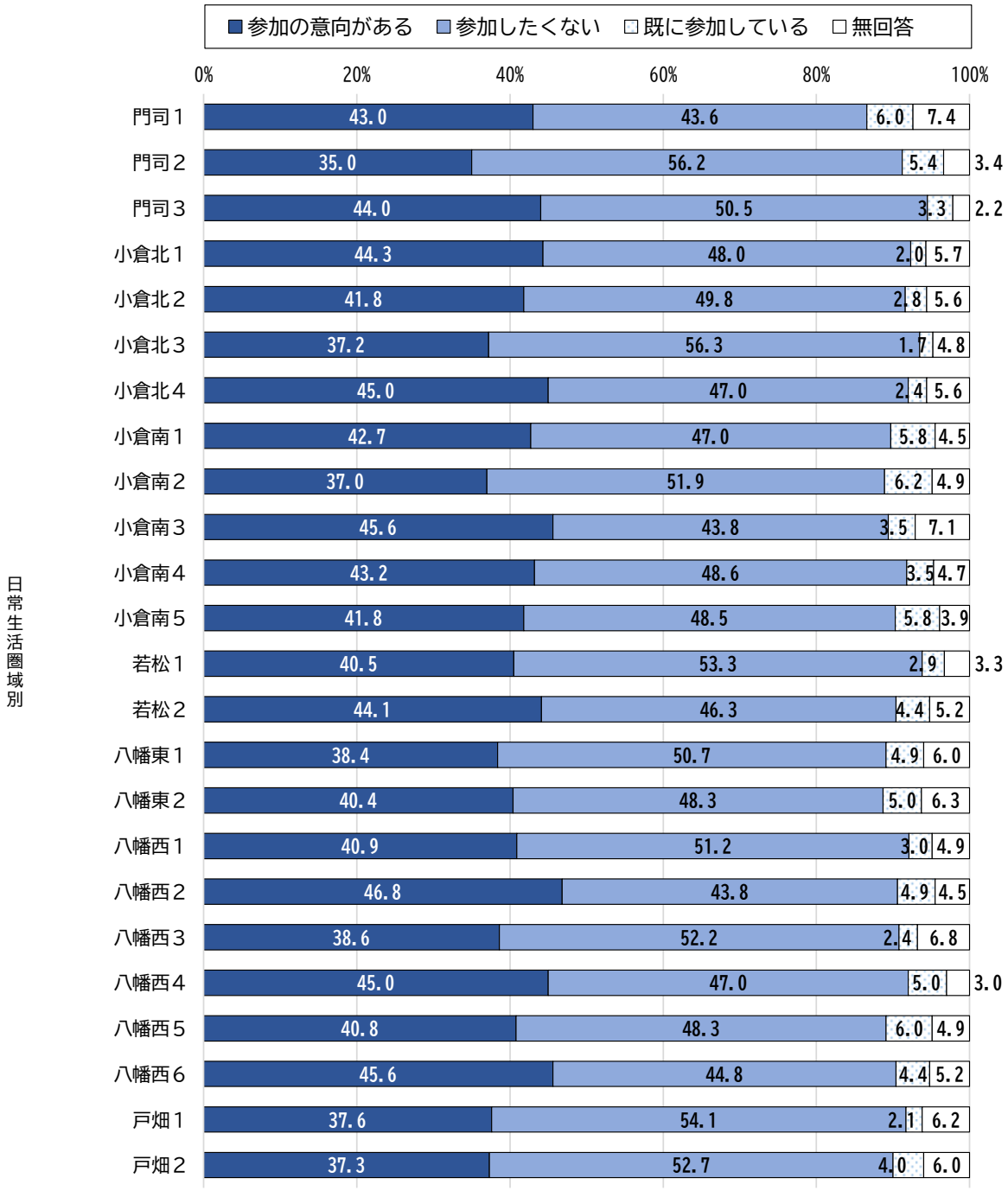


図 4-9-②　地域活動への参加意向　【日常生活圏域別】



（１０）地域活動の企画・運営への参加意向

問５-Ｑ３　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいかを尋ねたところ、市全体でみると、「参加の意向がある」と回答した割合は 20.9%、「参加したくない」の割合は 70.9%となっている。

「参加の意向がある」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 25.5%、要支援高齢者が 16.4%となっており、一般高齢者が 9.1 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 24.7%、女性が 18.5%となっており、男性が 6.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、65～69 歳が 26.3%で最も高く、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が 25.8%、後期高齢者が 18.4%となっており、前期高齢者が 7.4 ポイント高くなっている。

図 4-10-①　地域活動の企画・運営への参加意向　【全域】

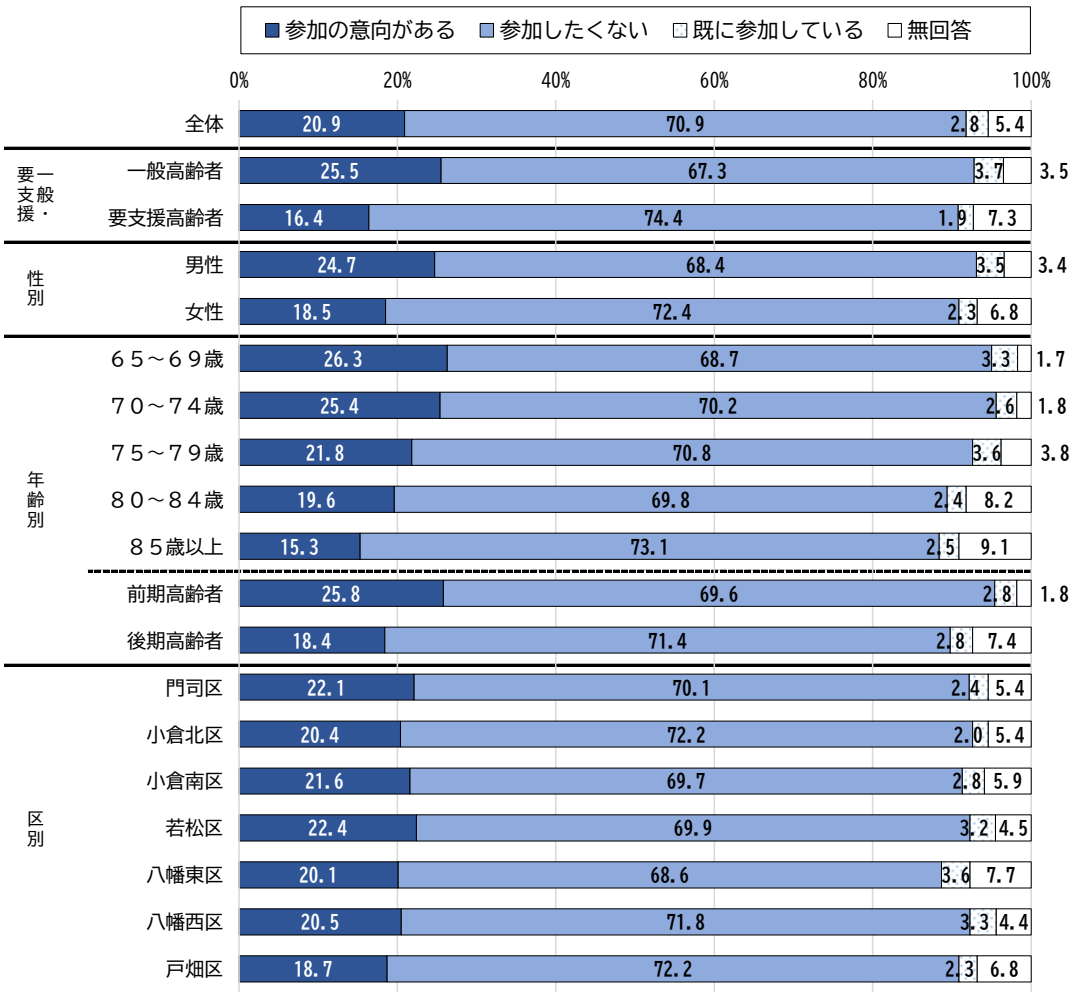
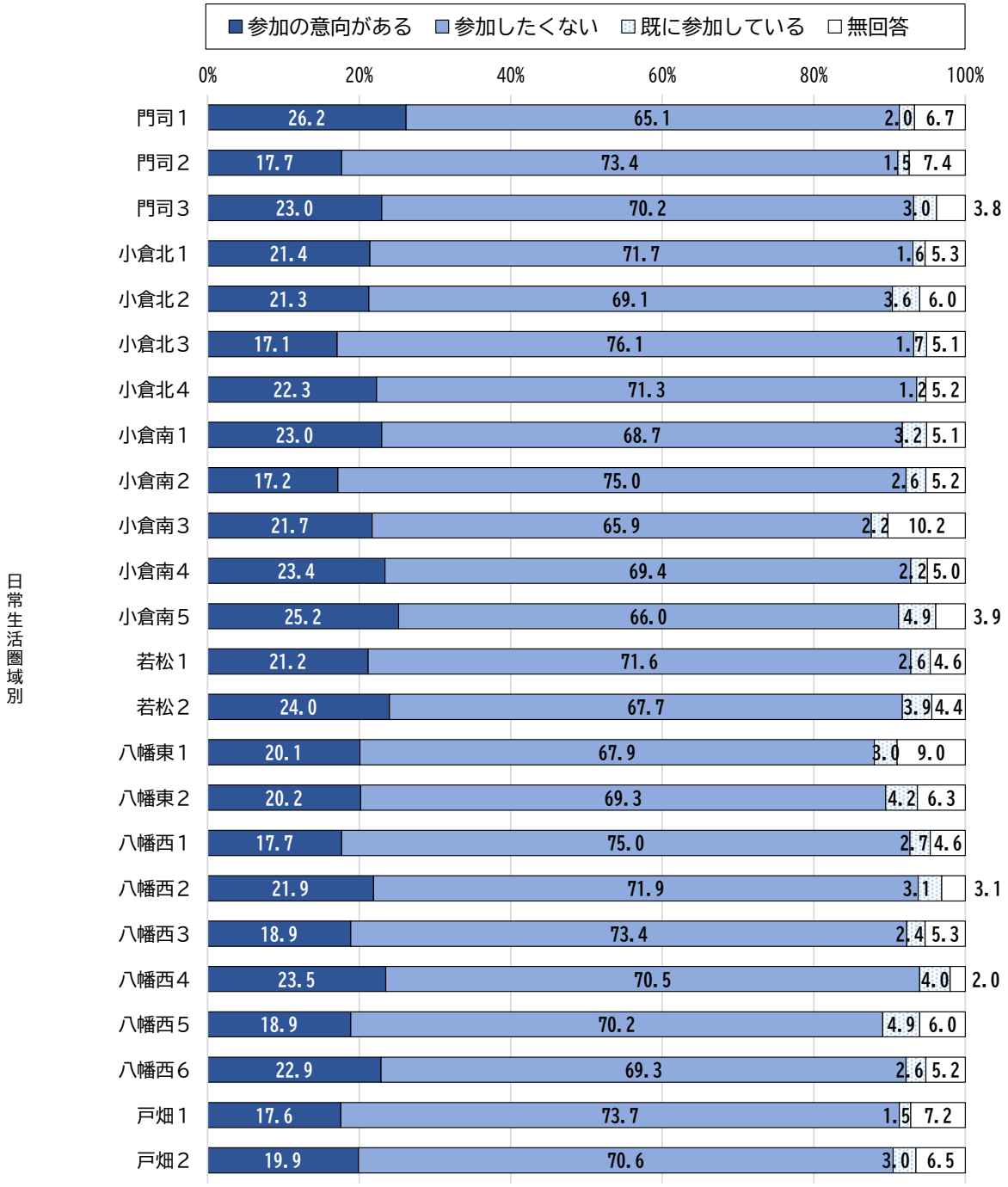


図 4-10-②　地域活動の企画・運営への参加意向　【日常生活圏域別】



２．たすけあいについて

（１）心配事や愚痴を聞いてくれる人

問６-Ｑ１　あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人がいますか。

配偶者や近隣の方等、自身の心配事や愚痴を聞いてくれる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「いる」と回答した割合が 92.1%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 94.2%、要支援高齢者が 90.2%となっており、一般高齢者が 4.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 89.9%、女性が 93.7%となっており、女性が 3.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、前期高齢者が 93.5%、後期高齢者が 91.5%となっており、前期高齢者がやや高くなっている。

図 4-11-①　心配事や愚痴を聞いてくれる人　【全域】

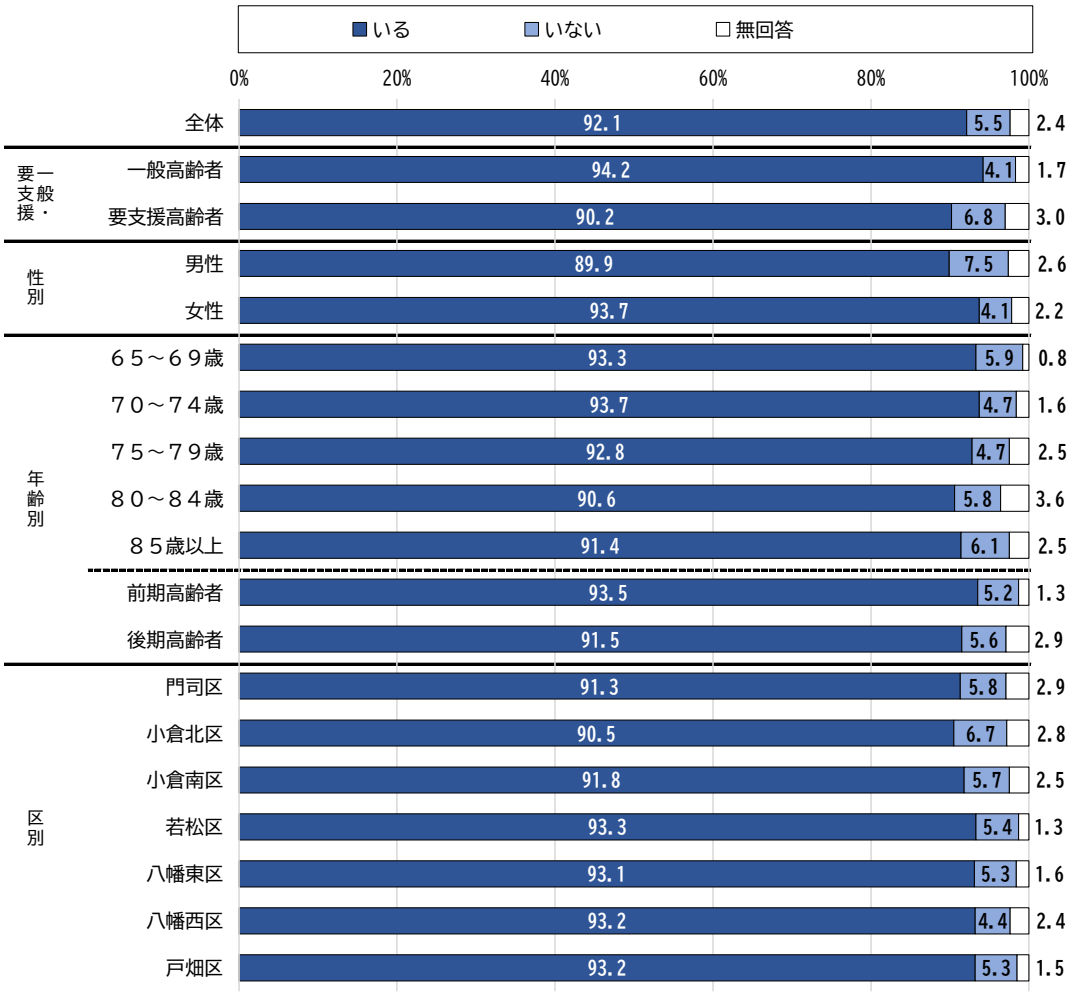
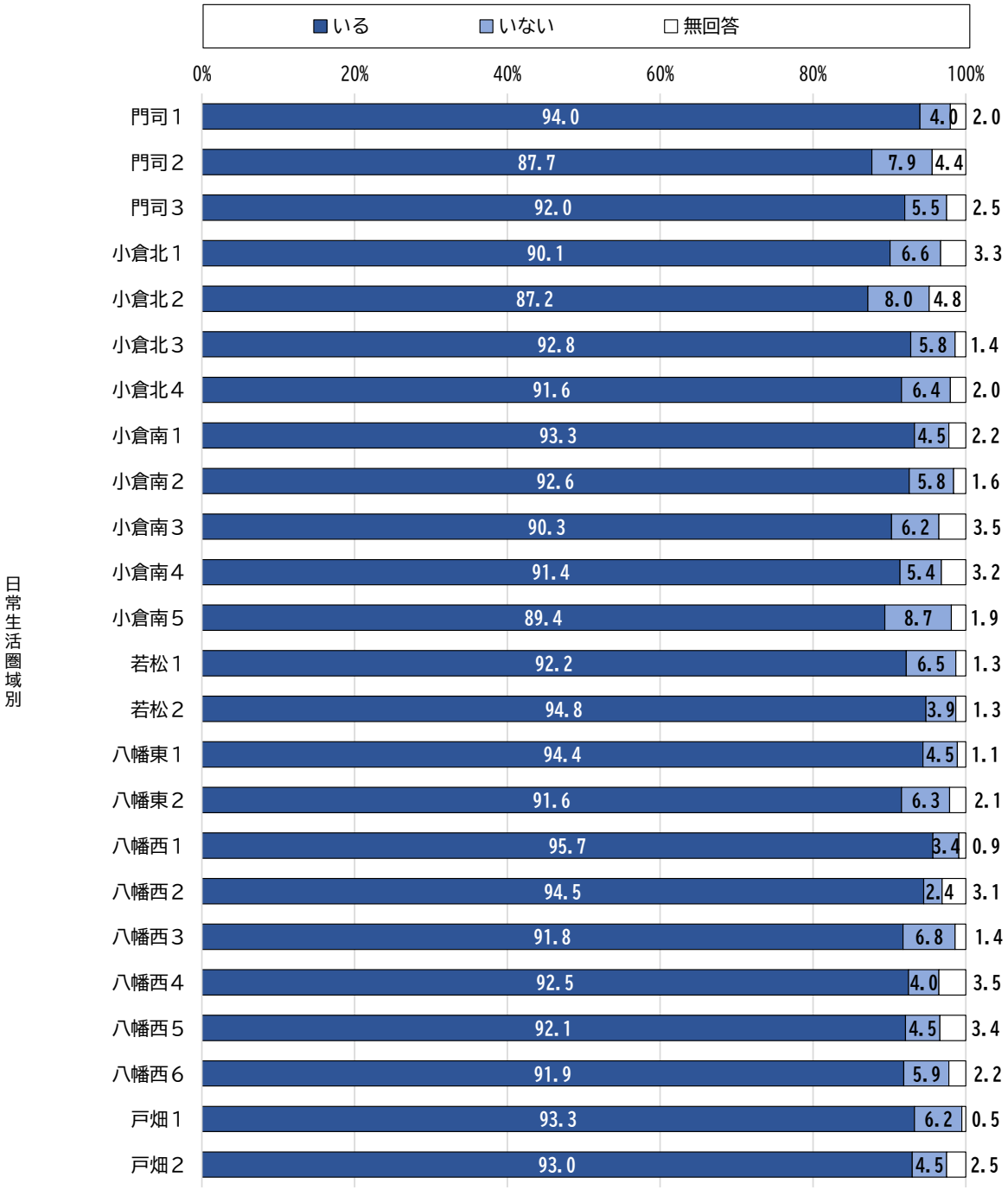


図 4-11-②　心配事や愚痴を聞いてくれる人　【日常生活圏域別】



（２）心配事や愚痴を聞いてあげる人

問６-Ｑ２　あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人がいますか。

自身が心配事や愚痴を聞いてあげる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「いる」と回答した割合が 85.9%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 90.8%、要支援高齢者が 80.8%となっており、一般高齢者が 10.0 ポイント高くなっている。

男女別にみると、男性が 84.6%、女性が 86.6%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、65～69 歳が 92.8%と最も高くなっており、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が 92.0%、後期高齢者が 82.7%となっており、前期高齢者が 9.3 ポイント高くなっている。

図 4-12-①　心配事や愚痴を聞いてあげる人　【全域】

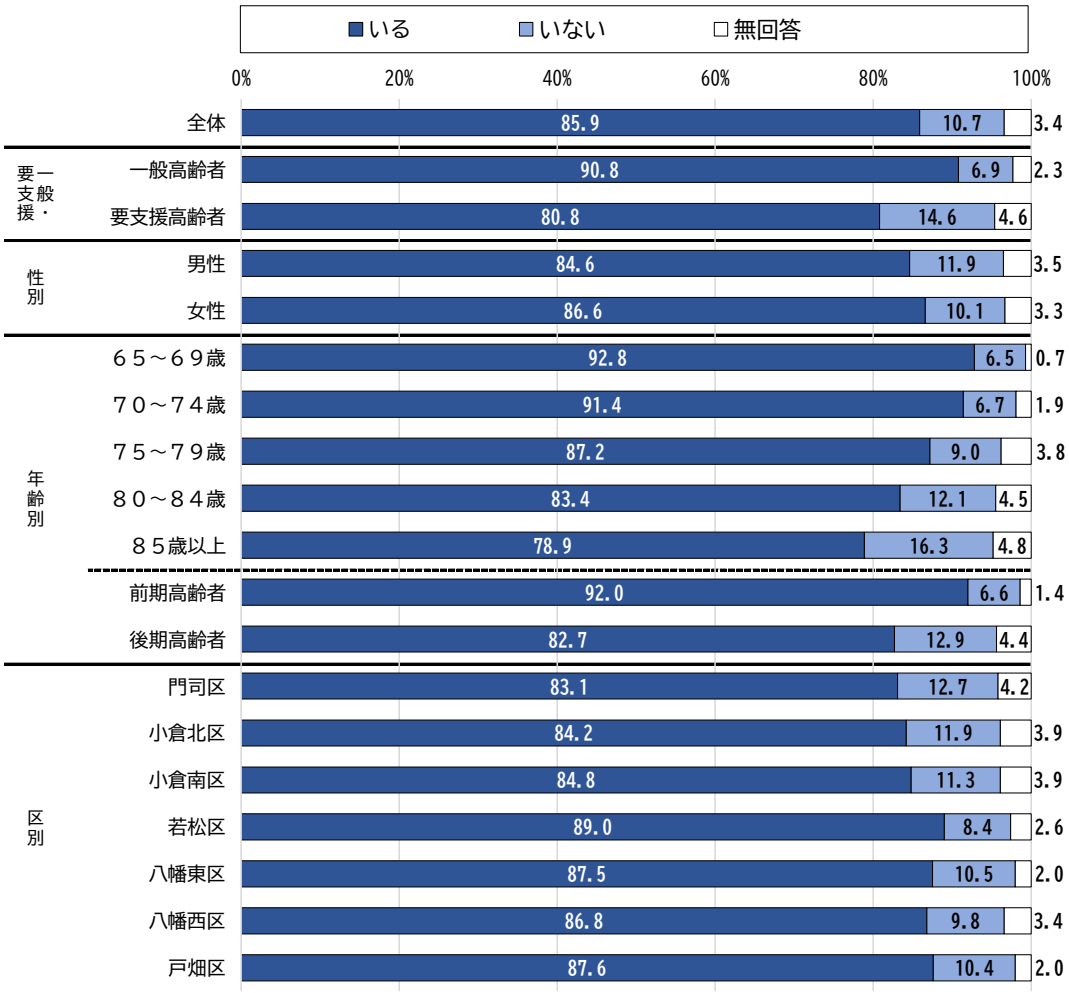
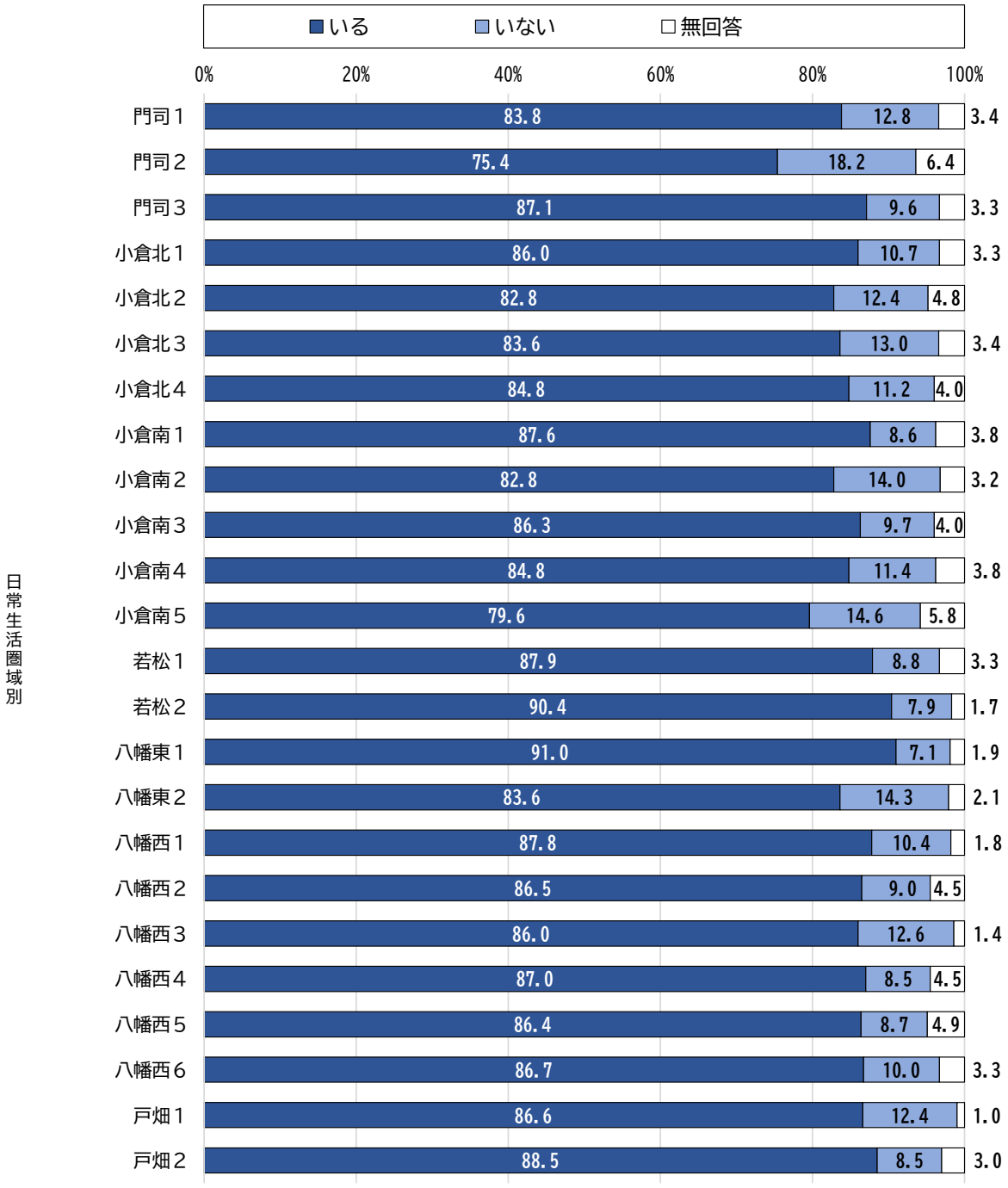


図 4-12-②　心配事や愚痴を聞いてあげる人　【日常生活圏域別】



（３）看病や世話をしてくれる人

問６-Ｑ３　あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいますか。

自身が病気で寝込んだときに、配偶者や同居の方等、看病や世話をしてくれる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「いる」と回答した割合が 88.6%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 91.5%、要支援高齢者が 85.5%となっており、一般高齢者が 6.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 89.7%、女性が 88.2%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも 8 割以上となっているが、80～84 歳が 84.7%と他の年齢層に比べてやや低くなっている。また、前期高齢者が 90.8%、後期高齢者が 87.7%となっており、前期高齢者が 3.1 ポイント高くなっている。

図 4-13-①　看病や世話をしてくれる人　【全域】

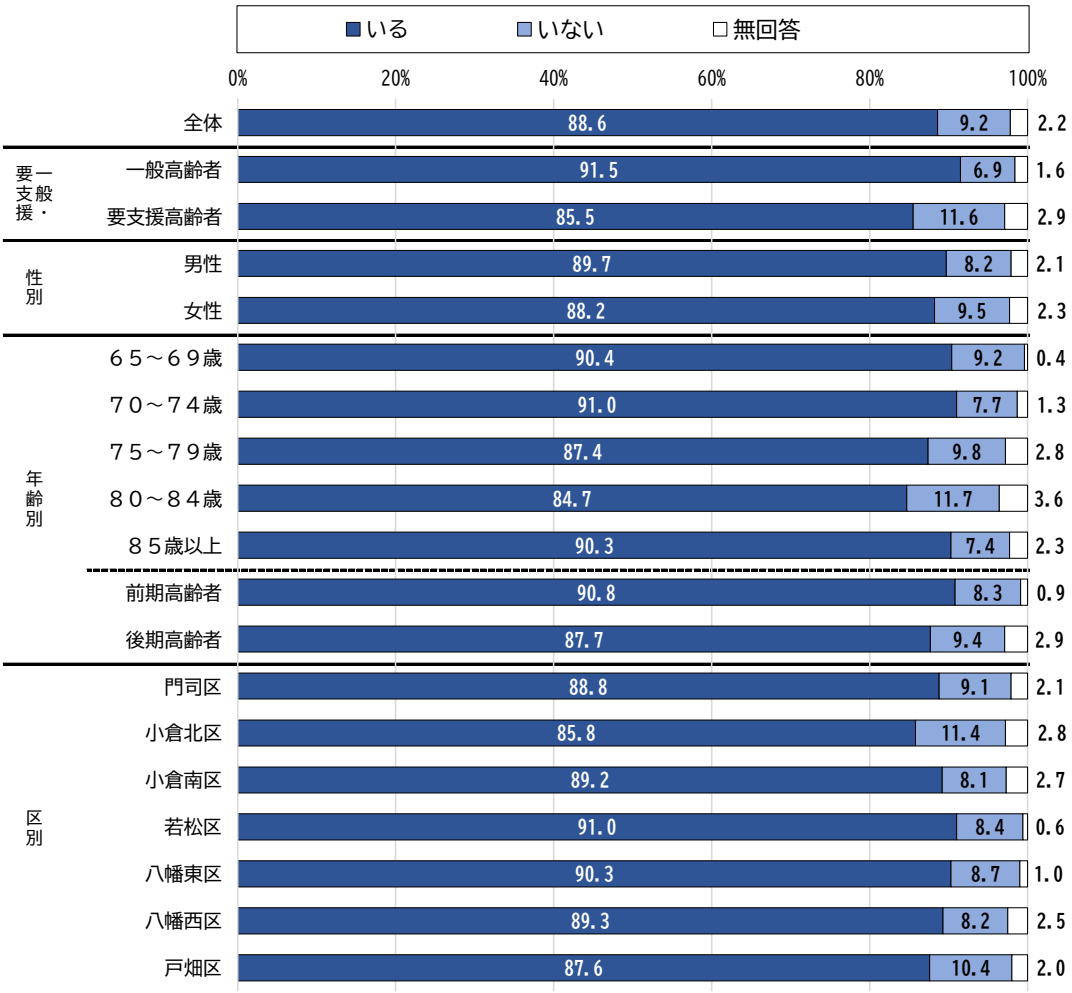
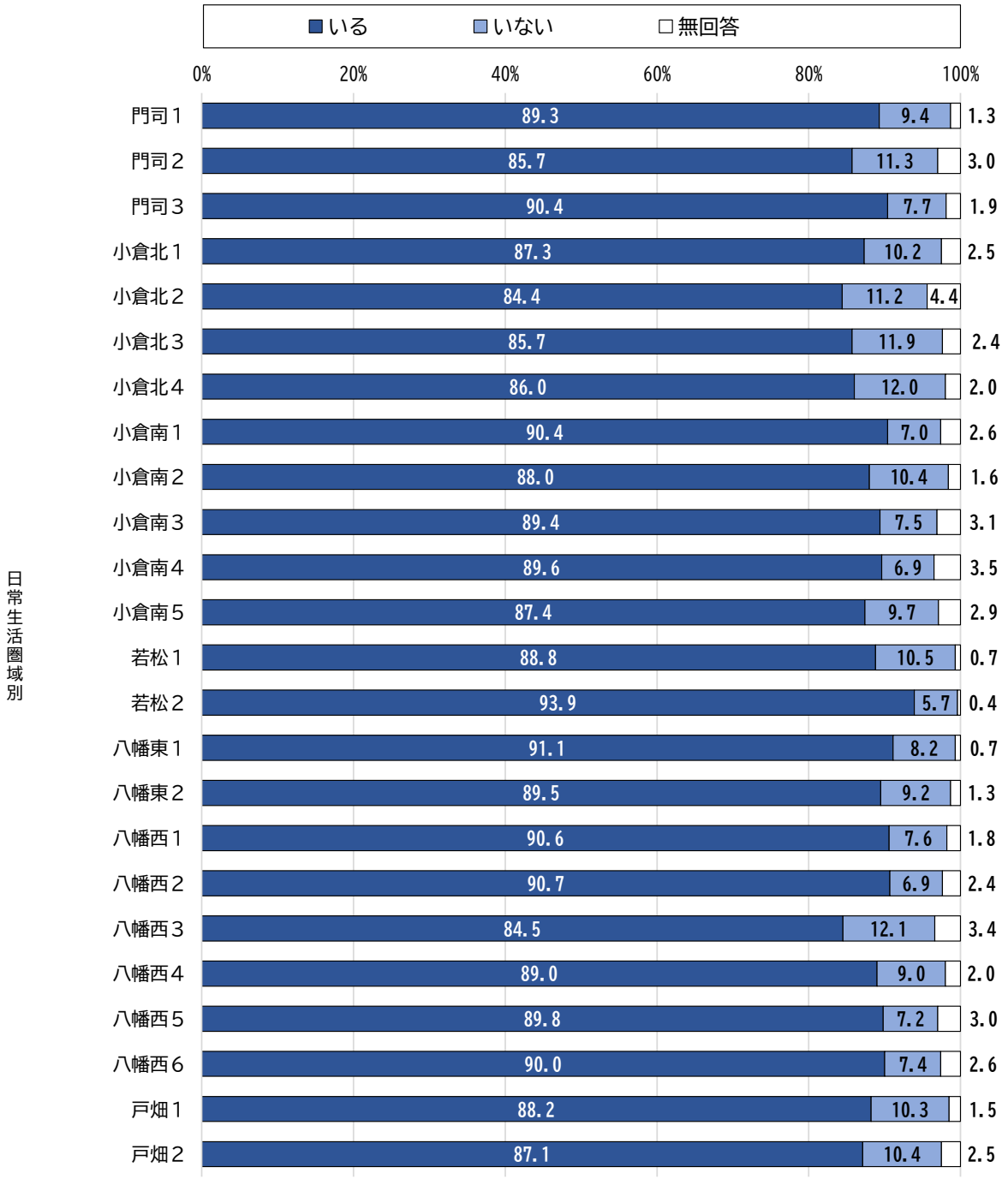


図 4-13-②　看病や世話をしてくれる人　【日常生活圏域別】



（４）看病や世話をしてあげる人

問６-Ｑ４　看病や世話をしてあげる人がいますか。

自身が看病や世話をしてあげる相手がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「いる」と回答した割合が 72.2%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 84.2%、要支援高齢者が 60.2%となっており、一般高齢者が 24.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 78.2%、女性が 68.5%となっており、男性が 9.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて「いる」の割合は減少しており、85 歳以上では 56.8%と他の年齢層に比べて低くなっている。また、前期高齢者が 84.8%、後期高齢者が 65.8%となっており、前期高齢者が 19.0 ポイント高くなっている。

図 4-14-①　看病や世話をしてあげる人　【全域】

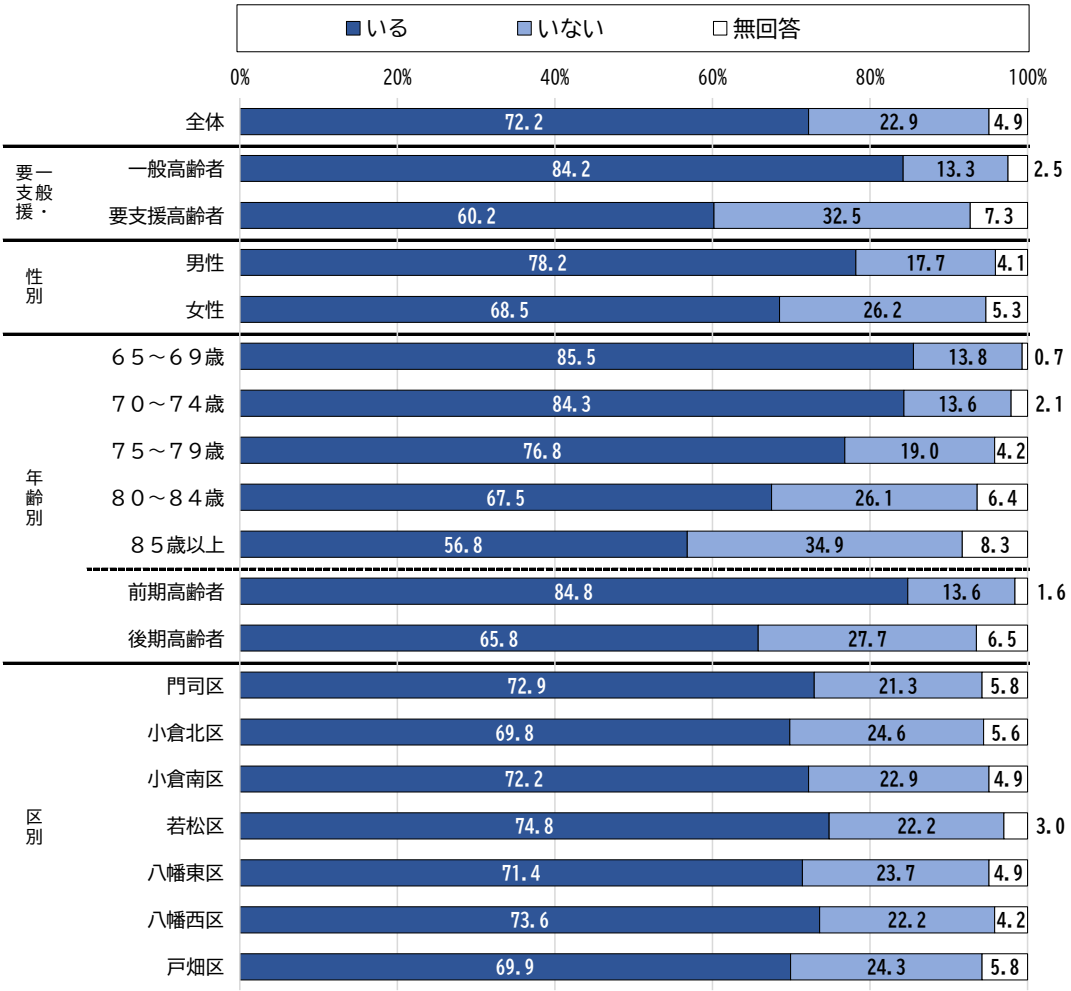
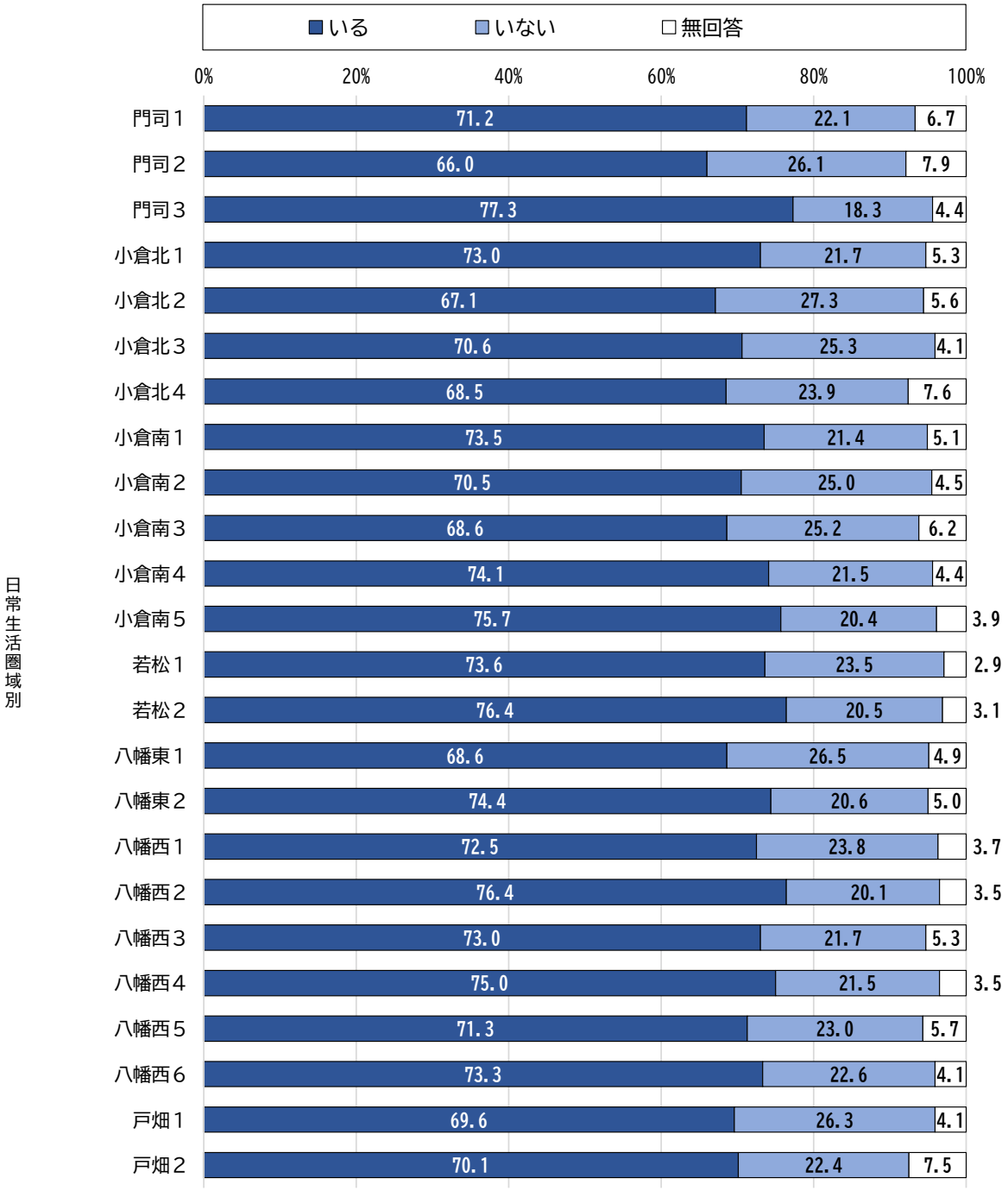


図 4-14-②　看病や世話をしてあげる人　【日常生活圏域別】



３．認知症に係る相談

（１）自身や家族の認知症の症状

問８-Ｑ１　認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

自身に認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状があるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「はい」と回答した割合が 10.7%となっている。

「はい」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が 9.3%、要支援高齢者が 12.0%と要支援高齢者がやや高くなっている。

男女別にみると、男性が 11.8%、女性が 9.9%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、80～84 歳が 13.9%と他の年齢層に比べてやや高くなっている。また、前期高齢者が 8.4%、後期高齢者が 11.8%となっており、後期高齢者が 3.4 ポイント高くなっている。

図 4-15-①　自身や家族の認知症の症状　【全域】

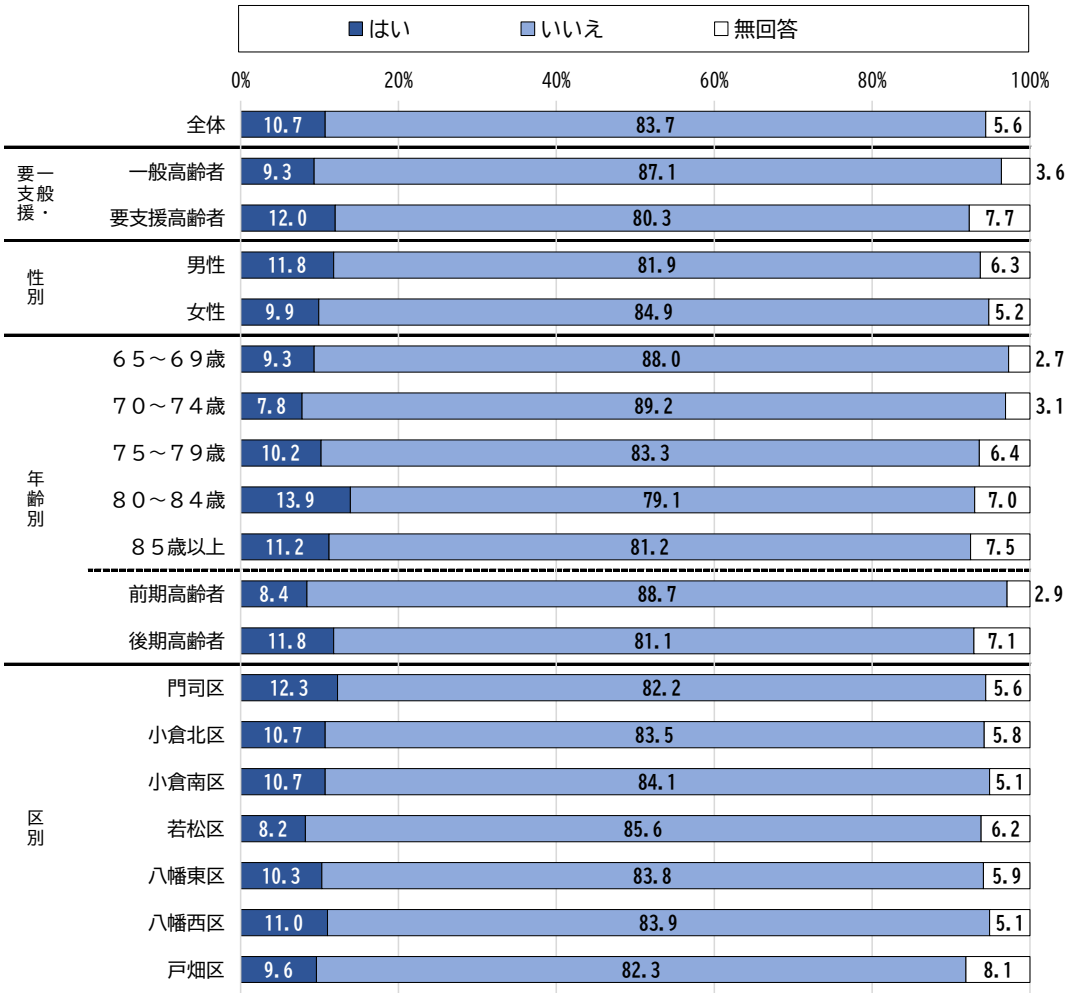
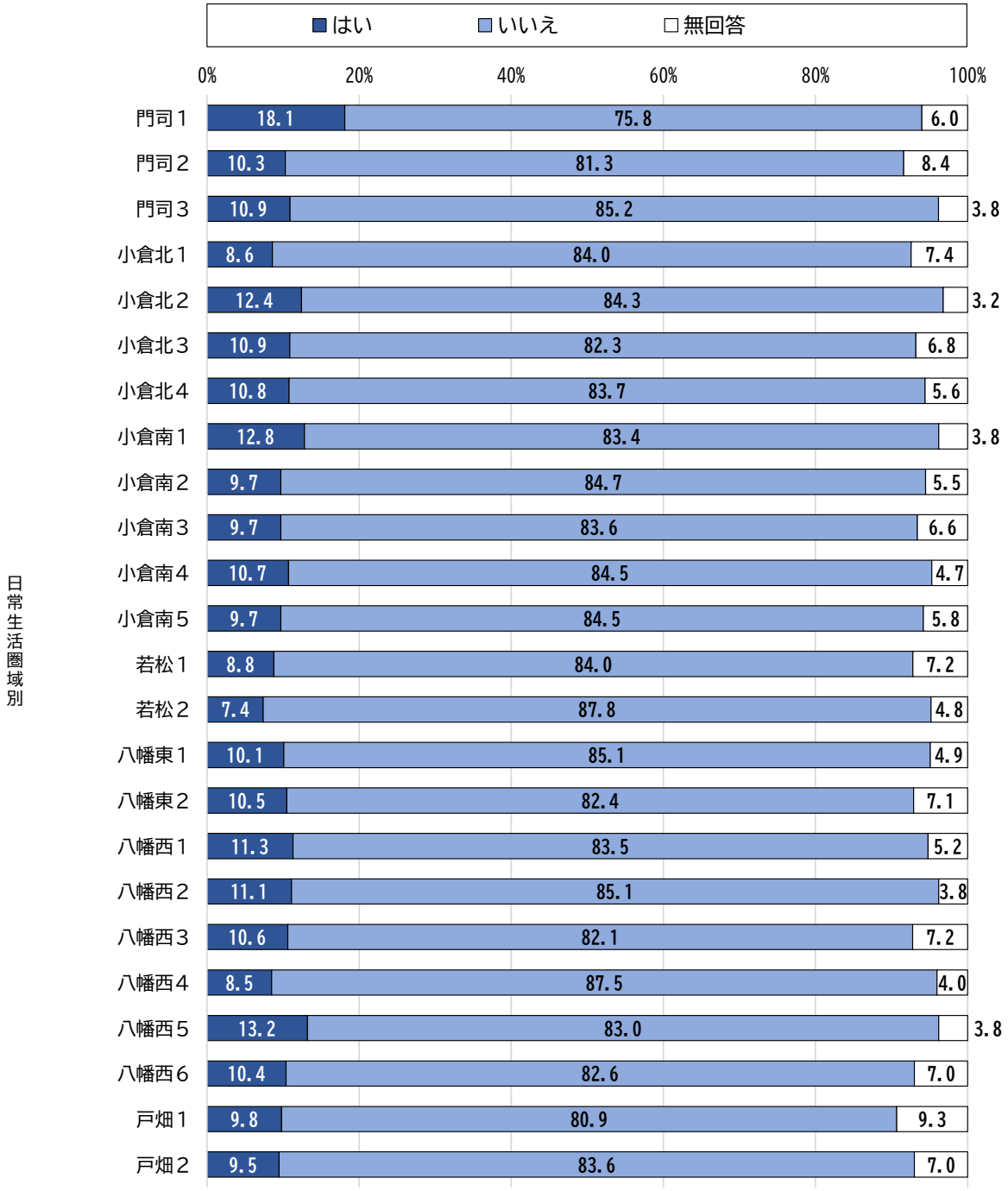


図 4-15-②　自身や家族の認知症の症状　【日常生活圏域別】



（２）認知症に関する相談窓口の把握

問８-Ｑ２　認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口を知っているかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「はい」と回答した割合が 23.9%となっている。

「はい」の割合を一般・要支援別にみると、大きな差はみられない。

性別にみると、男性が 21.6%、女性が 25.4%となっており、女性が 3.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、大きな差はみられない。また、前期高齢者・後期高齢者においても大きな差はみられない。

図 4-16-①　認知症に関する相談窓口の把握　【全域】

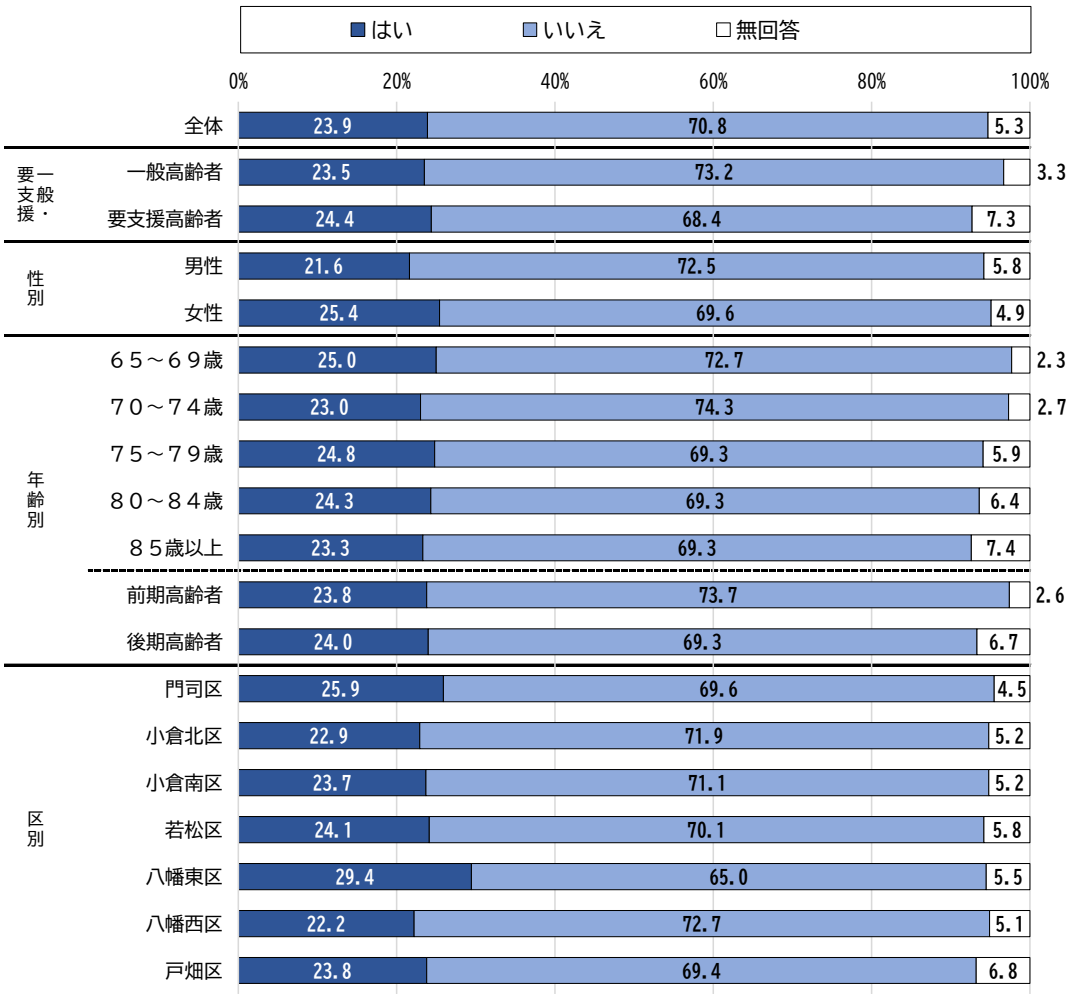
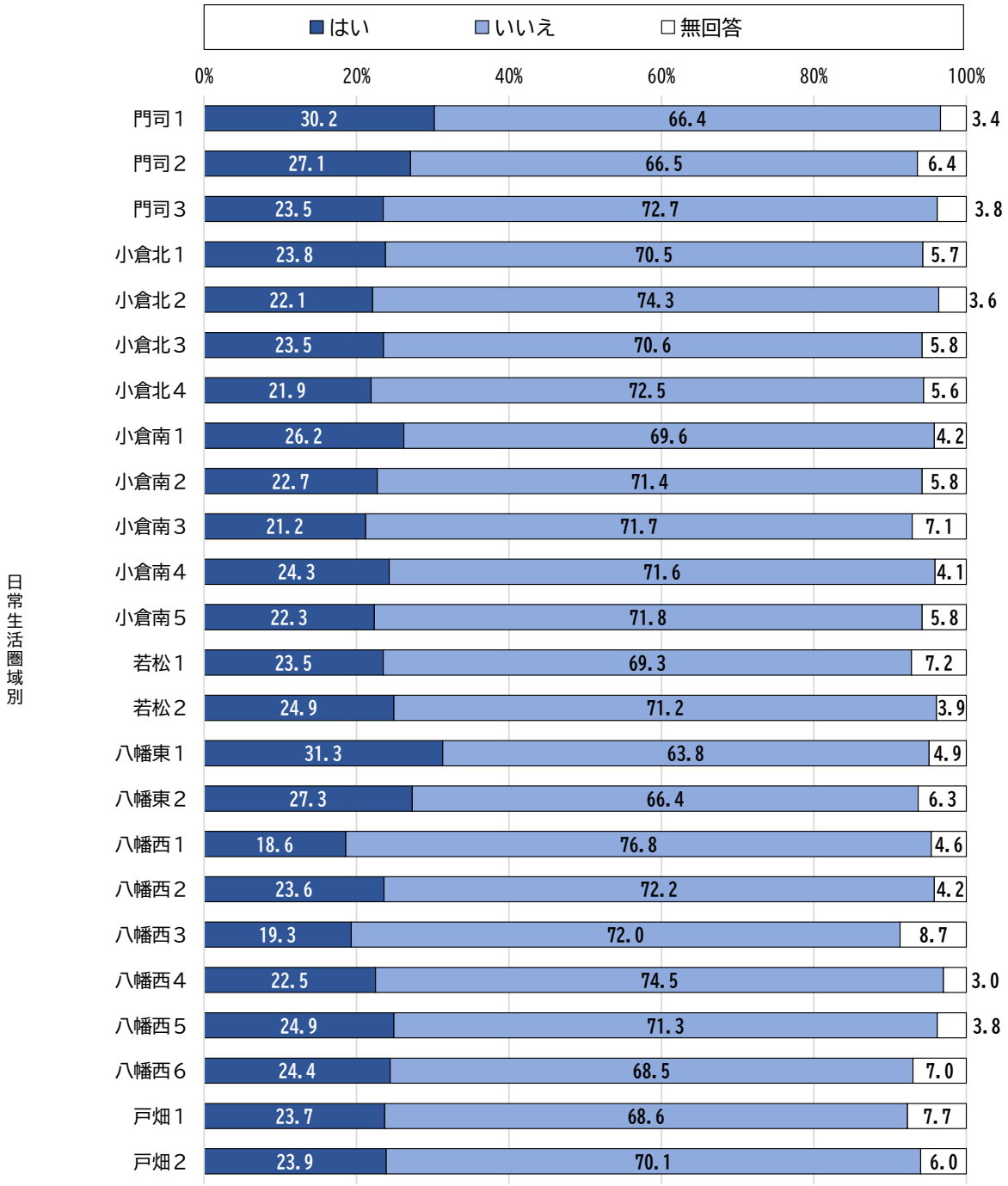



図 4-16-②　認知症に関する相談窓口の把握　【日常生活圏域別】